

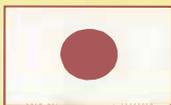
課内保存用

※配付厳禁※

平成17年度 ジュニアスタディーツアー

Junior Study Tour 2005

報告書



日本



ブラジル



アルゼンチン



ペルー



ボリビア



アメリカ



カナダ



フィリピン



イギリス

◎ 沖縄県

沖縄県コンベンション事業協同組合

はじめに

ジュニアスタディーツアーは、海外の沖縄県系人子弟を本県に招待し、県内の中・高校生とともに、沖縄の歴史、文化、自然等について学び、母県・沖縄との絆を深めることにより、県系人社会の発展と次世代のウチナーネットワークの担い手を育成する事を目的とする事業です。

本事業は、平成13年7月に「第3回世界のウチナーンチュ大会」のプレイベントとして実施しましたが、海外県人会等からの強い継続要望を受け、平成14年度から継続して実施しています。

平成17年度は、平成17年7月21日から7月27日の一週間の日程でツアーを実施しました。今回のツアーには、海外8カ国13の沖縄県人会から参加者17名と引率者5名、沖縄県内の中学生4名、高校生15名が参加し、県内各地で様々な体験学習を行い、無事全日程を終了しました。

ツアー期間中、参加者は首里城見学を通して沖縄の歴史について学ぶとともに、伝統工芸・芸能体験学習を通して琉球王朝時代に育まれた沖縄の伝統文化に触れました。また、国際通りの散策、海水淡水化施設の見学等を通して現在の沖縄についても学習しました。さらに平和学習では、戦争体験者から直接体験談を聞くことにより戦争の悲惨さと平和の尊さを学び、自然学習では様々な体験を通して沖縄の自然も十二分に満喫したことと思います。

参加者の皆さんは、このツアーを通して、沖縄について深く学ぶとともに、お互いの交流を通して友情を育み、世界に広がるウチナーネットワークを実感することができたと思います。

この報告書は、参加者や引率者の感想文とツアー日程や写真等をまとめたものです。この冊子が生涯に亘る記念になるとともに、参加者の皆さんが、このツアーでの経験をきっかけとして世界へ視野を広げ、将来、様々な分野で沖縄と世界の架け橋となる国際人として活躍する事を期待しています。

また、来年10月には第4回世界のウチナーンチュ大会を実施いたしますが、今回のジュニアスタディーツアーにおける様々な経験や、交流を通して育まれた友情を基に、皆さん一人ひとりが新たなネットワークの担い手として積極的に関わることを期待しております。

終わりに、平成17年度ジュニアスタディーツアーの実施に御協力を頂いた多くの関係者の皆様に感謝の意を表し、発刊のあいさつといたします。

平成17年10月

沖縄県観光商工部長 宜名真 盛男

ジュニアスタディーツアー報告書

目次

はじめに
報告書目次

■事業概要	1
■スケジュール（日本語版・英語版・スペイン語版・ポルトガル語版）	2
■学習エリアMAP	6
■記録写真	
海外参加者出迎え／7月13日(水)～7月19日(火)	8
7月21日(木)／歓迎セレモニー、オリエンテーション、 交流プログラム、ウェルカムパーティー	9
7月22日(金)／自然学習（トレッキング）、キャンプファイヤー	10
7月23日(土)／自然学習（美ら海水族館見学、 マリンスポーツ体験、スイミング体験）	11
7月24日(日)／伝統芸能体験学習（三線・琉球舞踊・エイサー） ワークショップ（沖縄の移民の歴史学習）	12
7月25日(月)／歴史学習（首里城等見学） 伝統工芸体験学習（紅型・琉球漆器・首里織）	13
7月26日(火)／平和学習（レクチャー、平和祈念資料館・平和の礎見学） 社会学習（国際通り散策）	14
7月27日(水)／学習体験発表（三線・琉球舞踊・エイサー） 講話（沖縄TV前原氏）、修了式、さよならパーティー	15
7月28日(木)～29日(金)／帰国・見送り	16
■ジュニアスタディーツアーに参加して	
海外参加者レポート	17
県内参加者レポート	70
海外引率者レポート	92
■資料編	
受入実績（平成13年度～平成17年度）	103
参加者名簿（平成13年度～平成17年度迄の海外・県内・県外参加者）	104
協力者一覧、制作物	115
Tシャツデザイン	116
参加申込書	117
歓迎セレモニー式次第、ウェルカムパーティー式次第	118
修了式及びさよならパーティー式次第	119
グループ割表	120
部屋割表	121
新聞記事	122
世界で活躍するウチナンチュ	126

感想文人名別索引

■海外参加者

大城直美 マヤラ (ブラジル)	17
MAYARA NAOMI DE ALCANTARA OSHIRO	
宮城明子 ベアトリス (ブラジル)	19
BEATRIZ AKIKO MIYASHIRO	
川波エンリッケ ケンジ (ブラジル)	21
HENRIQUE KENJI KAWANAMI	
屋宜宣広 アレハンドロ (アルゼンチン)	23
ALEJANDRO DANIEL YAGI	
岸本ユカリ (アルゼンチン)	26
YUKARI KISHIMOTO	
仲里国頭 エミ カロリーナ (ペルー)	28
EMY CAROLINA NAKASATO KUNIGAMI	
亀甲亀甲 たかし アレハンドロ (ペルー)	31
TAKASHI ALEJANDRO KAMEGO KAMEKO	
親川千草 カサンドラ (ボリビア)	34
CHIGUSA CASANDRA OYAKAWA	
ジャンニ ブラジル (ボリビア)	37
JANNY BRASIL TAMASHIRO	

■県内参加者

具志堅靖知 GUSHIKEN YASUTOMO	70
城間ひかる SHIROMA HIKARU	71
伊地侃海 ICHI TADAMI	73
又吉奈保子 MATAYOSHI NAOKO	74
金城千尋 KINJO CHIHIRO	75
幸地長治 KOUCHI CHOUJI	77
金城エリナ KINJO ERINA	78
大城奈々 OSHIRO NANA	79
玉城美優 TAMAKI MIYU	80
山城杏奈 YAMASHIRO ANNA	81

■海外引率者

松堂忠顕 (ブラジル沖縄県人会)	92
新里ファビアナ カルメン (在亜沖縄県人連合会)	94
安座間喜屋武 シェイラー パトリシア (ペルー沖縄県人会)	96
牧志啓和 (ユタ州沖縄県人会)	100
伊敷久子 (イギリス沖縄県人会)	101

ヤマシロ ミッシェル (アメリカ)	40
MICHELLE ALEXANDRA YAMASHIRO	
イタリアーノ チャンス ケンイチ (アメリカ)	46
CHANCE KENICHI ITALIANO	
イーズリー マケーナ ヴィカーシャ (アメリカ)	51
MCKENNA VIKASHAA EASLEY	
ラックエル 笑美 コンドン (アメリカ)	56
RAQUEL EMI CONDON	
クリストファー ジョシア ワールターズ (アメリカ)	58
CHRISTOPHER JOSHUA WALTERS	
ジョーダン カミオ サワダ (カナダ)	60
JORDAN KAMIO SAWADA	
ジャスミン マリー ドフレド デ ヘスス(フィリピン)	63
JASMINE MARIE DE JESUS	
ゴンザレス 優子 エリザベス (イギリス)	67
YUKO ELIZABETH GONZALES	

宇根あみ菜 UNE AMINA	82
大城李理子 OSHIRO RIRIKO	83
斉藤愛里 SAITO AIRI	84
又吉扶 MATAYOSHI TASUKU	85
上原麻衣 UEHARA MAI	86
小那覇祥子 ONAHA SHOKO	87
番園亨 BANZONO TORU	88
翁長琴乃 ONAGA KOTONO	89
伊良部夏美 IRABU NATSUMI	90

平成17年度 ジュニアスタディーツアー 事業概要

1. 趣 旨

海外沖縄県系人子弟を沖縄県に招待し、県内の児童生徒とともに沖縄の歴史、文化、自然などの体験学習をとおして母県・沖縄との絆を深めることにより、海外の沖縄県系人社会の発展と将来のウチナーネットワークを担う次世代の人材育成に貢献する。

2. 事業概要

実施期間 平成17年7月21日(木)～7月27日(水)

・来沖日：7月13日(水)～7月20日(水) (一部離島参加者は21日(木)那覇着)

・離沖日：7月28日(木)～7月29日(金)

参加者

○海外参加者

14歳～18歳までの沖縄県系人子弟17名

※国別内訳(8カ国・17名)

ブラジル	3名	アメリカ合衆国	5名
アルゼンチン	2名	カナダ	1名
ペルー	2名	フィリピン	1名
ボリビア	2名	イギリス	1名

○県内参加者

沖縄県内の中学・高校生19名(中学生4名、高校生15名)

○海外引率者

海外参加者の引率及び通訳の役割5名

ブラジル、アルゼンチン、ペルー、アメリカ、イギリス 各1名

学習プログラム

①自然学習

沖縄の自然や動植物等に触れ合いながらその大切さを学ぶ。

②歴史学習

沖縄の歴史的な史跡等を巡り、沖縄が琉球王国だった頃の歴史とロマンに触れる。

③伝統工芸・芸能体験学習

沖縄の伝統工芸・芸能の体験学習を行う。

④平和学習

沖縄の戦跡等を巡りながら、平和の意味を考える。

⑤社会学習

沖縄県庁見学、国際通り散策等をとおして沖縄の現状を学ぶ。

平成17年度 ジュニアスタディーツアースケジュール

日付 日時	7/13(水)~20(水)	7/21(木)	7/22(金)	7/23(土)	7/24(日)	7/25(月)	7/26(火)	7/27(水)	7/28(木)~29(金)	
06:00			6:30 起床	7:00 起床	6:30 起床	6:30 起床	6:30 起床			
07:00	海外・離島参加者到着日		7:00 朝食 8:00 出発	7:00 朝食 8:00 朝食	7:00 朝食 8:30 出発	7:00 朝食 8:10 出発	7:00 朝食 8:00 出発		海外・離島参加者出発日	
08:00						8:45 首里城着			7/28 8:35 JAL1900 イギリス	
09:00	7/21 9:00 JTA600 石垣島		自然学習(山) 10:30 到着~レクチャー	自然学習(海1) 10:00 海洋博公園「美ら海水族館」見学	9:00 恩納村コミュニティセンター到着 文化学習(伝統芸術体験) 指導:恩納村商工会の専門員 ①三線体験 ②琉球舞踊体験 ③エイサー体験	御庭にてレクチャー後、 ・「首里城」見学 ~「闘比屋武御殿石門」見学 ~「玉陵」見学	平和学習 9:00 平和祈念資料館到着 9:15 講堂でレクチャー その後資料館視察~平和の礎 ~公園内散策	↑ ホーム ステイ 先で アレ ン ジ ↓	7/28 9:50 JTA182 ペルー 7/28 10:05 ANA1732 アメリカ、カナダ	
10:00		海外参加者・本島参加者 県庁集合 (Tシャツ・名札等配布)	自然学習(山) 10:30 到着~レクチャー	10:00 海洋博公園「美ら海水族館」見学						
11:00		11:00 歓迎レモニー/県民ホール 11:25 記念写真撮影	恩納村 「比地の大滝」トレッキング	12:30 昼食:もとぶ元氣村ポットハウス前	11:30 昼食「うんな祭り会場」 12:20 移動	12:30 昼食:首里金城町 「お食事と民俗資料館・石畳瑞盛館」	11:30 公園内でランチBOX 12:20 出発			7/28 12:30 JAL1906 ブラジル、アルゼンチン、ポリビア
12:00	7/19 12:15 PR428 フィリピン	昼食「クローバーリーフ」 (県庁地下レストラン)	12:00 昼食:途中で「ランチBOX」	12:30 昼食:もとぶ元氣村ポットハウス前	12:20 移動	12:30 昼食:首里金城町 「お食事と民俗資料館・石畳瑞盛館」	13:30 マチグアー入口到着 社会学習(沖縄の暮らしを知る)			
13:00		13:00 県庁出発後歩でレインボーホテルへ	↓	自然学習(海2 マリン体験)	13:30 社会学習(沖縄の産業を知る) 13:30	13:30 出発 文化学習(伝統工芸体験)	13:30 マチグアー入口到着 社会学習(沖縄の暮らしを知る)			7/28 13:45 JTA213 久米島
14:00		13:30 ①オリエンテーション 14:00 ②各国参加者自己紹介 グループ分/リーダー決め/部署割 15:00 ③自国の概要紹介	14:30 トレッキング終了 ~ベンションへ移動	13:30 もとぶ元氣村で体験 オリエンテーションの後に、全員で 「サバニ体験~サバニレース」 15:00 終了 ベンションキャロライナへ移動	北谷町の「海水淡化施設」見学 社会・歴史学習「ワークショップ」 15:00~ JICA沖縄で テーマ 沖縄の移民の歴史学習 ※進行:沖縄NGO活動推進協議会	14:00 那覇市伝統工芸館到着 到着後、沖縄の工芸VTR 及び展示室視察~ガラス・陶器・漆器・ 首里織り・紅型工房の見学。	14:00 マチグアー散策~ ~国際通り~県庁へ			7/28 14:45 JTA613 石垣島
15:00										
16:00	7/20 16:25 JTA518 宮古島	17:00 ④各国の言葉学習 ⑤交流プログラム	17:00 ベンション到着 17:30 キャンプファイヤー準備 バーベキュー用意 ~食事~	18:30 食事	18:30 夕食:JICA沖縄レストラン	15:30 伝統工芸体験学習 ①紅型 ②琉球漆器 ③首里織	16:00 集合 那覇ぶんかテンプス ホール 17:20~18:10 学習体験成果発表会 18:20~18:50 OTV前原氏の講話 19:00~19:30 修了式 19:50 さよならパーティー 21:00 終了、解散			7/28 16:30 JTA547 宮古島 7/29 17:00 PR429 フィリピン
17:00							17:00 県庁で解散。 各々ホームステイ先へ			
18:00		19:00 ⑥ウェルカムパーティー	19:30 キャンプファイヤースタート	19:30 交流会 ※参加者の自主企画で実施	19:30 ホテルへ移動	18:00 出発(夕食場所へ) 18:30 夕食:那覇市松山ワンダラー 19:30 ホテルへ移動				
19:00	7/20 19:30 JTA222 久米島	20:15 ウェルカムパーティー終了			20:15 ホテル到着	20:00 翌日のマチグワー散策のエンターテイン				
20:00	7/14 21:00 ANA1737 アメリカ、カナダ	20:30 グループミーティング& リーダーミーティング		20:30 終了	21:00 リーダーミーティング※引率者同席	21:00 リーダーミーティング※引率者同席				
21:00	7/14 21:45 JTA189 ペルー、イギリス	21:00 引率者及び主催者ミーティング	21:30 リーダーミーティング※引率者同席	21:00 リーダーミーティング※引率者同席	21:00 リーダーミーティング※引率者同席	21:00 リーダーミーティング※引率者同席				
22:00	7/13 22:10 JAL1935 ブラジル、アルゼンチン、ポリビア	消灯	消灯	消灯	消灯	消灯				
宿 泊	ホームステイ (親戚・知人宅)	レインボーホテル	ベンションキャロライナ	ベンションキャロライナ	レインボーホテル	レインボーホテル	ホームステイ (親戚・知人宅)	ホームステイ (親戚・知人宅)		

スケジュール(日本語、Japanese)

Junior Study Tour 2005 Schedule

Day	July 13 (Wed) - July 20 (Wed)	July 21 (Thu)	July 22 (Fri)	July 23 (Sat)	July 24 (Sun)	July 25 (Mon)	July 26 (Tue)	July 27 (Wed)	July 28 (Thu) - July 29 (Fri)	
6:00										
7:00	Arrival in Okinawa		6:30 Wake-up time 7:00 Breakfast	7:00 Wake-up time	6:30 Wake-up time 7:00 Breakfast	6:30 Wake-up time 7:00 Breakfast	6:30 Wake-up time 7:00 Breakfast			
8:00			8:00 Departure	8:00 Breakfast	8:30 Departure	8:10 Departure	8:00 Departure		28-Jul 8:35 JAL1900 UK	
9:00	21-Jul 9:00 JTA600 Ishigaki				9:00 Arrival at Onna Village Community Center Culture Study (Traditional Performing Arts Class)	9:00 History Study Lecture	Peace Study 9:00 Arrival at Peace Memorial Museum 9:15 Lecture Museum Tour~Cornerstone of Peace~Stroll in the park	ホー ム ス タ イ Homestay	28-Jul 9:50 JTA182 Peru 28-Jul 10:05 ANA1732 USA,Canada	
10:00		Assembly in Okinawa Prefectural Building;Distribution of t-	Nature Study(Mountain Tour) 10:30 Arrival/ Lecture "Trekking in the Great Hiji Falls"	10:00 Ocean Expo Park Aquarium	10:00 Ocean Expo Park Aquarium	Shuri-jo Castle Study Tour Tamaudun and Sonohyan-utaki-ishimon				
11:00		11:25 Commemorative photo			11:30 Lunch		11:30 Lunch			
12:00	19-Jul 12:15 PR428 Philippines	12:00 Lunch 13:00 Departure	12:00 Lunch	12:30 Lunch Nature Study (Marine Tour 2) 13:30 Sabani (Okinawan traditional boat)	12:20 Departure Social Study	12:30 Lunch 13:30 Departure	12:20 Departure		28-Jul 12:30 JAL1906 Brazil,Argentina,Bolivia 28-Jul 13:45 JTA213 Kume	
13:00		13:30 Orientation			13:30 Orientation in Sea Desalination Facility of Chatan	Culture Study (Traditional Craftwork Class)	13:30 Arrival at entrance of Market Place Social Study (Knowing about the Okinawan lifestyle)			
14:00		14:00 Participants' Self-Introduction * Group and Group Leader Assignments; Room Allocations 15:00 Participants' introduction of their countries	14:30 End of Trekking 15:00 Head to Pension Carolina		14:30 Departure Social/ History Study 15:00 Workshop (Study of Okinawa's Migration History) at JICA Okinawa International Center	14:00 Okinawa Craftwork VTR Exhibition Hall Tour~Ryukyuan Glass, Pottery, Lacquer-ware Shuri-ori weaving, Bingata dyeing Craftwork	Market Place Stroll		28-Jul 14:45 JTA613 Ishigaki	
15:00						15:30 Traditional Craftwork Class Bingata, Ryukyu Lacquer-ware Craftwork Experience				
16:00	20-Jul 16:25 JTA518 Miyako	17:00 Language Exchange	17:00 Check-in at Pension Carolina	16:30 Head back to Pension			16:00 Walk on Kokusai-dori Street ~Back to the Prefectural Building		16:00 Assemble	28-Jul 16:30 JTA547 Miyako
17:00		Exchange Program (Ice Breaker)	Campfire Preparations BBQ Preparations Dinner	17:30 Back in Pension Carolina			17:00 Participants will be dismissed and will each go to their host family		17:20 Study Presentation	29-Jul 17:00 PR429 Philippines
18:00	20-Jul 19:30 JTA222 Kume	19:00 Welcome Party	19:00 Campfire	18:30 Dinner	18:30 Dinner	18:30 Dinner			18:20 Speech	
19:00		20:15 End of Welcome Party		19:30 Exchange Program * Planned by Participants	19:30 Head back to Hotel	19:30 Head back to Hotel		19:00 Closing Ceremony		
20:00	14-Jul 21:00 ANA1737 USA,Canada	20:30 Group/ Leader Meeting	20:30 End of Campfire	20:30 End of Exchange Program	20:15 Back in Hotel	20:00 Orientation for tomorrow's Market Place Stroll 20:30 Leader Meeting		Farewell Party		
21:00	14-Jul 21:45 JTA189 Peru,UK	21:00 Staff Meeting	21:00 Leader Meeting (including escorting staff members)	21:00 Leader Meeting (including escorting staff members)	21:00 Leader Meeting (including escorting staff members)	21:00 Leader Meeting (including escorting staff members)		21:00 End of Party		
22:00	13-Jul 22:10 JAL1935 Brazil,Argentina,Bolivia	Bedtime	Bedtime	Bedtime	Bedtime	Bedtime				
Lodging	Homestay (with relatives or friends)	Rainbow Hotel (Naha City)	Pension Carolina (Onna Village)	Pension Carolina (Onna Village)	Rainbow Hotel (Naha City)	Rainbow Hotel (Naha City)	Homestay (with relatives)	Homestay (with relatives)		

Programa Junior Study Tour 2005

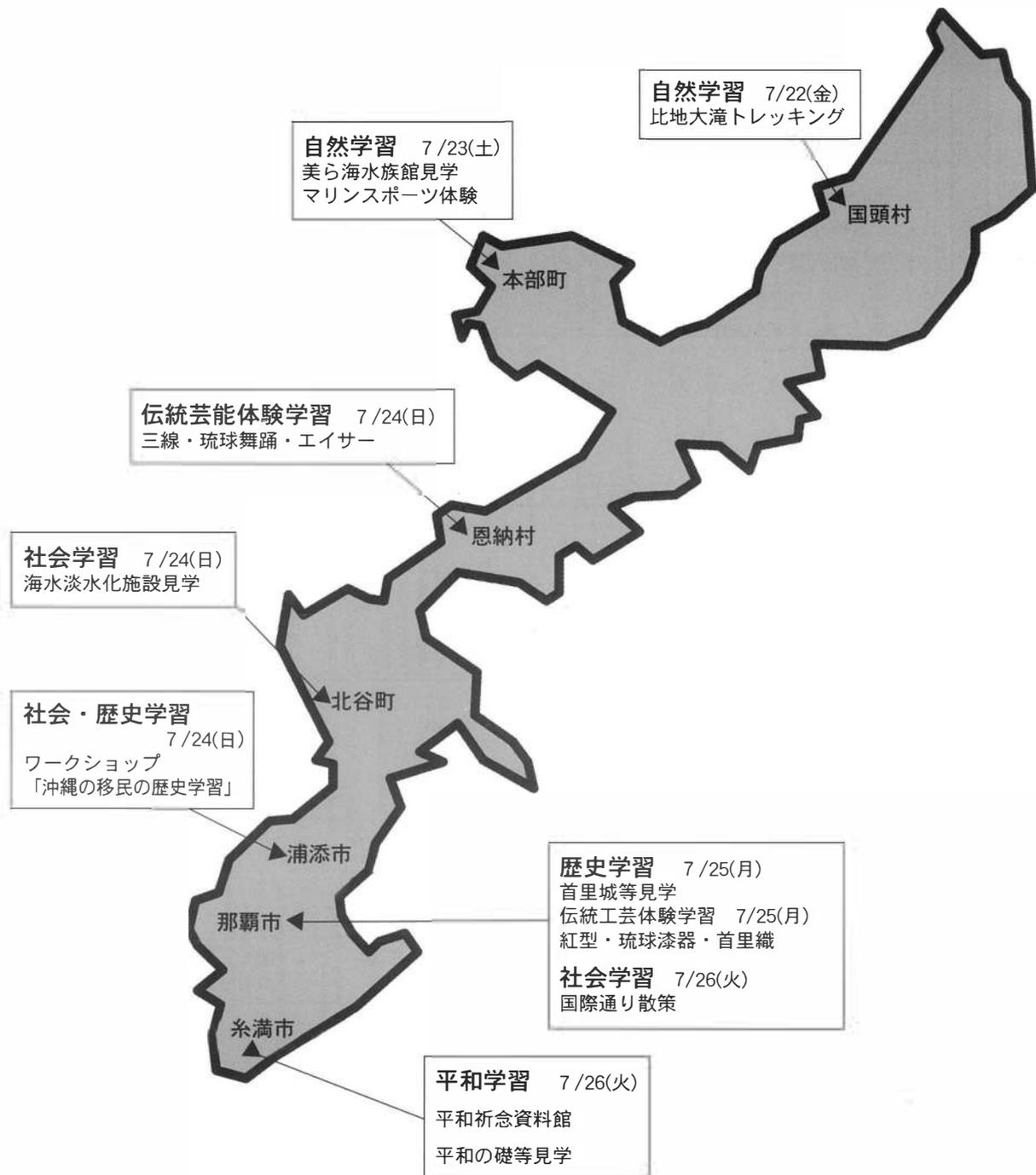
	13(Miércoles)- 20Julio(Miércoles)	21de Julio (Jueves)	22 de Julio(Viernes)	23 de Julio (Sábado)	24 deJulio (Domingo)	25 de Julio (Lunes)	26 de Julio (Martes)	27 de Julio (Miércoles)	28(Jueves)- 29Julio(Viernes)	
6:00	Arribo a Okinawa		6:30 Levantarse		6:30 Levantarse	6:30 Levantarse	6:30 Levantarse	ホ ー ム ス テ ィ ホ ー ム ス テ ィ	Los particip	
7:00			7:00 Desayuno	7:00 Levantarse	7:00 Desayuno	7:00 Desayuno	7:00 Desayuno		regresan a sus países	
8:00			8:00 Partida	8:00 Desayuno	8:30 Partida	8:10 Partida	8:00 Partida		28/Julio 8:35 JAL1900 UK	
9:00	21/Julio 9:00 JTA600 Ishigaki	Reunión en la Prefect. Entrega de material y polo 11:00 Bienvenida 11:25 Foto Conmemorativa 12:00 Almuerzo 13:00 Partida 13:30 Orientación 14:00 Presentación personal por países *Division grupal/líderes/ Distrib. de <i>hakiganos</i> 15:00 Presentación de c/país 16:00 ☆ Estudio de saludos en los otros idiomas Integración (para romper el hielo) 19:00 Fiesta de Bienvenida 20:15 Término de 20:30 Reunión de & Reunión de lí 21:00 Reunión de guí organizadores 22:00 Hora de dormir	↓ 9:00 Partida Est. sobre la Naturaleza (El mar 1) ↓ 10:00 Ocean expo Park "Acuario Chura Umi" 12:00 Almuerzo 14:30 Término de la caminata 15:00 Camino a la pensión ↓ 17:00 Llegada Preparativos para la fogata Preparativos para la parrillada Cena 19:00 Fogata (Hasta las 20:30)	9:00 Taller Onnason Práctica de Artes Tradicionales OSanshin ORyuky Buyo (Baile Ryukyuy) OEisa 11:30 Almuerzo 12:20 Traslado ↓ Estudio Social 13:30 Visita a "las instalaciones de agua dulce" de "Chatanchou" 14:30 Traslado Est. de Historia 15:00 "Taller" (Reflexión sobre la Hist. de la Emigración Okinawense) En el Centro Internac. de JICA en Okinawa 16:30 Camino a la pensión ↓ 17:30 Llegada 18:30 Cena 19:30 Integración *Proyecto libre de los participantes (Hasta las 20:30) 20:15 Llegada 21:00 Reunión de líderes *en compañía de los guías 22:00 Hora de dormir	8:50 Llegada al Castillo Syuri 9:00 Est. de Historia Previa explicación Visita al Castillo Syuri, Tamaudoun y Sonohianutakiishimon 13:30 Partida Artesanía Tradicional 14:00 Video Exhibición de vidriería, cerámica, laqueado, textilera y bingata 15:30 Práctica de Bingata, laqueado, textilera 18:00 Partida 18:30 Cena 19:30 Traslado al hotel 20:00 Orientación sobre la visita al mercado 20:30 Reunión de lí 21:00 Reunión de lí *en compañía de los guías 22:00 Hora de dormir	Estudio sobre la Paz 9:00 Llegada al Museo Conmemorativo de la Paz 9:15 Previa explicación Visita al museo, lápida, parque 11:30 Almuerzo 12:20 Partida 13:30 Llegada al mercado (Contacto directo con la vida en Okinawa) Recorrido por el mercado Kokusai douri, Prefectura 16:00 Reunión 17:00 Los participantes parten de la Prefectura a la casa anfitriona. 18:20 Discurso 19:00 Clausura Fiesta de despedida 21:00 Separación	28/Julio 9:50 JTA182 Peru 28/Julio 10:05 ANA1732 USA,Canada 28/Julio 12:30 JAL1906 Brazil,Argentina,Bolivia 28/Julio 13:45 JTA213 Kume 28/Julio 14:45 JTA613 Ishigaki 28/Julio 16:30 JTA547 Miyako 29/Julio 17:00 PR429 Philippines			
10:00				10:30 Llegada	10:00 Ocean expo Park "Acuario Chura Umi"	10:00 Ocean expo Park "Acuario Chura Umi"	10:00 Ocean expo Park "Acuario Chura Umi"		10:00 Ocean expo Park "Acuario Chura Umi"	
11:00				11:00 Llegada	11:00 Ocean expo Park "Acuario Chura Umi"	11:00 Ocean expo Park "Acuario Chura Umi"	11:00 Ocean expo Park "Acuario Chura Umi"		11:30 Almuerzo	
12:00	19/Julio 12:15 PR428 Philippines			12:00 Almuerzo	12:30 Almuerzo	12:20 Traslado	12:30 Almuerzo		12:20 Partida	28/Julio 12:30 JAL1906 Brazil,Argentina,Bolivia
13:00				13:00 Partida	13:30 Orientación	13:30 Orientación	13:30 Orientación		13:30 Orientación	28/Julio 13:45 JTA213 Kume
14:00				14:00 Presentación personal por países	14:30 Término de la caminata	14:30 Término de la caminata	14:30 Término de la caminata		14:30 Término de la caminata	28/Julio 14:45 JTA613 Ishigaki
15:00				15:00 Presentación de c/país	15:00 Camino a la pensión	15:00 "Taller" (Reflexión sobre la Hist. de la Emigración Okinawense)	15:00 "Taller" (Reflexión sobre la Hist. de la Emigración Okinawense)		15:00 "Taller" (Reflexión sobre la Hist. de la Emigración Okinawense)	
16:00	20/Julio 16:25 JTA518 Miyako			16:00 Camino a la pensión	16:30 Camino a la pensión	16:30 Camino a la pensión	16:30 Camino a la pensión	16:30 Camino a la pensión		
17:00				17:00 Llegada	17:30 Llegada	17:30 Llegada	17:30 Llegada	17:00 Los participantes parten de la Prefectura a la casa anfitriona.	28/Julio 16:30 JTA547 Miyako 29/Julio 17:00 PR429 Philippines	
18:00				18:00 Integración	18:30 Cena	18:30 Cena	18:30 Cena	18:00 Partida		
19:00	20/Julio 19:30 JTA222 Kume		19:00 Fogata	19:30 Integración	19:30 Traslado al hotel	19:30 Traslado al hotel	19:30 Traslado al hotel			
20:00	14/Julio 21:00 ANA1737 USA,Canada		20:15 Término de	20:30 Reunión de líderes	20:15 Llegada	20:00 Orientación sobre la visita al mercado	20:00 Orientación sobre la visita al mercado			
21:00	14/Julio 21:45 JTA189 Peru,UK		21:00 Reunión de guí organizadores	21:00 Reunión de líderes *en compañía de los guías	21:00 Reunión de líderes *en compañía de los guías	21:00 Reunión de líderes *en compañía de los guías	21:00 Reunión de líderes *en compañía de los guías			
22:00	13/Julio 22:10 JAL1935 Brazil,Argentina,Bolivia		22:00 Hora de dormir	22:00 Hora de dormir	22:00 Hora de dormir	22:00 Hora de dormir	22:00 Hora de dormir			
Estadía	Estadía con parientes de Okinawa	Hotel Rainbow (ciudad Naha)	Pensión Caroline (pueblo Onna)	Pensión Caroline (pueblo Onna)	Hotel Rainbow (ciudad Naha)	Hotel Rainbow (ciudad Naha)	Estadía con parientes de Okinawa	Estadía con parientes de Okinawa		

Schedule (Spanish)

Junior Study Tour 2005 Programa

	13(quar)- 20/Julho(qua)	21/Julho (qui)	22/Julho (sex)	23/Julho (sab)	24/Julho (dom)	25/Julho (seg)	26/Julho (ter)	27/Julho (qua)	28(qui)-29Julho(sex)
6:00	Chegada em Okinawa		06:30 Despertar		06:30 Despertar	06:30 Despertar	06:30 Despertar		Retorno ao pais de origem
7:00			07:00 Café	07:00 Despertar	07:00 Café	07:00 Café	07:00 Café		
8:00			08:00 Partida	08:00 Café	08:30 Partida	08:10 Partida 08:45 Chegada ao Castelo de Shuri	08:00 Partida		28/Julho 8:35 JAL1900 UK
9:00	21/Julho 9:00 JTA600 Ishigaki		Estudos da Natureza	Estudos da Natureza	09:00 Chegada ao Community Center, Vila de Onna	Estudos de Historia 09:00 Palestra	Estudos da Paz 09:00 Memorial da Paz 09:15 Palestra		28/Julho 9:50 JTA182 Peru
10:00		10:00 Concentracao na Sede do Governo da Provincia	Estudos da Natureza	Estudos da Natureza	Estudos Culturais Sanshin, Ryukyu Buyo e Eisa		Visita as instalacoes do Memorial		28/Julho 10:05 ANA1732 USA,Canada
11:00		11:00 Cerimonia de Recepcao 11:25 Fotografia	10:30 Trekking	10:00 Aquario Churaumi	11:30 Almoco	Visita ao Castelo de Shuri e Arredores	11:30 Almoco		
12:00	19/Julho 12:15 PR428 Philippines	12:00 Almoco	12:00 Almoco	12:30 Almoco	12:20 Deslocamento	12:30 Almoco	12:20 Partida		28/Julho 12:30 JAL1906 Brazil,Argentina,Bolivia
13:00		13:00 Partida da Sede 13:30 Orientacao		Estudos da Natureza	Estudos Sociais 13:30 Visita a Usina de Dessalinizacao em Chatan	13:30 Partida	13:30 Chegada ao Machiguwa Estudos Sociais Conhecendo o estilo de vida de Okinawa		28/Julho 13:45 JTA213 Kume
14:00		14:00 Apresentacao aos participantes, escolha de lideres e divisao de quartos e Introduçao de cada país	14:30 Fim do Trekking	13:30 Sabani	14:30 Deslocamento para JICA	Estudos de Cultura 14:00 Video sobre as artes de Okinawa e Expositcao	Visita por Machiguwa		28/Julho 14:45 JTA613 Ishigaki
16:00	20/Julho 16:25 JTA518 Miyako		15:00 Deslocamento a Pensao	16:30 Deslocamento a Pensao	15:00 Workshop: Analisando a Historia da Imigracao de Okinawa	Estudos Sociais 15:30 Atividades com Artes Tradicionais de Okinawa	Avenida Internacional e deslocamento para a Sede do Governo		28/Julho 16:30 JTA547 Miyako
17:00		Estudo dos idiomas dos participantes	17:00 Chegada a Pensao Preparativos para o Camp Fire	17:30 Chegada a Pensao		Pintura em estilo Bingata, Ceramica e Tecidos	17:00 Dispersao na Sede do Governo Deslocamento Homestay	29/Julho 17:00 PR429 Philippines	
18:00		Programa de Intercambio (Icebreak)	Preparativos Churrasco e Refeicao	18:30 Jantar	18:30 Jantar	18:00 Partida 18:30 Jantar	18:20 Debate		
19:00	20/Julho 19:30 JTA222 Kume	19:00 Festa de Boas-Vindas	19:00 Inicio do Camp Fire	19:30 Intercambio (conforme planejamento dos participantes)	19:30 Deslocamento para o Hotel	19:30 Deslocamento ao Hotel	19:00 Festa de Despedida		
20:00	14/Julho 21:00 ANA1737 USA,Canada	20:15 Fim da Festa de Boas-Vindas 20:30 Reuniao de Grupo e de Lideres	20:30 Encerramento Camp Fire	20:30 Encerramento	20:15 Chegada ao Hotel	20:00 Orientacao 20:30 Reuniao de Lideres			
21:00	14/Julho 21:45 JTA189 Peru,UK	21:00 Reuniao entre organizadores e acompanhantes	21:00 Reuniao de Lideres e Acompanhantes	21:00 Reuniao de Lideres e Acompanhantes	21:00 Reuniao de Lideres e Acompanhantes	21:00 Reuniao de Lideres e Acompanhantes		21:00 Encerramento Geral	
22:00	13/Julho 22:10 JAL1935 Brazil,Argentina,Bolivia	Apagar luzes	Apagar luzes	Apagar luzes	Apagar luzes	Apagar luzes			
Hospedagem	Estada na casa anfitriã	Hotel Rainbow (Naha)	Pension Carolina (Onna)	Pension Carolina (Onna)	Hotel Rainbow (Naha)	Hotel Rainbow (Naha)	Estada na casa anfitriã	Estada na casa anfitriã	

平成17年度 ジュニアスタディツアー学習エリアMAP





記 録 写 真

海外参加者出迎え

7月13日(水) 到着: ブラジル・アルゼンチン・ポリビア
 7月14日(木) 到着: アメリカ・カナダ・ペルー・イギリス
 7月19日(火) 到着: フィリピン



7月21日(木)

歓迎セレモニー、オリエンテーション
交流プログラム、ウェルカムパーティー



7月22日(金)

自然学習 (トレッキング)、キャンプファイヤー



7月23日(土)

自然学習 (美ら海水族館見学、マリンスポーツ体験、
スイミング体験)



7月24日(日)

伝統芸能体験学習(三線・琉球舞踊・エイサー)
ワークショップ(沖縄の移民の歴史学習)



7月25日(月)

歴史学習(首里城等見学)

伝統工芸体験学習(紅型・琉球漆器・首里織)



7月26日(火)

平和学習 (レクチャー、平和祈念資料館・平和の礎見学)
社会学習 (国際通り散策)



7月27日(水)

学習体験発表（三線・琉球舞踊・エイサー）
講話（沖縄TV 前原氏）、修了式
さよならパーティー



7月28日(木)
~29日(金)

帰国・見送り





ジュニアスタディーツアーに参加して



大城 直美 マヤラ

MAYARA NAOMI
DE ALCANTARA OSHIRO

17歳 2世

ブラジル Brazil

ブラジル沖縄県人会



「ジュニアスタディーツアー2005」

私が試験を受けに行った時、一部が日本語の知識についてでしたので、初級程度の日本語しか知らない私は、まず合格は無理だと悲しい思いをし試験場をあとにしました。結果もその通りで、選ばれませんでした。でも数日後、私が他の人の代わりに行けると電話で知らされた時、感激しました。

出発の一週間前になると、だんだん心配になってきました。日本語が話せない私はどうしたらいいだろう、家族（親戚）の人達に気に入られるだろうか、新しい友達が出来るとだろうか、等等。飛行機の中で過ごしたほぼ2日間の間、怖さと期待が同時に膨らんでいきました。

那覇に到着したとき、最初に感じたのは暑さでした。そして、従姉妹たちに会ったとたん緊張してしまいましたが、案に相違して私の家族はとても歓迎してくれ、とても良くしてくれ気を遣ってくれました。会えるとは想像もしていなかった従兄弟や、祖父母に会うことができ、とても幸せでした。家族の墓参りをし、祖父（私が生まれる前に亡くなったので、会ったことがありませんが）の生家を訪ね、ブラジルには無かった父や伯父（叔父？）達の小さい頃の写真を見せてもらい、1世紀以上の歴史を持つ私の家族のことが出来ました。

そして、待ちかねていたスタディーツアーの始まりです。1日目は皆少し恥ずかしがっているようでしたが、日を重ねるにつれ、多くの特別なそして、素晴らしい心を持っている人達だと分かり、永遠に忘れられない友達を作ることができました。習慣や言葉の違いがあっても、深いところで私達は皆同じだと気付きました。同じような家族に良い生活を求め移民として出かけていったという歴史をもち、そして皆同じく沖縄にルーツを持っています。

その他、歴史、文化そして沖縄の人々の日常について、もっと知ることができ、私が一番気に入ったのは舞踊、平和祈念館と沖縄伝統の工芸品でした。

ブラジルの沖縄県人会の方々に、私をブラジルからの代表として選んでくださったことに感謝いたします。

そして沖縄県知事を始め沖縄の方々にこのような素晴らしい、おそらく二度とはない機会を与えてくださったことに深く感謝いたします。生涯忘れえぬ思い出と感激、忘れられない友情、そして何よりも、私の親戚・家族、友達、そして沖縄人より受けた親切、愛情そして人情深さは私の一生の宝となるでしょう。

オブリガード、グラシアス、サンキュー、どうもありがとうございました。

Study Tour 2005

Quando fui fazer a prova, uma parte testava os conhecimentos da lingua japonesa e eu tive certeza que nao passaria porque nao só tenho o básico de japonês e sai da prova muito triste, ao sair o resultado nao me escolheram mas depois de uns dias telefonaram dizendo que eu ia no lugar de um pessoa e eu fiquei muito emocionada.

FAltando uma semana comecei a sentir medo de como seria se eu nao falava japonês, se a família ia gostar de mim e se iria conseguir fazer novas amizades.No avião, o medo e a expectativa cresciam juntos em quase dois dias de espera.

Ao chegar em Naha a primeira sensacao que senti foi o calor e ao ver minhas primas fiquei nervosa, mas ao contrário do que pensava, minha família foi muito receptiva, cuidaram e se preocuparam bastante comigo.Tive a felicidade de conhecer primos, avós que eu nunca imaginei em ver, visitei o cemitério da família, a casa onde meu avio nasceu (nao pude conhece-lo porque morreu antes de eu nascer) e vi fotos do meu pai e tios que no Brasil nao tinham fotos deles pequenose pude aprender muito sobre a historia da minha família que tem mais de séculos.

E finalmente o tão esperado SStudy Tour,no primeiro dia achei que estavam todos envergonhados, mas ao longo da semana descobri que ali haviam pessoas muits especiais e de bom

coracao e que fiz amigos de verdade que eu vou lembrar eternamente. Mesmo tendo alguns costumes e linguas diferentes percebi que no fundo somos iguais, com as mesmas histórias de imigrantes que saíram em busca de uma vida melhora para sua familia e que todos temos as mesmas raízes, vindos de Okinawa.

Além de tudo, pude conhecer mais sobre a história, cultura e dia-a-dia do povo de Okinawa e o que eu mais gostei foi o buyo, museu do cemiterio da paz e os trabalhos manuais típicos de Okinawa.

Quero agradecer o Kenjinkai do Brasil(pr ter me escolhido como representante do Brasil), ao Governo de Okinawa e dizer que foi o momento mais inesquecível e emocionante da minha vida, talvez nao tenha outra oportunidade como esta, mas nunca vou esquecer as amizades que fiz, tudo oque eu vivi e aprendi mas principalmente levarei comigo sempre a bondade, amor e calor humano que recebi da minha familia, dos meus amigos e de todo os okinawanos.

Obrigado, gracias, thank you, arigatou gosaimashita.





宮城 明子 ベアトリス

BEATRIZ AKIKO MIYASHIRO

15歳 3世

ブラジル Brazil

ブラジル沖縄県人会



「ジュニアスタディーツアーに参加して」

私は宮城明子ベアトリスです。ブラジル国サンパウロ州アララクアラ市で生まれて現在も本市に住んでいます。

去った7月13日から28日まで平成17年度ジュニアスタディーツアーに参加しましたが、私にとってこれから先いつまでも忘れられない素晴らしい毎日を送った旅行でした。

沖縄について、初めてお会いした親戚の家にホームステイをした時、私を迎えてくださった叔父さん、叔母さん、家族の皆さんから受けた温かい心は心配でかたくなっていた私の心をときほぐしてくれました。そして毎日おじさん、おばさんたちに案内していただき沖縄のあちらこちらを自分の目で見、耳で聞き毎日に沖縄の素晴らしさを知ることが出来ました。それから先祖様のお墓参り、そしてお祖母さんが心残りになっていた、お世話になった仏様へお線香を上げるとき、仏壇の前で私は胸がいっぱいになりました。

一週間目に県庁でジュニアスタディーツアーに参加している皆さんと初めて会いました、知事から「よくいらっしやいました。沖縄をよく知って楽しく過ごして帰ってください」とご挨拶を頂き、わたしたちはホテルに行き、そこでアメリカ、カナダ、ペルー、アルゼンチン、フィリピン、イギリス、沖縄、ブラジルから来ている各自の自己紹介があつてから各国の歴史、文化の紹介がありました。コンピュータから映し出される映像でそれぞれの国の歴史、文化、産物などを知ることができ、とても良い勉強になりました。

翌日はヤンバルで川と森が調和されている雄大な大自然の素晴らしさに心を奪われ、美ら海水族館でブラジルでは見られない、珍しい魚や、さんご、海の星を見たときブラジルの皆さんにも見せたい気持ちでした。そして首里城に行つて中に入ったとき、おかれている王冠、素晴らしい装飾、その中に立った私は沖縄県になつてもう百数十年が過ぎた現在も王朝時代の威厳が私の心に伝わってくるような感じを受けました。

このときの気持ちは他の人に話しても、この首里城に入らないと分からないと思います。

そして私は首里城を訪ねられた幸せをかみ締めなが

ら首里城を後にしました。

平和祈念資料館ではガラスケースの中に残されている数々の遺品、そしてテレビに映し出される爆撃されている沖縄の様子、たくさんの亡くなられた方々の名前が刻まれている墓碑、このすべてのものが、私に戦争は絶対にしないで！という叫びになって聞こえるようでした。私はイラクのたえない自爆テロ、イギリスで起きたテロ事件をテレビで見た時感じた可哀想にという気持ちが平和祈念資料館を出る時には戦争は絶対に許せない強い気持ちになりました。これからもこの気持ちを忘れずに平和を守るお手伝いがしたいと思いました。私は海に囲まれた沖縄へ行けると決まったとき、海が見られる喜びもありました。なぜなら私は海を見たことがありませんでした。その私がサンゴが見える澄んだ水の海に入り、泳いだときの嬉しさ、よろこびは私だけが分かることでした。そしてこれから先、ブラジルで海へ行く機会があるときには、このときの喜びを思い出すことでしょう。

私は小さい時から沖縄の踊りが大好きで習っていました。今度沖縄で新しい舞踊「浜千鳥」を教えていただいた時はとても嬉しかったです。これからも、舞踊を続けていきたいと思っています。沖縄の旅から帰ってきて、私は沖縄県人の子孫であることに誇りを持ち大学を卒業したときには留学生として、沖縄で勉強できるように今まで以上に日本語も勉強して、もう一度沖縄に行かれるように頑張ります。

最後に稲嶺知事、委員の皆様、私たちと同室して下さったお姉さんたち、私たちと遊んでくださったボランティアの皆さん、ホームステイをさせて頂いた山田義康叔父さん、叔母さん、そしてサンパウロ沖縄県人会々長はじめ皆様、アララクアラ県人会の皆様、私たちを連れて行ってくださった松堂忠顕様に心からお礼申しあげます。



最後に私を喜んで送ってくださった、お祖母さん、当間おじさん、叔母さん、ママイ有難う御座いました。

Relatório Júnior Study Tour - 2005

Meu nome é Beatriz Akiko Miyashiro e nasci em Araraquara, no estado de São Paulo, no Brasil, onde resido atualmente.

No período de 13 a 28 de julho, participei do 17º Júnior Study Tour e, para mim, foi uma viagem maravilhosa e inesquecível.

Chegando em Okinawa, fiz homestay na casa dos meus parentes que pela primeira vez tinha encontrado. Toda a família é muito acolhedora e me recebeu de coração aberto, de forma que todas as minhas preocupações foram desaparecendo e me senti muito bem.

Todos os dias, a família me levava para conhecer Okinawa e, vendo com meus próprios olhos e ouvindo com meus próprios ouvidos, cada vez mais conhecia as maravilhas de Okinawa. Também fui ao túmulo dos meus antepassados e acendi incenso no oratório(butsudan) em nome da minha avó, ocasião em que fiquei muito emocionada.

Após uma semana, encontrei pela primeira vez os participantes do programa na Sede do Governo da Província em Naha. Lá, o Governador Inamine nos recebeu, dando as boas vindas, desejando que todos aproveitassem bastante a sua estada em Okinawa. Depois, nós fomos para o hotel onde houve a apresentação dos participantes oriundos dos EUA, Canadá, Peru, Argentina, Filipinas, Inglaterra, Okinawa e Brasil, além da apresentação de cada país onde foram mostradas imagens pelo computador sobre a história, a cultura e a economia dos países. E, como não tinha um conhecimento aprofundado sobre estes outros países, foi de grande valia para mim.

No começo, fui a Yanbaru, cuja natureza magnífica tem uma tal harmonia com o rio e a floresta que me deixou encantada. E ainda, quando vi os magníficos peixes, corais e estrelas-do-mar do Aquário Churaumi fiquei com vontade de mostrá-los ao pessoal do Brasil.

Quando fui visitar o Castelo de Shuri, fiquei muito impressionada quando senti toda a majestade do Castelo demonstrada, entre outras coisas, pela coroa do rei e pela harmonia perfeita de toda a decoração do lugar que impunha respeito. Mesmo contando para outras pessoas que não visitaram o Castelo, elas não conseguiriam sentir a alegria e a satisfação que senti naquele lugar.

Ao visitar o Memorial da Paz, realmente senti

que a guerra não pode acontecer de jeito nenhum, principalmente quando vi as várias relíquias da guerra, expostas em caixas de vidro: imagens de bombardeio que passavam na televisão e os nomes dos que tombaram na guerra talhados nas lápides. E quando vejo os terroristas do Iraque e os atentados de Londres, esse sentimento de não deixar a guerra nunca acontecer se torna mais forte ainda. E para não deixar esse sentimento ser esquecido, todos devem de qualquer jeito preservar a paz.

Também houve um dia em que fui à praia de Okinawa cujas águas são límpidas e transparentes e senti uma felicidade que só eu posso entender. Isso porque eu nunca tinha visto o mar e, quando entrei no mar, foi um sentimento inexplicável. Agora, todas as vezes que tiver a oportunidade de ir à praia, vou me lembrar daquela sensação maravilhosa.

Desde criança, gosto muito de dançar buyo e o faço até hoje. Em Okinawa, aprendi a dançar Hamachidori e foi bem legal aprofundar meus conhecimentos. De agora em diante, pretendo me esforçar para continuar com as minhas aulas de buyo.

Ao retornar de Okinawa, senti muito orgulho de ser uchinanchu e agora pretendo estudar japonês com mais afinco para voltar à Okinawa como estudante bolsista, após concluir os estudos universitários.

Finalmente, agradeço de coração ao Senhor Governador Inamine, a todos os organizadores, às minhas amigas de quarto, aos voluntários que nos divertiram, aos meus parentes Sr. Guiko Yamada e família., à diretoria da Associação Okinawa Kenjin do Brasil, ao Sr. Matsudo que nos acompanhou até Okinawa e, também, à Associação Okinawa de Araraquara.

Meus sinceros agradecimentos, especialmente, à minha avó, tio e tia Touma e à minha mãe que me incentivaram bastante para participar do Júnior Study Tour.





川波 エンリッケ ケンジ

HENRIQUE KENJI KAWANAMI

17歳 3世

ブラジル Brazil

カンボグランデ沖縄県人会



「夢が叶った!!」

夢が叶った!! 私が沖縄に到着して感じた一説であります。長年の夢が現実となりました。

最初に、私の長年の夢を実現可能に導いてくださった方々、沖縄県庁そしてブラジル沖縄県人会の皆様にご感謝申し上げます。

沖縄では思ってもいなかった親戚に会うこともできました。私が想像していた通り、感受性の高い温かみがこもった、思いやり深い人達ばかりでした。又、沖縄は私の想像以上にすばらしい所でした。

親戚の皆さんとお会いできて大変うれしく思います。お世話になり、また、大変ご迷惑をかけました。

JUNIOR STUDY TOUR は沖縄県庁に集合し、参加者の国々を知るために全メンバーと統合プログラムに参加致しました。次の日は北部地方へ行きヤンバル熱帯公園にてトレッキングを楽しみました。そこでは沖縄の植物について学ぶこともできました。例えば昔の小判がぎっしり張り付いたような、光り輝くヘゴの大樹又は植物が埋められて出来た石炭なども観ることができました。夜はキャンプファイヤーを囲んで競技や踊りを楽しみグループの構成メンバーと親睦を深めることが出来ました。美ら海水族館も見学することが出来、海の生き物の多様性を見学することができました。沖縄伝統の小船(サバニ)、忘れられません。又琉球舞踊、エイサーそして三線等も教えていただきました。私はエイサーに興味を持ち、教えていただきました。最近の若者たちはエイサーに対し、興味が薄れていると聞いて非常に残念だと思います。午後からは北谷の日本第2位という大規模な海水淡水化施設を訪れました。首里城も見学することが出来、沖縄県立平和祈念資料館にて沖縄戦争の生存者による講演を聞きました。戦争がどれだけ悲惨で人々を苦しめるかを身をもって感じる事ができました。また、沖縄県出身の方々が世界各国、特にブラジル、ハワイそしてフィリピン等に移住するにあたって大変な苦勞がなされたこともワークショップにて学ぶことができました。

ツアーの期間中、私は沖縄の文化、歴史そして風習に触れながら色々学ぶことができましたが、何よりも新しい友達ができたと心に刻まれております。紙

上には書ききれませんが、ミサキ先輩、ナナ、エリナ、ショウコ、アンナ、ヒカル、アイリ、タスク、タダミ、ミュ、チヒロ、トオルそしてツアーでお供して下さった方々はいつも私の心の中にいます。

日本語がよく理解できない私とお話をして下さったり、辛抱強く聞いてくださったり、本当に心から感謝申し上げます、皆さんの住所を書いたリストを失ってしまいましたのでお便りを差し上げることができません。本当に申し訳ありません。ですから皆さんのお便りをお待ちしております。ブラジルにいても私の心の一部は皆様と共に沖縄に残っていると思っております。又近い将来皆様と再会を約束し、共に心をつにすることが出来る日を楽しみにしております。

「Yume ga Kanatta!!」

Essa frase descreve bem o que eu senti quando cheguei em Okinawa, um sonho que se tornou realidade. Primeiramente eu gostaria de agradecer a todas as pessoas que tornaram esse sonho possível, ao governo de Okinawa, a Associação Okinawa Kenjin do Brasil e todos aqueles que de alguma forma me ajudaram durante todo esse tempo em que eu tentava realizar esse sonho, afinal foram 2 tentativas até conseguir, muito obrigado.

Chegando em Okinawa eu conheci muitos parentes que eu nunca imaginei que seria capaz de um dia conhecer, e isso foi uma experiência muito boa, pois eles eram exatamente como eu esperava que fossem, um povo receptivo, caloroso e atencioso, e a ilha de Okinawa é realmente muito bonita, muito mais do que eu esperava que fosse.

A todos meus parentes, eu gostaria de dizer que foi muito bom conhece-los e que agradeço tudo que fizeram por mim e pedir desculpas por todo trabalho que causei.

O Junior Study Tour começou com o nosso encontro na sede do governo de Okinawa, onde conhecemos um pouco mais sobre os países dos participantes e participamos de um programa para

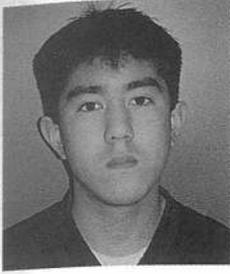
integrar os membros do tour.

No dia seguinte seguimos para a região de Hokubu para realizar um trekking no parque Yanbaru, lá aprendemos muito sobre a flora de Okinawa, como a samambaia gigante que quando caem as folhas antigas deixam marcas parecidas com dinheiro antigo e onde se formou carvão mineral devido a soterração de material vegetal. Durante a noite nós fizemos o Camp Fire, onde realizamos uma gincana entre as equipes, foi muito divertido, e depois dançamos ao redor da fogueira, foi muito bom porque conheci melhor o pessoal e ficamos amigos, foi muito bom.

Também visitamos o Aquário Churaumi, onde foi possível ver a variedade de fauna marinha de Okinawa e também praticamos o Sabani, que era a antiga maneira que os pescadores utilizavam para se locomover no mar, foi muito interessante, sem esquecer também as aulas de Ryukyu Buyo, Eisa e Sanshin, sendo que eu optei por Eisa, foi muito boa a aula, sendo uma pena que cada vez menos jovens se interessam pelo Eisa. No período da tarde visitamos a usina de dessalinização em Chatan, que é a 2ª maior do Japão e uma das maiores do mundo. Visitamos também o castelo de Shuri e tivemos uma palestra no memorial da paz com um sobrevivente da batalha de Okinawa, uma palestra que mostrou bem o sofrimento pelo qual ele passou, algo muito triste e assim aprendemos o verdadeiro significado de uma guerra e todo sofrimento que ela causa. Também participamos de um workshop que mostra o quão sofrida foi a imigração de okinawanos pelo mundo, como para o Brasil, Havai e para as Filipinas.

Durante esse tour eu conheci muito sobre a cultura, a história e os hábitos de Okinawa, mas principalmente, fiz novos amigos que sempre vão estar na minha memória e dentro do meu coração, pessoas especiais que surgiram na minha vida e que marcaram para sempre a minha vida, pessoas inesquecíveis como a Misaki senpai, Nana, Erina, Shoko, Anna, Amina, Hikaru, Airi, Tasuku, Tadami, Miyu, Chihiro, Toru, todo o pessoal do tour pois mesmo não escrevendo seus nomes aqui, seus nomes estão no meu coração. Pois mesmo sem eu ser fluente em nihongo, vocês sempre tentaram me entender e sempre conversaram comigo!!! Desculpe se eu não estou escrevendo para vocês, mas é porque eu perdi a lista de endereços de vocês, então por favor me escrevam, hein!!! Mesmo estando no Brasil metade do meu coração ficou em Okinawa, ficou com todos vocês, e com certeza algum dia, eu vou voltar para juntar as duas metades e assim, um dia nós vamos nos reencontrar e isso é uma promessa que eu faço a todos vocês!!!





屋宜 宣広 アレハンドロ

ALEJANDRO DANIEL YAGI

16歳 3世

アルゼンチン Argentina

在亜沖縄県人連合会



「ジュニアスタディーツアー2005」

僕にとってこのジュニアスタディーツアーに参加した経験は一生忘れられない素晴らしい思い出になりました。それは僕が沖縄を自分の目で見て、また沖縄の文化に触れることを実感出来たからです。

それだけでなく、世界各国からのツアー参加者達とのあらゆる文化交流が出来たことに対し、大変喜んでます。

沖縄に着いたときから県庁の方々スタッフの皆様には大変親切にしてもらい本当にありがとうございました。特に僕の場合はホームステイが四年も会っていないおばあちゃんの家だったので最高の楽しさでした。

初日の歓迎会の日には立派なジュニアスタディーツアーのTシャツが配られ、稲嶺県知事の前で記念撮影と自己紹介は大変緊張しました。そこでツアーの参加者がどこの国からどんな習慣を持っているか各国の言葉で挨拶をして紹介されました。

それから沖縄尚学高校の生徒たちが踊りなども含めて素晴らしい歓迎パーティを開いてくださって大変楽しかったです。それは僕たちが彼らともしっかり話をし、溶け合っていくための仕組みだったのです。

まず最初に、比地の滝へ案内されました。そこで感じたのは沖縄がどのようにして自然と環境を守っているかという素晴らしさに感動しました。そこでガイドの人たちから野鳥を呼ぶ珍しい楽器を見せられました。その後、火を燃やしバーベキューを食べて沖縄尚学高校の生徒たちと踊りながらいろいろな遊びをして、楽しい一時を過ごしました。

次の日には世界最大の「美ら海水族館」へ案内されました。そこには海の生物たちがいっぱい目の前に見えて、自分が本当に海の底にいるようで、実際の感覚さえ失ってしまうほどの素晴らしさでした。次に案内されましたのはサバニ乗りでした。沖縄の昔の人たちがそのサバニを使って魚を取っていたそうです。僕たちはそのサバニに乗って競争もしました。また、あのきれいな海で泳ぐこともでき大変楽しかったです。その後、方言の言葉あてのゲームをして遊びました。そこで地元の青年たちがあんまり方言が分からないこと

に驚きました。それはあんな簡単な「ワラビ」という言葉などがわからなかったことです。

その後、三つのグループに分かれ、サンシン・舞踊・エイサー体験をしました。僕はエイサーを選びました。太鼓をたたきながら踊るのは大変難しいものでした。でもこのツアーで一番楽しかったことです。

それから北谷の浄水場に案内されました。そこも世界中でも大規模な施設という事でした。そこから全沖縄に飲料水を供給しているそうです。それから JICA の国際移民センターに案内され、移民のパイオニアたちがどれほどの希望を持って外国に移民に出たか、またその人たちの苦勞も聞かされました。そして、またその移住者たちが戦時中ふるさとへの沖縄へのくらの支援をしたかも知られました。

それから首里城を見学して沖縄の文化のふるさと広さなど知らされました。琉球国と中国の交流がどれくらい盛んで沖縄の文化に影響したことが分かりました。

それから沖縄の芸術のクラスでは僕は漆器を選びました。それは僕の家にあるいろんな飾り物がどのような意味のものか知りたかったからです。

一番僕にインパクトを与えたのは最後に見た平和公園でした。そこでガイドが沖縄戦争がどれくらいつらく怖かったことを聞かされ、また犠牲者が自分の目の前で沢山殺された。敵に捕まるより自殺したとかなども聞かされ涙が溢れました。また 23 万人余りの犠牲者の名前が刻まれている塔を見て戦争の恐ろしさが分かりました。

それから沖縄尚学高校の友達と那覇国際通りに行きました。そこはまた大変にぎやかな所でした。

それから最後のさよならパーティーでは各々の経験を語り合いみんなで島唄を歌い、これで別れだと思いきなみな抱き合って泣きました。悲しくて泣いたことや嬉しくて騒いでホテルの隣のお客さんに怒られたことなど、僕たちに対し、一生忘れることのない思い出ツアーになりました。僕たちはいつか必ず会うことを誓い合いました。それから僕のおばあちゃんが泣きながらぜひまた来なさいと言う別れの言葉は悲しくてなりませんでした。

僕はこのツアーで沖縄の文化を知り、お父さんや、

おじいさん、おばあさんの生まれたふるさとを見て、沖縄という所を大変尊敬し、そこに興味を持つようになりました。これから沖縄との交流を深めるためにはもっと日本語を勉強しなければならないと思っています。

最後に県庁の方々と在亜沖縄県人連合会の皆様方から感謝申し上げます。どうかこのジュニアスタディーツアーの経験をこれからも沢山の青年たちに与えることができますよう、願っています。

2005 Junior Study Tour

Para mí ser partícipe de este maravilloso Junior Study es una experiencia que jamás podré olvidar. Pude comprobar y sentir por mí mismo la cultura de Okinawa como también acercarme un poco a la cultura de los integrantes de otros países de este tour.

A nuestro arribo a Okinawa desde las autoridades de la Gobierno hasta los integrantes del staff se esmeraron en atendernos maravillosamente y aprovecho la ocasión para agradecerles profundamente. En mi caso especial fue una alegría doble, ya que en la estadía la pude pasar en la casa de mí abuela a quien no veía hace más de cuatro años.

Recuerdo el primer día, el de la Recepción de Bienvenida, en la cual había muchos nervios y ansiedad. Nos repartieron unos lindos polos y luego partimos al lobby principal del edificio de la Prefectura para presentarnos frente al Gobernador de Okinawa Ken, el Señor Inamine. Luego nos tomamos una foto grupal conmemorativa. Más tarde nos presentamos todos personalmente y luego, cada país hizo su presentación. Así, conocimos de dónde provenían el resto de los integrantes y qué costumbres tenían en su país. Al finalizar, alumnos de la Escuela Preparatoria Okinawa nos prepararon juegos y bailes, que fueron de gran ayuda para que todos nos integremos un poco más y nos conozcamos mejor. Al final del día, tuvimos la Fiesta de Bienvenida, en la cual cada uno preparó un número. Más allá de lo divertida que fue la fiesta, tuvimos tiempo para poder conversar con los demás chicos.

El tour comenzó al día siguiente, con una caminata alrededor de las cataratas Hiji. Fue algo extensa y el día era muy caluroso, pero fue muy interesante conocer más acerca de la vegetación de la isla. Llegamos a las cataratas y nos tomamos unas fotos. Es sorprendente cómo preservan la

naturaleza y el medio ambiente allí en Okinawa. Allí nos enseñaron a hacer unos silvatos para llamar a las aves. Regresamos y partimos hacia la pensión Carolina, en Onna, dentro de una zona muy tranquila. Allí nos hospedaríamos dos días e hicimos una parrillada con los chicos de la Escuela Preparatoria de Okinawa, que más tarde, nos prepararon más juegos. Luego, llegó el momento de la fogata y bailamos y nos reímos sin parar hasta la noche.

El tercer día, visitamos el acuario Chura Umi, el cual es reconocido mundialmente. Me asombró muchísimo la cantidad de especies tan exóticas que habitan el mar de Okinawa, y también la claridad con la que se puede distinguir las especies. Fue simplemente maravilloso. Más tarde, practicamos Sabani, que es como una especie de bote con remos utilizado anteriormente por los antiguos pescadores de la isla. Debo confesar que terminé cansadísimo, pero la pase realmente bien. Después de un día tan largo, fuimos a la playa y tuvimos la suerte de nadar en esas aguas tan hermosas y calmas. Esa noche los muchachos nos hicieron un quiz acerca del dialecto okinawense. Me sorprendió mucho el hecho de que algunos chicos okinawenses no supieran palabras como “warabi”, que muy frecuentemente oía en mi casa.

Cuarto día: Práctica de artes en el Taller de Onna-son. Nos dividimos en tres grupos: Sanshin, Buyo y Eisa. Yo escogí Eisa. Realmente no tenía noción de lo complicado que era, pero fue divertido. Tal vez, la actividad que más disfruté. Después visitamos la instalación de agua dulce de Chatanchou, la cual se ubica entre las 14 más grandes del mundo y provee agua potable a toda la isla. Luego, llegamos al Centro Internacional de JICA, donde reflexionamos acerca de la inmigración okinawense y aprendimos mucho de lo duro y sacrificado que fue para nuestros antepasados adaptarse a las nuevas culturas, y el apoyo económico que fueron luego de la Segunda Guerra Mundial los inmigrantes.

El Castillo de Shuri fue sin dudas, lo más impactante de la cultura okinawense. Esta colosal estructura remarca aún más el poder que tenían los antiguos reyes dentro del Reino de Ryukyu. Se podía apreciar claramente la influencia china en los detalles del castillo. Después visitamos los antiguos cementerios de Okinawa y, de qué manera se sepultaban o cremaban los difuntos antiguamente.

Finalmente, realizamos artesanías típicas de Okinawa. Yo elegí laqueado porque quería saber qué significado tienen los diversos adornos que hay en mi casa.

El último día, el más conmovedor de todos para muchos, realizamos una visita al Museo Conmemorativo de la Paz, construido en honor a la trágica Batalla de Okinawa y el saldo negativo que dejó ésta. Allí, un señor nos relató lo doloroso que fue vivir durante la Batalla de Okinawa y peor aún, cuando se tiene nada más que quince años. Lo relató de tal manera, con tanto dolor que, a más de uno, en los cuales me incluyo, se nos escaparon algunas lágrimas. Todos sabíamos que la guerra no era buena, pero no sabíamos las crueles consecuencias que dejaba en la gente y el infierno que vivieron muchas personas. Más tarde, recorrimos el Parque Conmemorativo de la Paz, en el cual más de 230.000 lápidas se levantaron en honor a los caídos en la Batalla de Okinawa. El mismo señor nos guió a través de una caminata y nos enseñó los lugares donde la gente elegía suicidarse antes que ser atrapados por manos enemigas.

Nuestra última visita fue Kokusai Dori, mercado fundado por mujeres mucho tiempo atrás. Guiados otra vez por los chicos de la Preparatoria, recorrimos todo el mercado y vimos lo grande que es, y como éste ha progresado.

El último día tuvimos el Sayonara Party, recordaba el día que hicimos tanto alboroto en el hotel que el huésped del lado de nuestra habitación se fue a quejar. Cada uno recibió su diploma y relató todo lo que aprendió en este gran tour. Más tarde, presentamos lo que habíamos aprendido en el Taller de Onna-son, y cada uno presentó su número. Por último, cantamos todos juntos y abrazados Shima Uta y más de uno lloró. Fue muy emotivo.

Al otro día los chicos fueron al aeropuerto para despedirnos. Ahí sí me puse mal, especialmente al ver a mi abuela llorando pidiéndome que volviera. Creo que el viaje quedará en la memoria de todos y que mi único sueño a partir de ahora es que algún día nos volvamos a encontrar, no importa el lugar. He sacado muchas fotos, pero indudablemente, el estar allá es realmente incomparable. Y lo que viví también.

Yo estoy profundamente agradecido en este tour por haber conocido la cultura okinawense y ver con mis propios ojos el lugar donde nacieron mis abuelos, mi padre, por ende conocer mis raíces. En el futuro para tener una comunicación más profunda con Okinawa estoy convencido de que tengo que perfeccionar el conocimiento del idioma japonés.

Y por último, quisiera destacar mi profundo agradecimiento al Gobernador y a las autoridades de la Prefectura, a todos los integrantes del staff y a los alumnos de la Escuela Preparatoria de Okinawa y al Centro Okinawense en la Argentina, deseando que este tour pueda seguir siendo experimentado por muchos jóvenes en el futuro.





岸本 ユカリ

YUKARI KISHIMOTO

15歳 1世

アルゼンチン Argentina

在亜沖縄県人連合会



「感謝の言葉」

私は、素晴らしい体験をすることができました。ボリビア、アルゼンチンの私たち参加者は新里ファビアナさんに付き添われ、2005年7月13日、那覇空港に着きました。那覇空港は設備のゆきとどいた素晴らしい空港でした。

私はお母さんから離れてちょっぴり淋しかったけれど、出迎えてくださったおばさまたちのやさしい心づかいに、すぐ元気を取り戻すことができました。

舗装された素晴らしい道、そしてゴミ一つ落ちていない町を見て、私は沖縄県の皆様がみんなで沖縄を守っているのだと思いました。

ホームステイの期間、おばさまたちにいろいろな所を見物させていただきました。特に、おそばとイカの黒いスープが美味しかったです。

7月21日に私たちは各国の参加者と合宿に入りました。アメリカ・カナダ・イギリス・ペルー・フィリピン・南アメリカの参加者、沖縄県の中高校生、合計36人と引率者の方と沖縄県のスタッフの方、みんなウチナンチュで私はすごく嬉しかったです。

県庁に行って稲嶺県知事様から歓迎と励ましの言葉をいただきました。私はすごく緊張しました。

7月22日に比地の大滝へ行きました。どこの国にもないマングローブの林、何千年、何万年かけた山や川、美しい滝、美しい自然を見て、私の頭の中はしばらく時間が止まったように思いました。

7月23日は美ら海水族館へ行き、いろいろな生き物を見ました。それから楽しみにしていたサバニ体験と海にも入る事ができ、とても嬉しかったです。

「海水」を「淡水化」する設備を見学したとき、私はすごく興味をもちました。なぜなら世界は海に囲まれているからです。

7月24日にその国の文化、歴史として知っておかなくてはいけない、首里城を見学したとき素晴らしい建築と調和した色、王朝時代の貿易が盛んだったころの昔のことを思いました。

最後に平和の礎を見学したとき、沢山の人や戦争で国を守った「兵隊」さんが大切な命を戦争のために奪われた事を知りました。石碑の前で涙を流している人

を見たとき私も悲しくなりました。二度と戦争はしてはいけないと思いました。平和の鐘は世界中の人の心の中で鳴らさなければいけないと思います。

2005年度ジュニアスタディーツアーに参加させていただきありがとうございました。沢山のことを勉強することができました。お友達もできました。

沖縄県の皆様、私をお世話してくださった皆様ありがとうございました。

Palabras de agradecimiento

Gracias al JST pude aprender y disfrutar de la cultura, costumbres y del home stay entre muchas otras cosas.

Junto a mis compañeros de Bolivia, Argentina y nuestra coordinadora, Fabiana Shinzato, arribamos al aeropuerto de Naha el 13 de Julio de 2005. Es un aeropuerto muy lindo e impecable, sorprendente por su organización y seguridad.

Al alejarme de mi familia me sentí un poco sola e insegura, pero con muchísimas ansias, nervios y ganas de encontrarme con mis tíos, me recibieron tan cariñosa y amablemente, que me hicieron sentir muy acompañada.

Al ver que tienen avenidas magníficas, sin una sola basura, me di cuenta de que todos sus habitantes, unidos, están protegiendo a este hermoso país.

En el home stay, mis tíos me llevaron a conocer varios lugares, entre ellos me invitaron a almorzar osoba y además prepararon una sopa especial de calamares con tinta negra que estuvo riquísima! Tanto que repetí el plato varias veces.

El día 21 nos reunimos todos mis compañeros tanto del exterior como los de Okinawa que totalizábamos la cantidad de 36, a los que se sumaban los coordinadores, la gente del staff y de la Prefectura. "Todos eramos Uchinanchu!"

Saludamos al Gobernador Inamine y aunque en ese momento estaba nerviosa y tensa, él nos recibió

con una grata bienvenida, con halagos y palabras de aliento. Además nos obsequiaron una remera grabada con todos los países participantes.

El día 22 comenzamos con una caminata al Hijino Ootaki. Una vegetación que no se puede observar en otros países, el monte Manguopu... cuántos miles o millones de años tardaron en crecer, esta hermosa naturaleza, las cascadas, las montañas, los ríos, con sólo imaginarlo sentí que el tiempo se detenía en ese momento, de tanta belleza.

El día 23 nos dirigimos al acuario "Chura Umi" y pude conocer los diferentes peces que habitan en los mares de Okinawa, algunos eran muy graciosos. Al término de este recorrido nos dirigimos al mar. Fue muy divertido porque tuvimos la oportunidad de remar el sabani y mi papel fue llevar los platillos para acompañar el ritmo de los remos. Ese mismo día fuimos a una playa y entramos al mar, ese mar azul al que tanto deseábamos ir.

Visitamos la planta potabilizadora de agua, la cual fue una visita muy interesante ya que sabemos que todos los continentes están rodeados de mares.

Historias y una cultura que debemos conocer de este país, el castillo de Shuri, con su hermoso color del sol naciente y una arquitectura firme y maciza, construcción de gran influencia China.

Muchas personas, militares que defendieron la Patria perdiendo sus vidas por defenderla. Al ver personas llorando frente a las lápidas, pensé que jamás debería volver a repetirse una guerra. La Campana de la Paz debería sonar por siempre en el corazón de todos los seres del mundo.

"2005 JST", gracias por darme la oportunidad de participar en este evento, de haber aprendido y disfrutar de muchas cosas muy muy interesantes e importantes como hacer amistades con otros chicos del mundo.

Para finalizar, quiero dirigirme a todos los habitantes del pueblo de Okinawa: muchísimas gracias por esta placentera estadía en esta hermosa ciudad. Espero que nos recuerden como yo lo haré cada uno de mis días.





仲里 国頭 エミ カロリーナ

EMY CAROLINA
NAKASATO KUNIGAMI

16歳 4世

ペルー Peru

ペルー沖縄県人会



「ジュニアスタディーツアー2005：忘れない体験」

出発する前からジュニアスタディーツアー（JST）についてとても楽しみにしていました。沖縄をもっと知りたい、親戚に会いたい、そして新しい友だちを作りたい気持ちだけでなく、元JST参加者から話も聞いていたからです。沖縄に着いた途端にこの旅が思った以上に素晴らしい体験になると気がきました。親戚やJST関係者は、温かく出迎えてくれました。沖縄の人々の優しさや温かさがとても好きになりました。初日からは自分の家にいるように感じました。

最初の一週間は親戚と過ごしました。私は祖父の妹の家で泊まっていました。私には何も足りなかったので親戚がいろいろと気遣ってくれました。親戚には買い物に連れていってもらったり、ドライブしたり、沖縄にいる親戚を紹介してもらったりしました。従兄弟たちと仲良くなって、とても楽しい時間を過ごしました。ボウリングに行き、ここペルーでも行った事がないカラオケにも行きました。親戚と一緒にいた日々はとても楽しくて、沖縄の習慣や伝統を習う時間でした。

JSTのイベントは7月21日にスタートしました。その日には、8カ国からの17人の参加者そして沖縄から19人、計36人の参加者と顔合わせをしました。最初からみんなと知り合いになりたかったけど、内気さでなかなか出来ませんでした。でも、仲良くする為の遊びと歓迎パーティーのお陰でその内気さを吹き飛ばして、2日目に大体の参加者と知り合いになって、話せるようになりました。

プログラムのイベントや遊びを日本語でやっていました。皆は日本語が分からなかったけれど、通訳の助けや私たちのエネルギーで言葉の壁を越えて、楽しい時間を過ごすことができました。JSTのプログラムで沖縄の文化だけに限らず、アルゼンチンやブラジルやフィリピンなどの文化も習う事も出来ました。

とても暑かったけど、道や那覇の市場への散歩はとても楽しかったです。市場に行った時にもっと買い物をしたかったけど、あまり時間がなくて、そして混雑すると思ったので、しませんでした。また国頭村の滝

へのトレッキングや美ら海水族館や首里城はとても良かったです。北谷町の海水淡水化プラントへの見学はとても興味深かったです。海水から飲料水へのプロセスを見るのは初めてでした。とても興味があったのは、平和祈念資料館への見学でした。そこで戦争を体験した方の話を聞きました。体験話で心を揺さぶられ、あの時代の悲惨な事実を考えさせられました。

そして舞踊、エイサー、三線の学習もありました。私はペルーで踊った事もあって、エイサーを選びました。でも今までと違って沖縄で踊って良かったと思います。それから工芸の練習もありました。私は漆器の作品をしました。私にとっては初めての体験でした。ペルーにもって帰って親に上げて、とても喜んでもらいました。

このJSTはもう少し長いほうが良いと思いました。ちょうど、友だちになった時に別れる時が来ました。でも、このJSTに満足して、沖縄県系人との交流が出来、他の国や沖縄の文化などを学習出来て、目標を達成することができたと思います。

最後の日は、さよならパーティーでした。そこではツアーで学習した事を親戚に紹介して、とても喜んでもらいました。私は楽しみましたが、みんなと別れる時間が来ていたので、少し寂しかったです。さよならパーティーの会場から出たくなくて、みんなともう少し残りたいかったです。翌日に、沖縄の参加者には空港まで来てもらって、送ってくれました。私は、飛行機に乗りたくなくて沖縄の皆さんと残りたいかったです。彼らは、私の人生の一部になりました。沖縄を離れるのは、とても寂しかったが、またいつか、近い将来に沖縄へ帰って、友だちと親戚に会える日を楽しみにしています。

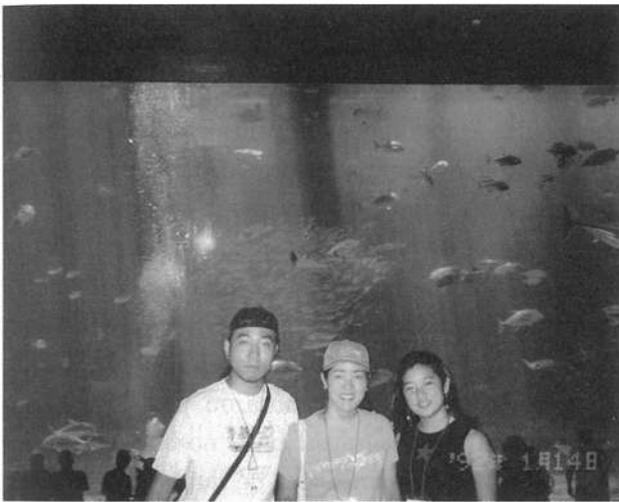
私達はこのツアーでとても楽しみました。そして、JSTの最大の目的である沖縄の文化、生活、歴史、自然、踊り、工芸などを学ぶ事を達成したと思います。今は、先祖の故郷である沖縄についての知識が増えたと気がきました。もっと沖縄について勉強をしなければいけないと思いますが、私の人生における大事な体験になりました。

このツアーのもう一つの目的が世界のウチナーン

チュネットワークを拡大させると思います。いろんな国から参加者が来ていましたが、皆さんの共通点なのは、沖縄県系であるという事もあって、みんなと友だちになったと思います。ですから、世界のウチナーンチュネットワークの拡大が出来たと思います。これからもみんなと連絡して行って、友情が長続きすると思います。

このツアーは一生忘れない体験になりました。暖かく迎えてくれた沖縄の親戚の皆さんそして、このツアーを企画した沖縄県庁の皆さんに感謝を申し上げたいと思います。それから、私を選んでもらったペルー沖縄県人会にも感謝したいと思っています。

これからは、自分の生活にJSTで習った事を専心していき、他のジュニアにもこのJSTに参加するように刺激していきたいと思っています。



JST 2005: Una experiencia inolvidable

Antes de partir a Okinawa, obviamente yo ya tenía una visión positiva del viaje, no sólo por mis ganas de conocer Okinawa, a mis familiares y de hacer nuevos amigos; sino también porque los ex becarios siempre me contaban la linda experiencia que vivieron allá. Sin embargo desde el instante en que llegué a Okinawa me di cuenta de este viaje sería mucho más de lo que yo me había imaginado.

Tanto mis familiares como los organizadores del Junior Study Tour (JST) nos dieron una cálida bienvenida, y eso fue una de las cosas que más me gustó de Okinawa: la calidez y amabilidad de los okinawenses, ese cariño con el que te tratan, aún sin conocerte. Desde el primer día que pasé allá me sentí como en casa.

La primera semana nos debíamos quedar con

nuestros parientes. Yo me quedé con mi tía, la hermana de mi oji y sus hijos, quienes siempre estuvieron cuidándome y asegurándose de que me sintiera cómoda y de que no me faltaría nada. Ellos me llevaron a pasear, de compras, y a conocer a todos mis demás familiares que viven allá. Me llevé muy bien con mis primos y me divertí con ellos, fuimos al bowling y hasta cante en el karaoke, algo que ni siquiera acá en Perú he hecho. Disfrute mucho el poder compartir esos días con mis tíos, tuve la oportunidad de conocerlos y aprender sobre sus costumbres y tradiciones.

El 21 de julio empezaba el programa del JST en si. Ese día conocimos a los 36 participantes, 19 okinawenses y 17 extranjeros, de 9 países diferentes. Al comienzo, a pesar de que todos teníamos muchas ganas de conocernos, todavía se veía un poco de timidez entre los participantes, incluyéndome a mí. Pero muy rápidamente, gracias a las actividades de integración, todos fuimos venciendo esa timidez y para el segundo día ya conocíamos a la mayoría de los chicos y podíamos conversar con ellos e ir conociéndolos mejor. Como en la noche del primer día, cuando se llevo a cabo la fiesta de bienvenida. En esta realizamos bailes y juegos que nos ayudaron a perder la vergüenza y a desenvolvernos mejor frente a los demás.

Las actividades y juegos del programa se realizaban en japonés, y aunque no todos sabíamos el idioma, esto no fue un impedimento para pasarla bien. Ya que además de que contábamos con traductores, nuestras ganas y energías hicieron que cada una de las actividades sea posible. Durante la semana que duró el programa central del JST pude aprender, no sólo sobre la cultura okinawense sino también sobre los diferentes países de donde venían los demás participantes, como por ejemplo Argentina, Brasil, Filipinas, entre otros.

A pesar del intenso calor, disfrute de las caminatas por las calles y por el mercado de Naha Shi (me hubiera gustado poder realizar algunas compras, pero entiendo que teníamos el tiempo limitado y habría sido un poco complicado mantener el orden), así como del trekking por la catarata de Kunigami Son, y las visitas a lugares turísticos como el acuario Chura Umi y el castillo Surijo. El recorrido por la planta de agua fue muy interesante ya que nunca había visto el proceso de tratamiento de agua salada. Una de las cosas que más me gustó fue la visita al museo de la paz, ya que aquí

pudimos escuchar el testimonio de un señor que vivió durante la época de la guerra. Su discurso me conmovió, pero al mismo tiempo me hizo comprender y pensar en todo el sufrimiento que se vivió en esos tiempos.

Además pudimos elegir entre practicar buyo, eisa o sانشin. Yo elegí eisa y aunque ya lo había bailado antes en Perú, bailar en Okinawa fue distinto, fue mucho mejor. También realizamos artesanías, yo realice un plato con la técnica del laqueado. Para mí fue una experiencia nueva, y a mis padres les encantó cuando se los regalé al llegar a Perú. Me hubiera gustado que el programa central hubiera durado un poco más ya que justo cuando nos estábamos haciendo muy buenos amigos con los demás participantes tuvimos que despedirnos porque cada uno debía regresar a su país. Sin embargo creo que tuvimos un programa completo que nos permitió relacionarnos con descendientes okinawenses de otros países y a la vez conocer y aprender diferentes aspectos de la cultura okinawense.

El último día fue la fiesta de despedida, donde presentamos todo lo aprendido a nuestros familiares quienes quedaron sorprendidos y muy emocionados. La pasé muy bien, pero no puedo negar que me entristeció tener que despedirnos y separarnos al final del evento. Nadie quería dejar el local, todos queríamos quedarnos juntos. Al día siguiente me emocioné al ver que algunos de los chicos de Okinawa fueron a darnos la despedida al aeropuerto. Yo no quería subir al avión, no quería dejar a mis nuevos amigos ni a mis familiares con los que me había encariñado tanto en tan poco tiempo, son y seguirán siendo parte de mi vida. Al irme me sentí muy triste, pero a la vez muy optimista de que en un futuro no muy lejano

regresaré a Okinawa y me reencontraré con mis familiares y amigos; eso me reconfortó un poco.

Si bien uno se divierte mucho en este viaje, creo que uno de los objetivos principales de este programa es aprender sobre la cultura okinawense: la forma de vida que se lleva aquí, la historia, los bailes, las artesanías, incluso sobre la naturaleza de allá de Okinawa. Y me he dado cuenta que ahora conozco un poco más sobre la tierra de mis ancestros. Sé que aún hay mucho más por conocer, pero siento que este viaje me ha ayudado mucho tanto en mi desarrollo personal como el profesional, y es que lo que uno logra aprender en este viaje es realmente valioso.

Por otro lado otro de los objetivos es que la red Uchinanchu crezca, y creo que eso también se logró, ya que durante el viaje todos los participantes nos hicimos muy amigos y aunque somos de diferentes países, todos compartimos algo en común y es que somos descendientes okinawenses. Por eso estoy segura de que nos mantendremos en contacto y de que la amistad que hemos formado perdurará.

Este viaje ha sido una experiencia inolvidable para mí, quería agradecer a mis familiares por recibirme y asegurarse de que tuviera una estadía excepcional; a los organizadores del Junior Study Tour y a todos los que colaboraron, por el excelente programa que prepararon para nosotros (siempre cuidándonos y asegurándose de que no nos faltará nada); al AOP (asociación okinawense del Perú) y sobre todo a la prefectura de Okinawa por la oportunidad que me ofrecieron, les estoy muy agradecida. Ahora sólo me queda aprovechar y poner en práctica todo lo aprendido, e incentivar a otros jóvenes para que participen de esta beca que realmente es una experiencia única.





亀甲 亀甲 たかし アレハンドロ

TAKASHI ALEJANDRO

KAMEGO KAMEKO

18歳 3世

ペルー Peru

ペルー沖縄県人会



「ジュニアスタディーツアー2005：夢で見た旅」

まず、このジュニアスタディーツアー2005に参加させて頂いた皆様への感謝を申し上げたいと思います。沖縄、先祖の故郷に行くのは、いつもあこがれていた夢であって、やっと叶えることができたと思っています。僕にとって忘れられない経験になりました。

沖縄に行く前に家族から沖縄の美しさについて少し聞いていました。でも、この目で見て、想像した以上に感銘を受けて、本当に参加して良かったと思っています。

沖縄に行ってから一番感銘を受けたのは、沖縄の人々の優しさです。いつも他人を手伝おうとしています。これに気付いたのは、初日から親戚が温かく迎えてくれたからです。

最初は、言葉の壁や内気さで他の参加者とコミュニケーションが取りづらかったけれども、他の国の青年と交流が出来て良かったと思います。僕は世界を見る目が変わってきました。一人一人は違う文化や違う考え方を持っていました。ウチナーンチュの特異な性格である交流したい気持ちや情熱そして、用意したイベントのお陰でみんなが友だちになることができたと思います。

ツアーで興味深い所をたくさん見学しました。最初は、自然に関係のある所で比地の大滝まで遠足しました。とても疲れましたが、美しい風景や植物がたくさん見られて、良かったと思っています。そして、美ら海水族館も見学しました。あの様に近くで色々な魚を見るのは初めてで、とても感動しました。そこで沖縄の豊かな海の動物等について学習できました。もう一つの所は、北谷町の海水淡水化プラントで海水から飲料水までのプロセスが見学できました。それから文化や歴史について学習しました。恩納村で三線や琉球舞踊やエイサーのような伝統芸能が学習できました。僕は三線を体験し、とても良かったと思います。最後の日に各グループが学習した伝統芸能を披露して、成果が得られたと思います。

沖縄歴史の学習としては、JICAの国際センターで沖縄移民について意見交換会がありました。とても

興味深く、各自の意見を言って、自分たち自身についてももっと理解出来たと思います。首里城を見学して、沖縄の古代建築技術をこの目で見、城の歴史を聞いて、沖縄を代表する場所であると分かりました。沖縄文化の学習としては、伝統工芸である紅型、琉球漆器、織物の体験をしました。今回は琉球漆器を選びました。努力しましたが、思ったより自作があまり良くなかったが、作ってみて面白かったと思います。

社会学習として、国際通りの見学をしました。ここで沖縄の普通の生活が見られました。

最後の見学場所である平和祈念公園が僕にとっても衝撃を与えました。そこで第二次世界大戦の生存者の体験話を聞いて、戦争の悲惨な事実で心を揺さぶられました。悲痛な写真も見ました。とても悲しかったが、戦争の恐ろしさについて反省する機会を与えてくれて、絶対戦争はしていけないと思いました。そして、沖縄の人々の生きる力をもっと尊重して、戦争で全部を失ってから今の発展を築いた力は素晴らしいものだと思います。

そして“さよならパーティー”の日がやってきました。そこで海外から来た参加者は自国の伝統踊りを見せました。各参加者もジュニアスタディーツアーで学習した事や感じた事を語りました。感動で面白いパーティーでしたが、これが別れる前の最後の時間となりました。

最後になりますが、再度、沖縄県並びにペルー沖縄県人会、そしてこの素晴らしいツアーを企画した皆さんへ厚くお礼申し上げたいと思っています。そして、友情を与えてくれた参加者の皆さん、親切に出迎えてくれた親戚の皆さんへ感謝し、これからは連絡していきたいと思っています。

このジュニアスタディーツアーはとても素晴らしくて、一生に忘れられない体験になりました。これからも僕のようにたくさんの青年たちがこのツアーに参加出来る事を希望致します。

JST 2005: Un viaje soñado

Antes que nada quiero agradecer a cada una de las personas que hicieron posible y que participaron de este Junior Study Tour 2005. La verdad que ir a Okinawa y poder conocer de cerca la tierra de mis ancestros ha sido un sueño hecho realidad y definitivamente es una experiencia que nunca voy a olvidar.

Antes de llegar a Okinawa ya tenía cierta idea de lo que me esperaba porque mis familiares me habían hablado mucho de lo bello que era, pero al verlo con mis propios ojos quedé impresionado, este viaje fue todo y mucho más de lo que imaginaba.

Una de las cosas que más me impresionaron fue la amabilidad de la gente. Todos siempre están dispuestos a ayudar a los demás. De esto pude darme cuenta desde el primer día, cuando llegué a casa de mis tíos, ellos siempre me trataron de la mejor manera a pesar de que recién nos conocíamos.

Aunque al comienzo fue un poco difícil comunicarse por la timidez y el idioma, fue increíble poder conocer a chicos de otros países, cada uno con diferentes culturas y pensamientos, lo que me ha ayudado a tener una visión más amplia del mundo. Y pese a estas diferencias pude sentir en todos los participantes las ganas de interrelacionarse con los demás, típico rasgo okinawense, y al final gracias a las dinámicas que nos prepararon y al entusiasmo de todos, pudimos hacernos buenos amigos.

Durante el tour pudimos conocer muchos lugares muy interesantes. Comenzamos con todo lo relacionado a la naturaleza. Primero fue la caminata Hijiootaki, que fue muy agotadora, pero valió la pena el esfuerzo, la vegetación y sobre todo los paisajes son increíbles. También visitamos el acuario Chura Umi, para mí una de las cosas más impresionantes que vi, nunca había estado rodeado de tantos peces. Allí pudimos apreciar la abundante fauna marina de Okinawa. Otro lugar visitado fue la planta de desalinización de Chatanchou, en donde pudimos ver el proceso para hacer potable el agua de mar.

Luego vino todo lo relacionado con la cultura y la historia. Pudimos practicar algunas artes tradicionales como sanshin, buyo y eisa en el Taller Onnason. Yo elegí sanshin y me pareció muy interesante. El día de la despedida cada grupo presentó lo que había aprendido de estas expresiones y sinceramente no estuvo nada mal.

Como parte del estudio de la historia tuvimos un taller de reflexión sobre la emigración okinawense en las instalaciones del Centro Internacional de JICA. Fue muy productivo, porque cada uno expuso sus opiniones y así pudimos conocer más sobre nosotros mismos.

También fuimos al Castillo Syuri, en donde pudimos ver de cerca la arquitectura antigua de Okinawa, aparte de conocer sobre su historia y todo lo que representa.

Como parte del aprendizaje de la cultura nos llevaron a practicar bingata, laqueado y textilería, formas de artesanía muy tradicionales. Esta vez elegí el laqueado. Aunque me esforcé creo que lo que hice no salió muy bonito, pero de todos modos me pareció muy interesante.

También como parte del estudio de la cultura nos llevaron a conocer Kokusai Douri, en donde vimos como es la vida cotidiana en Okinawa.

La última visita, una de las que más me impactó, fue al Museo Conmemorativo de la Paz. Allí escuchamos el conmovedor testimonio de un sobreviviente de la Segunda Guerra Mundial, que contaba todo el sufrimiento por el que pasó. Después vimos fotos desgarradoras de esa época. Esta fue una experiencia fuerte, pero me ayudó mucho para reflexionar sobre los horrores de la guerra y darme cuenta que debemos mantener siempre la paz. Además me sirvió para apreciar más el espíritu de lucha del pueblo okinawense para salir adelante después de haber quedado en la miseria.

Finalmente llegó el día de la clausura, en donde los extranjeros presentamos bailes típicos de nuestros países. También cada participante contó lo aprendido y vivido durante el Junior Study Tour. Fue una ceremonia muy alegre y emotiva pero era hora de despedirse.

Para terminar quiero reiterar mi agradecimiento a la Prefectura de Okinawa, a la Asociación Okinawense del Perú y a todos los organizadores de este tour tan maravilloso. También quiero darle las gracias a todos los participantes por haberme brindado su amistad y a mi familia por haberme acogido tan gentilmente y espero mantenerme siempre en contacto.

El Junior Study Tour ha sido una experiencia increíble de la que nunca me voy a olvidar y ojalá que muchos jóvenes más puedan ser parte de este programa.





親川 千草 カサンドラ

CHIGUSA CASANDRA OYAKAWA

14歳 3世

ボリビア Bolivia

ボリビア沖縄県人会



「ジュニアスタディーツアー2005」

ジュニアスタディーツアーの第一日目は、沖縄県庁にて全員揃って、挨拶と自己紹介がおこなわれました。その後、レインボーホテルへ移動して、各国紹介が行われました。ボリビアを代表して参加した私たちは、旅行前の調整ができていなかったため、発表がうまくいきませんでした。

しかし、後で準備されていた歓迎パーティーでは、ボランティアのみなさんが楽しい雰囲気を作ってください、落ち込んだ気持ちも一気に晴れました。気まずい思いも忘れ、いっぱい笑い、みなさんのあたたかい友情に包まれて、ほとんどみんなと友達になりました。

二日目は、山登りがありました。急な階段をいくつも上ったり、下りたりで、とても疲れましたが、私にとってはとても良い体験になりました。山を登ることは、今まで考えたこともありませんが、一度やってみると快適なもので、すばらしい体験でありました。後悔しておりません。

その日はペンションで宿泊しました。キャンプファイヤーを囲んで楽しいゲームが準備されており、私はジュース早飲み競争に参加しました。三番になりました。

その後、キャンプファイヤーの周りでダンスをしました。ボランティアのみなさんのおかげで全員楽しい気持ちになり、にぎやかな活気あふれるパーティーとなりました。

いろいろな場所を見学し、学習しましたが、わたしの印象にもっとも深く残ったのは、水族館でした。いろいろな種類、形や色、数多くの魚が、大きな水槽で泳いでいました。いろいろな海の生き物の中でも、くらげが私の注意を引きました。くらげは、アニメの「スポンジ・ボブ」の中でしか知りませんでした。こんなにもろそうでやわらかく、かわいらしい生き物だとは思いませんでした。ひとつ持って帰りたいと思ったほどでした。

水族館での楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。またいつか戻れることを願っております。

研修の仲間とは、たった一週間しか一緒に過ごせなかったのですが、お互いに理解と協調と、喜びに満ちた

雰囲気の中で、楽しい時間と思い出を共有することができました。お互いに違う言語を話す仲でしたが、気持ちは充分通じ合っていました。私たちはスペイン語を皆さんに教え、みなさんは私たちにそれぞれの国の言葉を教えてくれました。知らない言語で話すと、発音がおかしかったり、間違っておぼえたりして、お互いに大笑いしましたが、それがかえってお互いをよく知るための手段となり、仲間の絆を深めることとなりました。

自由時間にもほぼ全員いっしょに行動し、国際通りを散歩しました。ボランティアのみなさんが同伴してください、案内もしてくれました。

最後のさよならパーティーは、ジュニアスタディーツアーのもっともさびしいイベントでした。

このツアーに参加する機会を与えてくださった皆様、心から感謝を申し上げます。沖縄県庁の皆様、推薦して下さった日ボ協会、ボリビア沖縄県人会へ感謝申し上げます。ツアー期間中、説明、案内など、親切にしてくださった沖縄県ボランティアの皆様、ありがとうございました。

このツアーに参加してたくさんのことを実感することができました。その中のひとつは、私は沖縄県系人であることに誇りを持っていることです。ボリビアでは、「あなたはどこの国の人ですか」と、よく尋ねられます。私は、「祖父母は、日本人です」と、答えます。

私たちは、ボリビア人にとって日本人であり、日本ではボリビア人といわれます。小さいとき、私はたびたび「外国人」と言われ、不愉快なあだ名をつけられたこともありました。ですから、ボリビア人と違う自分自身がいやになることもしばしばありました。しかし、成長するにつれ、日本を理解していくうちに私の気持ちも変わってきました。

今、さらに沖縄県を体験する機会に恵まれた私は、ウチナンチュであることを心から感謝し、また誇りに思います。

それから、私が育ったコロニア・オキナワも、日本の沖縄県と似たところがいっぱいあることを実感しました。時間を得ても、私たちの祖父母や両親は、沖縄県の文化、習慣、そして方言をよく子供や孫に伝授してくださったと、感謝しております。

このレポートを終わる前に、沖縄県庁の皆様がこのスタディーツアーが大成功に終わったことに対し、お祝いの言葉を申し上げたいと思います。この事業はいっまでも継続してほしいと思います。ジュニアスタディーツアーは、わたしたちが祖先の地を知るための機会をあたえてくれました。そして、私の視野を広くしてくれました。ですから、今後も多くの若い人たちがこのような機会に恵まれ、私たちと同じような経験ができることを願っております。そうすれば、沖縄県とボリビアを結ぶ人材がたくさん育つと思います。



Junior Study Tour 2005

El primer día todos nos encontramos en el Kencho, allí hicimos el saludo y las presentaciones; luego nos pasamos al Hotel Rainbow y allí tuvimos las presentaciones de países, a nosotras no nos fue muy bien ya que antes del viaje no pudimos coordinar bien.

Pero después con la bienvenida que tuvimos de los voluntarios que fue muy agradable, se nos olvidó todo lo triste que teníamos, nos hicieron reír harto, lo que más me gustó de ese día es que fueron muy amables y acogedores que me hice amiga de casi todos.

Al segundo día tuvimos un paseo a las montañas, fue muy cansador porque teníamos que subir y bajar gradas pero fue una linda experiencia, nunca se me pasó por la cabeza subir una montaña y ahora que lo hice no me arrepiento, me gustó mucho.

Ese día fuimos a hospedarnos en la pensión, por la noche hicimos una fogata y hubo diferentes dinámicas, yo participé en la de tomar soda más

rápido y salí tercera.

Al final todos bailamos alrededor de la fogata, y estuvo muy animada, los voluntarios ponían todo de su parte para hacernos pasar bien.

De todos los paseos que tuvimos el que más me gustó y quedé impresionada fue la visita al acuario, había mucha variedad y cantidad de peces, desde los más chicos hasta los más grandes y de diferentes colores y formas.

De todos lo que más me gustó fueron las medusas, hasta ahora sólo las había visto en mi dibujo animado (Bob esponja) por televisión, se veían tan tiernas y frágiles, me quería traer una. El tiempo ahí pasó volando, ojalá algún día pueda volver.

Con los compañeros del Kenshu sólo estuvimos una semana, pero compartimos momentos y experiencias inolvidables en un ambiente de mucha alegría y comprensión, y a pesar de que hablábamos diferentes idiomas nos entendíamos muy bien, enseñábamos nuestro idioma y aprendíamos de los otros, nos reíamos mucho de eso porque pronunciábamos mal o nos equivocábamos; por suerte esa diferencia no fue una barrera para poder conocernos mejor.

El día que tuvimos libre nos juntamos casi todos y nos fuimos a pasear por kokusaidori, los voluntarios nos acompañaron y nos guiaron.

Por la noche tuvimos la fiesta de despedida que fue lo más triste del Junior Study Tour.

Agradezco de todo corazón a las personas que hicieron posible este viaje. A la prefectura de Okinawa, a la Asociación Boliviano Japonesa (NICHIBO Kyokai), a Bolivia Kenjinkai y a los voluntarios de Okinawa que nos recibieron y nos atendieron tan bien y a los guías que nos ayudaron y estuvieron siempre atentos para brindarnos ayuda. Muchas gracias.

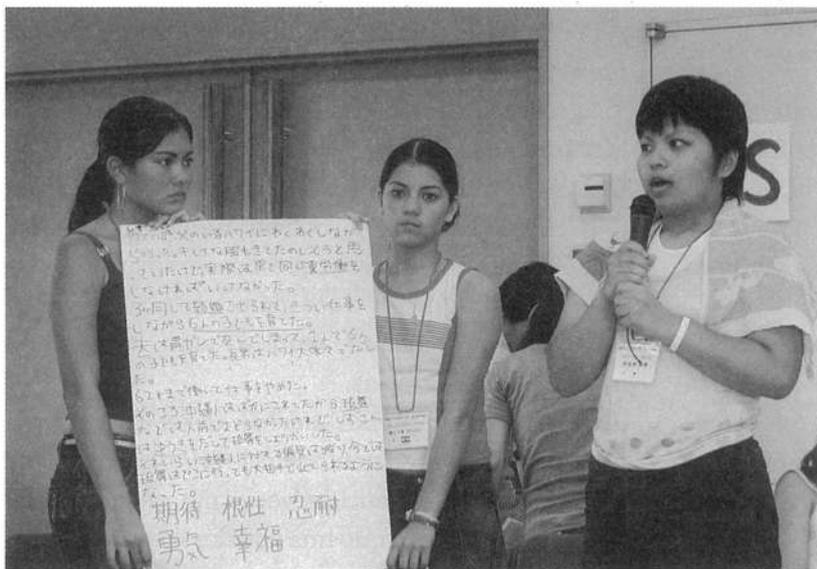
De este viaje aprendí muchas cosas. Algunas de ellas es que me siento más orgullosa de ser okinawense. Aquí muchas veces me preguntan de dónde soy y les digo que mis abuelos son japoneses.

Para los bolivianos nosotros somos japoneses aunque en Japón nos dicen bolivianos. A veces aquí nos molestan o nos ponen sobrenombres por ser extranjeros y por eso cuando era más chica me molestaba ser diferente de los demás; pero a medida que iba conociendo y entendiendo cómo es Japón eso iba cambiando. Y ahora que conozco lo bello que es Okinawa me siento más orgullosa y afortunada de ser una Uchinanchu.

También ahora sé que la Colonia Okinawa donde yo vivo tiene muchas cosas en común con la isla de Japón y que a pesar del tiempo han sabido transmitirnos la cultura, las costumbres y sobre todo el idioma.

Antes de terminar quisiera felicitar al personal de la Prefectura de Okinawa, que este tour fue un éxito. Quisiera que continúen con esta gran obra porque

ayuda a nosotros los adolescentes a conocer la tierra de nuestros ancestros. El Junior Study Tour me ayudó a ampliar mis horizontes, entonces quisiera que mas jóvenes puedan tener las mismas experiencias que nosotras tuvimos. Pienso que así ayudaría a formar y capacitar personal que sirva como nexo de unión entre Okinawa y Bolivia.





ジャンニ ブラジル

JANNY BRASIL TAMASHIRO

17歳 3世

ボリビア Bolivia

ボリビア沖縄県人会



「ジュニアスタディーツアー2005」

まず始めに沖縄県へ旅行を実現してくださった皆様
に感謝申し上げます。

そして、このツアーを企画、実施したスタッフの皆様、
ありがとうございます。皆様のおかげで、貴重な
体験をする機会を得ました。私たち一人一人が、沖
縄県の文化、習慣を体験して、沖縄県の人々のあたた
かさに触れることができました。

また、このツアーを通して沖縄県在住の親戚と親睦
の絆を深めることができました。伯父、伯母、従姉妹
たちと短い期間ではありましたが、たのしい時間をす
ごうことができました。

沖縄県到着当初に荷物が届いていないという
ちょっとしたトラブルがありましたが、そのおかげで
必要な物をショッピングしたり、“そば”を食べたり、
ビーチに行ったりすることができました。私にとって、
こんなことはボリビアでは普通できることではありま
せん。

ホームステイ期間中には、沖縄県の家族がガラス・
ボートを紹介してくれました。ガラスのボートに乗っ
て海の中の様子を見ることができました。ガラスを通
して近くからボートの下に広がる海の植物や、いろい
ろな種類、色と形をした魚が見えました。初めてで、
楽しい体験でした。

ツアー期間中はいろいろな場所を見学しましたが、
特に申し上げたいことは、「チュラウミ」水族館に行っ
たことでした。海の生物やその生態を目の前で見学し
ました。名も知らない小さな魚から、巨大なクラゲ、
エイ、さめなどはボリビアで見ることにはできない生き
物です。なぜならば、ボリビアには海がないからです。

また、森へのピクニックも楽しかったです。滝に到
着するまでの道程は長く、疲れましたが、努力のかい
あって冷たい水で涼むことができました。

ピクニックの夜はスタッフの皆様の企画してくだ
さいましたキャンプファイヤーが行われました。みん
など楽しくダンスしたり、遊んだり、特に良かったこ
とは心行くまでいっぱい楽しんだことでした。

サバニの練習に向かう前に、私たちはイルカを飼育
している場所を見学することができました。訪問して

いる子供たち向けにショーが行われており、私は久し
ぶりに見るイルカをさわりたい衝動にかられましたが、
それは実現しませんでした。サバニの練習が控えてお
り、そちらに向かわないといけなからでした。サバ
ニは初めての体験でした。サバニをこぐことは大変な
力を要し、とてもつかれましたが、楽しくて興味をそ
そる作業でした。

翌日は“エイサー”の練習でした。沖縄県の伝統芸
能の一つであることは知っておりましたが、踊る機会
に恵まれたのは初めてでした。

歴史学習の中で首里城見学がありました。スタイル
といい、私たちが見慣れている文化と対照的に違うこ
とが印象的でした。屋根の形、色の使い方、床の形状、
当時の衣装など特に注意をひいた一部でした。

ふっとその時、なつかしい気持ちになりました。遠
い昔に見たことがあったようなお城だったからです。
その時、3～4才の時に両親に連れられて来たことを
思い出しました。

首里城の前で家族と共に写真を取ったことが意識
の底に眠っていて、その時鮮明に思い出されたような
不思議な気持ちでした。

JICA沖縄国際センターでもいろいろな活動が
準備されておりました。その中の一つとして、世界の
いろいろな国の民芸品や、地域によって変わる性質、
表現などを見分けるグループ活動でしたが、なかなか
クリエイティブな学習でした。

伝統工芸、芸能体験もありました。私は漆器を学習
しました。沖縄県の代表的な花の絵柄を漆器の皿に描
いてみる体験学習でした。自分で作成した作品を持ち
帰り、家族にその作品を学習の証拠として見せること
ができ、よかったです。

平和学習は私にとって心に残った体験の一つです。
沖縄県平和祈念資料館にて、15才で戦争を体験した方
の話を聞きました。また、戦争中に一般市民が隠れた
場所へも案内されました。沖縄を囲む美しい海が、恐
ろしい戦争の証人であり、集団自殺などが実際に行わ
れたことなどは、私にとっては信じがたいけど、感動
的な学習内容でした。

国際通りへもスタッフの方々に案内されて行きま
した。那覇市のなかにある大きな通りで、民芸品から

食べ物、衣類などあらゆる種類の品物を売っているところでした。

用意されていた学習場所は以上でしたが、ツアー実施期間中、私たちが宿泊したホテルで毎朝準備してくださった朝食もとてもおいしかったし、食堂で三味線を弾いて演奏してくださったおじさんにも感謝申し上げます。

食事に関しても、全ての場所でおいしい食べ物をいただくことができ、あたたかいもてなしを受けました。

それから、ルームメイトとの交流も楽しかったです。彼女たちと、日本語の練習ができ言語が違うからお互いに離れるのではなく、逆に姉妹、兄弟のように人と人をつなげ、絆が深まることを実感したツアーでした。

スタッフの若い方々にも感謝申し上げたいと思います。ツアーでつかれているときなど、彼らの明るさが、疲れを癒すエネルギーとして私たちに元気を与えて下さいました。

通訳のスタッフにも感謝を述べたいです。彼女、彼らの努力のおかげでツアーの内容を把握することができ、参加者一人一人に心のこもった態度で接して下さり、いつもユーモアに富んだ楽しい会話で気持ちを楽しんで下さいました。

最後にさよならパーティは感動の頂点にいました。全員が学習した内容を発表する場でしたが、いろいろな楽しい出来事があったと言う間に過ぎてしまい、これが最後だと思うと、みんなさびしい気持ちでいっぱいでした。

参加したみなさん、たのしい思い出をありがとうございました。また、いつかどこかで再会したいです。そして、また楽しい体験を共にしたいです。

帰ってきてまだ数日しか過ぎておりませんが、わずか一週間でこんなにすばらしいことがたくさん経験できるとは思いもしませんでした。そして、こんなにたくさんの人々と心を通わせることができたこともまだ信じられません。

私はこのツアーを通じて私たちの先祖と、かれらの文化を知ることができました。また、お互いの地域に住んでいる住民もそれぞれ違う生活習慣を有し、沖縄県の人々は人情あつく、シンプルで健康的で、自然に近い食習慣の元に生活していることを知りました。

同時に沖縄県に住んでいる親戚と交流し、貴重な体験をしました。

最後になりましたが、この事業を成功させたスタッフの皆様にも再度感謝の気持ちを伝えたいと思います。ジュニアスタディーツアーは私にとってたくさんのすばらしい体験する機会を与えて下さり、また、いろいろな国の友達と友情の輪を広げることができた事業でありました。

ありがとうございました。

イッペー ニヘー デービル

Junior Study Tour 2005

Primeramente agradecerles a las personas que hicieron posible este viaje y también a los organizadores de este tour, ya que fue una experiencia única, la cual hizo posible que cada uno de nosotros tuviéramos la oportunidad de conocer Okinawa, su cultura, su forma de vivir y mas que todo compartir el cariño con su gente.

También la oportunidad de compartir con mis familiares como mis tíos, tías, primas y gracias a esto pude verlos, conocerlos y estar junto con ellos un tiempo.

Aunque tuvimos un problemita con la llegada de las maletas, me encanto ir a hacer shopping, comer “soba”, ir a la playa, ya que esas cosas no las hago muy seguido en mi país.

Tuve la oportunidad de ir con uno de mis familiares también al “garasu booto” y ver el fondo del mar, las plantas acuáticas y muchos peces de colores, algo que nunca había tenido la oportunidad de verlo de tan cerca, fue muy agradable.

Luego con los del tour tuve la oportunidad de conocer lugares los cuales nunca me imagine que iría como el acuario de Churaumi, donde pude ver como viven los seres acuáticos no solo pequeños, sino también los gigantes, como medusas, rayas, tiburones y muchos más, ya que en Bolivia no tenemos esa oportunidad por falta del mar.

La ida al bosque también me gusto, me canse mucho pero al final de todo pudimos ver una catarata muy bonita y pudimos refrescarnos en el agua.

Esa noche tuvimos una gran fogata a cargo de los chicos del staff y fue muy divertido porque bailamos, jugamos y lo mejor fue que nos divertimos un montón.

Antes de ir a los botes para practicar el sabani, vi un lugar donde criaban delfines y hacían demostraciones para niños y al ver delfines después de tanto tiempo me dieron ganas de tocarlos pero no pudimos ya que íbamos a practicar el sabani algo que nunca había hecho y tuve la oportunidad de hacerlo y me pareció algo cansador porque hay que hacer mucho esfuerzo, pero muy divertido e interesante.

Al día siguiente tuve también la oportunidad de aprender a bailar el “eisa” un baile muy típico de allá que siempre quise hacerlo.

Nos llevaron también al castillo Shiuri donde pude

ver un estilo y cultura muy diferente a lo nuestro. Por las formas de los techos, los colores, el piso, la ropa que usaban en esa época, etc.

Cuando llegamos a este lugar, me hizo acordar que cuando tenía 3 o 4 años ya había ido allí a tomarnos unas fotos con mis padres.

Fue un presentimiento raro porque yo sentí como que ya una vez estuve en ese lugar pero no me acordaba muy claramente.

Fuimos también al centro Internac. de JICA en Okinawa donde hicimos varias actividades como diferenciar objetos típicos y característicos de cada país, trabajos grupales, que creo que fue muy creativo.

También tuve la oportunidad de hacer una artesanía típica de allá, unos platos con flores de Okinawa, eso también me gusto porque yo misma los hice y también porque pude traerlo a mi casa y mostrárselo a todos.

Lo que mas me gusto fue el Museo de La paz, ya que pude escuchar una historia muy triste de una persona que estuvo en la guerra a sus quince años, cómo fue que lo vivió, e ir a ver el lugar donde las personas se escondían, ver un mar hermoso, el cual en esa época era el mar de la muerte ya que era donde muchas personas se quitaban la vida, para mi fue algo muy emocionante por estar en el lugar, ya que pude ver y tocar muchas cosas.

También fuimos al mercado “kokusai douri” donde las chicas del staff nos llevaron a conocer y ver como era el lugar .Era una calle en Naha bien grande donde venden regalos, recuerdos, comidas, ropas y de todo un poco.

Otra cosa también fue que recibimos mucha atención de parte de las personas del hotel por el rico desayuno que nos daban todos los días y de la pensión que también contrató a un señor que nos tocó unas canciones con el samisen .Fue muy agradable escucharlo.

Todos los lugares que fuimos a comer, la comida eran muy rica y siempre fuimos bien atendidos.

Otra de las cosas que me gusto fue que pude compartir con mis compañeras de cuarto y así yo también practique mi japonés con todas ellas.

Este tour también me hizo ver que por mas que hubo diferencias de lengua todos nos pudimos llegar a unirnos y querernos todos como hermanos.

También me gustó las actividades de los jóvenes del staff los cuales nos transmitieron alegría y

fuerzas los días que estábamos cansados.

Agradecer también a los traductores, ya que ellos también se esforzaron por hacernos entender todo y por habernos tratado excelente a cada uno, ya que ellos también tenían gran sentido del humor y siempre estaban pendiente de nosotros.

La fiesta de despedida fue muy emocionante, todos tuvimos la oportunidad de hacer demostraciones de lo que habíamos aprendido.

Pero luego al saber que todo había terminado, todos nos pusimos tristes porque la verdad todo pasó muy rápido.

Agradecerles a todos los chicos por todo el cariño, por ser como fueron, espero verlos de nuevo y compartir nuevamente juntos.

Hasta ahora no puedo creer que en una semana nos pudimos encariñar tan rápidamente con todos porque la verdad los extraño a todos.

Yo creo que este tour nos permite conocer la cultura y de donde provienen nuestros ancestros, nos hace ver también que la gente es diferente, tiene otro modo de vida, es mas amable, sencilla, la comida es mas sana y rica.

También me dio la oportunidad de estar con mis familiares que hacía mucho tiempo que no los veía, que no conocía y tuve la gran oportunidad de compartir y estar junto a ellos .

Nuevamente agradecer a las personas encargadas de este viaje ya que para mí fue una gran experiencia que me sirvió en muchos sentidos, como aprender una nueva cultura y también a tener una cadena de amistades en diferentes países.

Muchísimas gracias.

Hippee nijee deebiru





ヤマシロ ミッシェル

MICHELLE ALEXANDRA YAMASHIRO

15歳 4世

アメリカ USA

北米沖縄県人会



「ちゅらしま」

私が幼少の頃、誰も私の人種を言い当てることはできませんでした。人はいつも私に多分南米の人ですかと尋ね、私はそうだと答えたものです。また時にはアジア人ですかとも聞かれましたが、その時もイエスと答えました。また両方の質問にイエスと答えるものですからどうしてアジア人でもあり、また南米人でもあるのか、それは可能なのか等と聞かれると、私にも分からないと答えたものです。私も自分がどの人種に属しているのか分からずにいました。

私の両親はペルーで生まれ育ちましたが、二人とも純粋な沖縄人です。私は最近になって琉球舞踊を習いだしその文化を習うまでは、自分が沖縄人であることを知りませんでした。私は両親に、おじいさんやおばあさんが沖縄のどこから来たのか、なぜペルーに来たのか、沖縄についての事など色々尋ねました。両親は私の質問にすべて答えてくれました。それ以来、沖縄の白い砂浜に触れてみたい、エメラルドの海を見たい、沖縄料理を食べてみたい、沖縄の人と接したいと、沖縄に憧れを持つようになりました。そんな思いが日増しにつのり、沖縄に行きたいと強く願うようになりました。そしてなによりも、自分のアイデンティティを確かめたかったのです。

初めて沖縄の地に足を踏み入れたとたん“蒸し暑い”と体全体で感じました。でも気候を気にしないことにしました。それは重要なことでないからです。私の叔父にあたる人が迎えに来てくれました。一週間目は叔父さんの家にホームステイすることになっていました。国際通りの賑やかさや美しい自然、特に大きな木々や緑豊かな草木そして色彩豊かな海や白い砂浜を今でもよく覚えています。特に夕方那覇に着いた時の、未だかつて見たことの無いような透明で美しい空と月に感動しました。そしてもっと早く自分のルーツを知るべきだったと少し反省の念にかられました。ホームステイの第一週目は親戚に会いに行ったりあちこちを見学に行ったりしました。とても楽しかったです。皆が暖かく迎えてくれました。残りの一週間はホームステイのプログラムをこなすことになっていました。とうとう最後の一週間目に入りました。私はとても興奮して

いました。友達に会うのが待ちきれない思いでした。もっと友達ができると思うと嬉しくてたまりませんでした。

第一日目は通常の手続きのようなもので、スケジュールどおりに過ごしました。一番良かったのは最後に友達を作っておしゃべりをしたときでした。私は英語、スペイン語、ポルトガル語でのコミュニケーションで問題は感じませんでした。日本語は大変でした。しかし、その障害も解決する事が出来ました。夜になると沖縄の女の子たちが私の部屋にやって来て英語で話しかけました。私は日本語で答えようと努力しました。お互いに通じないところは辞書を引ながら会話をしました。私は皆がこんなにも一生懸命に言葉の壁を越えようとして会話をする態度を本当に好きになりました。私にとってコミュニケーションはそれほど大きな問題にはならないからです。なぜなら、英語・スペイン語・ポルトガル語は話せるので、日本語だって誰かの助けがあればすぐ話せると思ったからです。ゲームをしながらも、いろいろ学びました。たとえば共に手を合わせればチームワークで何でもできるということ。たとえそれがサバニ漕ぎであろうが会話であろうが演劇であろうがチームワークがしっかりしていれば何でもできるということを学びました。

第二日目、私たちは沖縄の北部へ向かいました。山原の比地大滝へハイキングに行き、自然から多くの事を学びました。2時間も太陽の下でハイキングをすることが楽しいとは思えず、初めはあまり乗り気ではなかったのですが、最後の方になると自然に夢中になっていました。自然の中で綺麗な空気を吸い、水の冷たさを感じて、多くの生物や植物を見る事が出来ました。私たちのグループは幸運にも、沖縄にしか生息しないという、あるとんぼを見る事が出来ました。このとんぼは鮮やかなブルーの羽を持った、美しいものでした。ペンションキャロライナに戻ったらボランティアの高校生達とゲームや焚き火をしました。とても楽しく交流しお互いをより深く知る事が出来ました。とても疲れる一日でしたが、私たちは会話やお互いの考えや沖縄の文化に関する意見交換をしたりして、楽しく時間を過ごしました。もちろん私たちは全員一致でこの交換プログラムは素晴らしいと結論づけました。とても

大変な一日ではありましたが、私は多くのことを学びました。

第三日目は美ら海水族館へ行きました。そこには世界一大きな水槽がありました。自由見学は良かったけどガイドが居た方がもっと沖縄の海洋生物のことを学べたのと思いました。いろいろな種類の魚や海藻を目の当たりにし、沖縄には多種多様な生物がいることに驚きました。見学後はビーチで昼食を食べました。その眺めがよかったこと。午後はサバニ漕ぎをして、さらに競争までしました。サバニ漕ぎは結構難しかったけど、とても楽しかったです。そして“家”にたどり着き、スタッフの方々によって盛り上げられた素晴らしい夕食を楽しむ事ができました。最後に彼らは私たち全員に立ち上がりて踊るよう言い、歌を歌っていた人が私と二人の県内参加者に、ステージに上がって、他の参加者にどうやってこの踊りを踊るか見せてあげて欲しいといいました。指名されたことにはびっくりしましたが、とても興奮しました。その夜はとても楽しい時間を過ごし、幸せな気持ちで眠りにつかしました。

第四日目は三味線か琉舞かエイサーのうちから一つ選んで体験をする日でした。私はエイサーを選んで、数時間ほど、音楽に合わせたステップと踊りを習いました。先生が「今日覚えた踊りはさよならパーティで踊ることになっていて、そのときは自分達も見に行きます。」と仰っていました。皆、踊る事を本当に楽しんでいました。練習で一番楽しかったのは、どうやって“アツィ”とか“ヒヤサーサー”と言うかを学んだ部分でした。口笛の吹き方の練習も楽しかったです。残念な事に誰も出来なかったのが、先生たちが代わりにそれをやらなければなりませんでした。練習の後は祭りに行きました。そこでお昼ご飯とかき氷を食べました。お祭りを見るのも、色んな出演者達を見るのもとても楽しかったです。午後は北谷の浄水場へ行きました。そこでは長く時間が取られていて、少し疲れましたが、沖縄の人々がどうやって水を確保するかを学ぶことは非常に興味深いものでした。その日の最後は、JICA 沖縄国際センターへ行きました。初めのうちは少し退屈でしたがゲームなどを通して沖縄の移民たちがいかにして新しい環境に適応していったかを見る事が出来ました。また、自分達の祖先の話や、彼らがなぜ移民したのかなどを皆と共有しました。他の参加者の祖先たちの人生や体験談を聞く事は、とても興味深いものでした。この部分こそがまさに自分自身で混乱していた事でした。まだ自分のアイデンティティに関して確信を持つことが出来ていなかったのです。ですが、この時ほどはっきりと自分がアメリカ人であることを意識したことはありませんでした。さらに、南米の参加者達との繋がりも感じ、なによりも、沖縄の文化をとても身近に感じる事が出来ました。私は軽い喪失感を感じましたが、この旅を終える頃には、沖縄

の文化や自分のルーツに関して沢山の事を発見する事が出来るだろうし、結局のところ自分は何者であるのかという答えを得る事が出来るだろうと感じました。

第五日目は首里城に行きました。首里城は中国文化を色濃くうけた建物でしたがそこに沖縄の特色も観ることができました。首里城の歴史に関して簡単な説明を受けたあと、私たちは一時間、自由に場内を見学しました。首里城のためのツアーガイドがいれば良かったなあと思いました。歴史の一片を友達と見て回るのも楽しかったです。様々な美しい色、装飾を見る事が出来ました。その次は沖縄で最も偉大な王の一人とされている人物のお墓を見に行きました。お墓は大きくて廃墟のようになっていましたが、とても美しかったです。また、私たちは骨壺の複製を見る事が出来ました。デザインが凝ってれば凝っているほど、高い身分の人物の骨壺なのです。それから博物館と食堂が一緒になった場所へ行きました。そこには泡盛のコレクションがありました。一番おもしろかったのは中世時代のトイレでした。それは私が今までに見た中で一番素敵なものでした。その後、伝統工芸教室に行きました。私たちは漆器、首里織り、紅型のどちらかを選んで習うことになっていました。私は漆器クラスを選びました。先生は老人で、どんな風に漆器をカットするかを実際に切りながら教えてくれました。先生の手は正確にハイビスカスの花を漆器に切り刻んで行きました。私たちもそれに倣いました。わたしは自分の作品があまり良い出来ではないと感じましたが、先生が初めてにしては上出来だと褒めてくれました。そして、普通はただカットするだけで 20 年かかるが私たちグループはまれに見る上手なグループだと褒めてくれました。先生にそう言ってもらった後、自分の作品に満足することができました。作品を作り上げた後は時間が余ったのでそこにあるものを全部見て歩き回りました。

紅型の体験は、正しい色を選ぶのと正しいデザインを選ぶだけでも本当にむずかしいと思いました。首里織りはとても素晴らしく、どんな風に織っているのか、またどうやって色をつけるのかに興味を沸いたので、首里織りをしてみたいと思いました。私は自分たちのグループのプロジェクトでないものも見に行きました。そこには子供たちが獅子を作るプロジェクトがあり、子供たちがこんなにも立派な作品を作ることが出来るのだと知って驚きました。また職人がガラス吹きをしているところも見ました。それは素晴らしく、本当に不思議なものでした。そのような作品をつくるには、芸術的な才能がなければ出来ないと思いました。私はとてもガラス作りの体験を試みたかったのですが、私たちの体験プロジェクトには無かったので、出来ませんでした。その日はとても疲れましたがいろいろ学ぶ事が出来て、楽しい一日でした。

最後の日は慰霊の塔平和祈念資料館へ行きました。戦争で何が起こったか知りたいと思っていたので、この日の行事は私が一番行きたいところでした。前に母が、曾祖母はどのように沖縄戦から逃れて安全にペルーに渡ってきたかを話してくれたことから、興味を抱いていたのです。平和祈念資料館で、ある男性の戦争中の体験談を聞いて涙が流れ出しました。戦争というものがいかに残忍に人を傷つけ殺傷するかを知り、私の心は傷つきました。私たちは、腕の中で死んでいった友の話や日本兵に殺された赤ちゃんのこと、家族全員死んだ男の話などを聞きました。このような恐ろしい恐怖を味わった沖縄の人々を見るのは辛いことでしたのでお話がやっと終わった時、私はほっとしました。その後は自由時間になったので私は一人になりたくて平和祈念資料館を見ながら歩き回りました。そしてショッキングな写真を見てしまいました。それは小さな子供が汚れた身なりで地べたに座って泣いているものや、女性が泥の中で死んでいる様など、いろいろな恐ろしい光景を写していました。終戦宣言のビデオも聞きました。いろいろな人の証言も読みました。証言の最たるものはある女性の証言で、一瞬の間に大勢の人々が死んでしまった事やある人々は家族の死に遭遇し、怪我をしてもなお安全な場所を求めて逃げ回ったものなどでした。祈念館の最後の部屋には平和や兄弟をテーマにした詩がたくさん展示されてありました。その最後の部屋を出ると海が見えました。その海が、若き看護婦たちが飛び降りた所でした。かつてこの海は兵士や子供、愛する人たちの血で染まった海でした。後で壕も見学しました。また遠くにある神社にもお参りにも行き、手を合わせると、ガイドさんも同じように手を合わせてお辞儀をしていました。お辞儀の後見上げた時目の老人の目から涙が流れていてとても美しいと思いました。私は死んだ人々の魂が永遠に、安らかに眠れるようにとお祈りました。その次は長い距離を歩いてバスに乗り、国際通りへ行きました。国際通りは沖縄の現代の生活を映し出していました。お土産屋さんや食べ物屋さん所狭しと立ち並んでいました。サーターアンダギーのおいしかったこと。最後に県庁に戻り家に帰りました。

最後のさよならパーティではそれぞれの外国人参加者がスピーチをし、三味線や舞踊やエイサーを披露しました。とても楽しかったのですが、一番よかったのは最後に皆が集まり、輪になって歌を唄い、抱き合って別れを惜しむのができたことでした。こんなに仲よくなっておいて別れなければならないのはつらいことでした。お互いの住所を交換して幕を閉じました。

最後になりましたが、私は沖縄の文化を学んだだけでなく沖縄に関連した文化、更にアメリカの文化をも学ぶことができました。またチームワークの大切さや人の話に耳を傾け、記憶にとどめる事の大切さも学び

ました。何よりも自分自身を発見することができました。そして戦争の苦しみを知りました。英語を話したりしてアメリカ人のように振る舞っていても、またスペイン語を話してサルサダンスを踊っていても、私の奥底にはいつもゴーヤーチャンプルーを欲しがる沖縄の心があるでしょう。

“Chura Shima”

When I was little, people could never tell what ethnicity I was. They always asked if perhaps I was Hispanic, and I would answer yes. They'd ask if I was Asian, and I would say yes. They asked me how I can be both, and I would answer "I don't know." I never knew how to classify myself. My parents were born and raised in Peru; however, they are both full blooded Okinawans. I didn't even know I was Okinawan until recently, when I started taking Okinawan dance classes, and started to learn about the culture. I asked my parents about Okinawa, where our family is from, why we went to Peru, etc. I had my answers, and with these answers, I yearned to go to Okinawa. I wanted to feel the sand, see the oceans, eat the food, see the people and most of all learn what my identity is.

The first step onto Okinawa land, was hot, but the weather was the least of my worries. My uncle was taking me to his home, where I would be living at during the home stay week. I remember passing through Naha and seeing the busy streets of Kokusaidori. The thing that caught my attention the most was the picturesque view of all the nature. I saw big trees, lush grass, beaches, and of course the night sky. I don't think I have ever seen such a clear and beautiful sky and moon, as the night I arrived in Okinawa, I felt as if I had taken a step towards knowing about my family roots. I spent my home stay week traveling about, and seeing family and friends and just being so happy and feeling so welcome to Okinawa. Then the week came for the actual program. I was so excited, I couldn't wait to see my friends, and make so many more.

The first day was standard procedure. We went over the schedule, etc. The best part was when we got time to make friends and talk. I had no trouble communicating with the English speakers, as well as the Spanish or Portuguese speakers. It was the Japanese that was difficult, but we overcame that barrier. At night, when we got into our rooms, the Okinawan girls and I would try to talk to each other. I'd try to say things in Japanese, they'd try in

English, and if it failed, we'd go through the dictionary trying to communicate. I loved how everyone tried so hard to break the language barrier. I guess for myself it was easy to communicate. I could speak English, Spanish, Portuguese, and with help could speak Japanese. From playing games where we had to communicate, I learned a lot about teamwork. I learned how working together we could do anything, whether it is rowing a Sabani boat, talking, or performing.

The Second day we went to the north part of Okinawa. We went hiking in Hiji falls, and learned a lot about nature. At first I wasn't really looking forward to the hike, two hours of hiking under the hot sun doesn't sound like fun, but in the end I became absolutely intoxicated by nature. I could breathe in clean air, feel the cool water, and I could see so many plants and animals. Our group was lucky enough to see a dragonfly that is only in Okinawa. This dragonfly had bright blue wings, and was so beautiful. When we returned to Pension Carolina, we played games with some of the volunteer high school kids, and had a nice bonfire. We all had fun and interacted and just spent the time becoming more acquainted with each other. The day was tiring, but that didn't stop us from talking and sharing our ideas, and opinions about the Okinawan culture. Of course, all the students agreed so far the tour was absolutely wonderful, and so much fun.

The third day we went to the Churaumi Aquarium, here we saw the biggest tank in the world. It's amazingly huge. I loved the fact that we got the freedom to look around, but it would've been more interesting if we had a tour guide and got to learn even more about all the marine life in Okinawa. I saw so many fish and plants from the oceans of Okinawa and I was so amazed at the diversity of animals. We then went to a nearby beach, we ate lunch here and the view was spectacular. We rowed Sabani boats, and even had a contest. It was hard, but it was so much fun. We arrived at "home" and had a nice dinner, and we were entertained by the staff. They played a few traditional Okinawan songs. At the end they asked us to stand up and dance. The lead singer asked two Okinawan girls, as well as me, to go up and show everyone how to dance. I was so shocked and excited that they would pick me. We had a great time and went to sleep happy.

The fourth day we went to go learn either Sanshin, Ryu-kyu Buyo, or Eisa. I went to learn Eisa, and we spent a few hours dancing and learning steps to a song. Our teachers said that we'd have to perform this dance at the "Sayonara" party, and that they'd come and watch us. Everyone had a great time dancing, and the best part was when we learned how to say "Ati" and "Easasa". I also liked it when we tried to whistle, unfortunately none of the students could do it, so the teacher had to do it. Later, we went to a festival and ate lunch, as well as shaved ice. I loved seeing the festival and the performers and everything. We went to a water company in Chatan, they desalinate water, it was kind of long and tiring, but it was interesting to learn how Okinawan people get their resources. At the end of the day we went to an Immigration center, this was also a bit tiring, but the exercises showed how Okinawans adapted to their new environments. We also got to share stories of our ancestors, and how they immigrated to the several countries. It was really interesting to learn about other people and their life stories. This is the time where I felt confused. I still wasn't sure about what my identity is. At that point, more than ever I felt so American, yet I could relate to the South American kids, and on top of that I felt so familiar with the Okinawan culture. I felt a little lost, but I felt like by the end of this trip I would find out so much more about my past and Okinawan culture, and ultimately discover who I am.

On the fifth day we went to Shuri-Jo castle. I saw a lot of the Chinese influence on this castle; however, I could also see Okinawa's distinction. We heard a little bit about the castle's past, and then we were allowed an hour to look around the castle. I wish that we had a tour guide for this castle also, but it was fun to look at the pieces of history with friends. I saw so many rich colors and beautiful decorations. Then we went to a tomb of one of the greatest Emperors of Okinawa. It was huge, and although it was almost in ruins, it was beautiful. We saw replicas of the vases that hold the bones, the more intricate the design the higher the status. These vases were huge with gorgeous designs. Then we went to a restaurant/ museum to eat. We saw collectibles that the owner had found throughout the years. We also went and saw his awamori collection. The most interesting thing we saw was a bathtub/toilet used in ancient times in Okinawa. It

was the coolest thing I saw there. Then we went to a place where we would make traditional Okinawan things. You could choose from Shiki (lacquer), Shuri-ori (textiles), or Bingata (the dying of Kimonos). I went to the shiki class, and I am so glad I did. The teacher was an old man, but don't be fooled by his looks. He went to show us how to cut the lacquer pieces, and his hand was steady and he cut perfectly the shape of a Hibiscus flower. We went to do the same, I felt as if mine wasn't really that good, but the teacher said that he never saw a better group of kids, that our work was really good for beginners, usually, he said, it takes twenty years just to be able to cut good enough. After he said that, I was really proud and happy with my work. When I finished we had a lot of free time, so I went to look around at the other projects. Bingata looked really hard to get just the right colors, and the right design. I really wanted to try Shuri-ori. I thought it was so amazing how they made the textiles, and the colors were beautiful. I went to go see projects that weren't part of our group. I saw children making Shisa, it was amazing how these kids could do such nice work. I also saw people doing glassblowing. I thought it was absolutely amazing. They need skill, and art, and grace to be able to make such beautiful pieces of art. I really wanted to try it, but it wasn't part of the program. It was a really tiring day, but I learned a lot and enjoyed it too.

On the last day we went to the memorial peace museum. This part of the tour was the part I was most looking forward to. I wanted to learn about what had happen in the war. My mother told me how my great-grandmother had to escape and work to be able to arrive safely in Peru. When I heard the story of the man that lived through the experience, I cried. My heart broke at the terrible things war can do. We heard that the old man saw his friend die in his arms, saw his family perish, and even saw a little baby getting killed by soldiers. When it was finished I was somewhat relieved, it was so difficult to see all of the terrors the Okinawa people had seen. After we got to go look around the museum on our own, I decided to walk alone because I wanted to experience this museum solitaire. What I saw shocked me. I saw pictures of little kids crying on the ground, I saw pictures of old ladies dying in the mud. I saw things so horrible. I heard the videos of declarations of war. The worst part was the testimonies. I read the testimonies of young women

that had seen so much death within a matter of seconds. They had seen their whole family dead. They had been hurt and injured, but they still went on searching for a safe place. As I walked out to the final rooms, I saw a blank wall with kanji written on it. It was a poem about brotherhood, and peace, and I felt so close to the people in Okinawa. As I walked out to the last rooms I could see a view of the ocean. That was the ocean in which the nurses jumped into. The waters of this ocean were once covered in blood, blood of soldiers, of children, loved ones, etc. Later we walked to see a few caves where soldiers stayed to hide in. We even went to a shrine that was for all of the victims of war. I bowed my head silently, and the old man that was our guide bowed as well. The old man then looked up, and he had a tear coming down his cheek. It was the most beautiful thing I had seen. I prayed for the souls to rest in peace and walked.

After the long walk to the bus, we went to Kokusaidori. There we saw the modern life of Okinawa. We saw the stores, and even ate some Sata Andagi, that was so delicious! We then walked back to the government, and went home.

At the Sayonara party each foreign student gave a speech, and then we presented out Sanshin, Ryu-kyu Buyo, and Eisa performances. It was fun and nice, however the best part was at the end. All the participants gathered around and sang a song together, we gave each other hugs, and joined hands, and said our final goodbyes. It was so hard to say bye, we had spent all week with each other, and almost immediately, after sharing so much together had to be pulled apart. We made sure to exchange numbers, addresses and everything else.



In the end I learned not only about Okinawan culture, but also about cultures around the world, even American culture. I learned about teamwork, listening skills, and the importance of remembering things. I found out a lot about myself, and about the struggles in life. I learned that no matter that I speak English, and act like an American, or even that I can speak Spanish and dance salsa, I will have , deep down in my soul, a craving for goya champuru, and have Okinawa in my heart, always.





イタリアーノ チャンス ケンイチ

CHANCE KENICHI ITALIANO

14歳 1世

アメリカ USA

ユタ州沖縄県人会



「ジュニアスタディーツアー2005」

沖縄滞在中、僕はとてもすてきな時間を過ごしました。沖縄の地形や文化について学べた事をとても嬉しく思います。沖縄で泳いだり、伯父や親戚の人たちとの時間を過ごしたり、いろんな場所を訪れたり、昔の友達をたずねたり、新しい友達もできたりと、本当に素晴らしい時間を過ごす事が出来ました。今まで知らなかった沖縄の事を学ぶと同時に違った国から来たツアー参加者とも友達になりました。日本政府（沖縄県観光商工部交流推進課）が僕を参加者の一人として選んでくれた事をとても嬉しく思い、感謝しております。

ジュニアスタディーツアーはとても素晴らしいプログラムだと僕は思います。このプログラムは、沖縄の血を引く若い世代のツアー参加者達に、先祖から続いている文化や現在の新しい沖縄を教えてください。僕は沖縄で11年暮らしましたが、そんな僕でもお母さんが話してくれなかった沖縄のことをたくさん学びました。それと同時に他の国々からの参加者の皆さんからその国について少し学ぶ事が出来ました。自国紹介の時は今まで全然知らなかった国の事も学びました。僕が10歳の頃から習ってみたいと思っていたエイサーも学ぶ事が出来ましたし、もう一度沖縄の海を訪れる事もできました。

比地大滝へのハイキングはとてもよかったです。沖縄に住んでいた頃、家族で同じ場所をハイキングした事を覚えています。沖縄の植物形態や亜熱帯地方の建築、世界でも希少な生物について学ぶ事はとても楽しかったし、その学習を通して沖縄は世界の中でも貴重な場所だと感じる事ができました。トカゲを捕まえたり、青く光る珍しい糸トンボを見られたりした事もすてきな体験でした。昼食は小さな滝の傍で写真を撮ったりしながら食べました。ハイキングは長くて辛かったけどそれだけの価値はありました。比地大滝の旅で泳げなかった事は残念でした。泳げたら最高だったのに！比地大滝の旅でも沖縄について多くの事を学びました。バスの移動もとても楽しかったです。バスの中では各国の参加者がその国の特色のある歌を歌いました。僕達（米国）はツアーの担当者（玉城さん）がアメリカの参加者を指名しない事を祈っていました

が、祈りが実らず、アメリカの国歌を歌いました。ペンションキャロライナに着いてからのキャンプファイヤーも、とても楽しかったです。アメリカの参加者は他の子供達とfrisbeeを投げて遊んだりし、またキャンプファイヤーの回りで踊ったりしました。とても楽しかったし、新しい友達も何人かできました。ホテルでは遅くまで起きていました。何人かの参加者達は他の参加者の部屋を訪ねたりしてどンドン友達も増えていきました。みんな大体夜中の2時頃まで起きていましたが、僕と友達二人は一度だけ朝の4時半まで起きてその日はとても疲れていました。

海洋博記念公園の見学はとても楽しかったです。珍しい魚や沖縄近海の興味深い事実を学ぶ事ができました。サメや色鮮やかな魚が泳ぐ姿はとても美しかったです。サメや珊瑚礁について学び、サメの赤ちゃんも見ることができ、サメの肌に触れる体験もできました。海洋博には深海魚もいて、深海魚は暗い海に住んでいるという理由から、水槽の中も暗くしてありました。世界で一番大きいと言われる水槽も見ましたが本当にとても大きかったです。鯨、鮫もその中にいて、その水槽の隣にはレストランがありました。それは私が今までに見た中で一番すごい水槽でした。水族館の中を全て見終える事ができなかったのもっと時間があつたら、と残念に思いました。

海洋博の次は、港に移動して昔の沖縄の人達がどんな船で漁業をしていたかを学びました。船はサバニと呼ばれていました。沖縄のカヌーです。サバニは魚の網を引き上げやすくする為に傾きやすい作りになっているのだと教わりました。港ではまずカレーライスを食べ、ライフベストを着てから船のこぎ方を習いました。船の一番後ろの人が鐘を鳴らすと皆で同時にカイをこぎます。陸でカイのこぎ方の基礎を習った後、実際にサバニに乗ってこぎ練習をしました。練習の後は200フィート程はなれた浮標まで4艘のサバニで競争しました。僕達のサバニは3位でした。鐘を鳴らす人がとても早く打ち鳴らすのでサバニこぎは難しく、カイの水しぶきで濡れた人もいました。ペンションキャロライナで行われた夕食後の交流ゲームもとても楽しかったです。テレフォンゲーム、三味線ショー、方言の翻訳ゲームなどとても楽しく、方言ゲームは難し

かったけど、司会がとてもおかしかったです。

日曜日（4日目/24日）、ツアーの後は那覇のレインボーホテルに移動ということだったので、出発前に荷物をまとめました。僕は寝坊してしまって慌てて荷造りをしました。ペンションを出発した私達は小さな村、恩納村に移動して、そこで沖縄の文化を学びました。僕と、アメリカからの参加者の殆どと10人の他の子供達とで、エイサーという沖縄の太鼓踊りを練習しました。他のグループは琉球舞踊と三味線の練習をしました。エイサーはとても楽しかったです。他の人たちも楽しんでいました。只一つの問題点は琉球舞踊の部屋には冷房がかかっていたのに、エイサーを練習した部屋には冷房がなかったことです。練習の後は恩納村祭を体験して私はそこでシーサーの絵の入ったカッコいいTシャツを買いました。

北谷町の海水淡水化施設は素晴らしいものでした。その施設で海水を飲料水に変える事が出来るという事は凄い事だと感じました。この開発は沖縄の水不足に役立つと思います。僕達は施設内の見学で淡水化の工程を学びました。水質比較についても学び、凄いと思いましたが、あまり良く理解できませんでした。施設内では色んな珍しい機械を見学し、海水中の泥を脱水泥ケーキにして処分する事を知り驚きました。施設見学の後は沖縄国際センター（JICA）で沖縄の移民の歴史を学びました。そこではヤシの木を使って家を建てている人の写真からその人たちの生活を想像したり、土産品からその土産品の産地を当てたりするゲームをしました。その後は個人の体験話からその話についての要点を話し合っ発表するグループ論議で難しかったけど、そこから移民の厳しさや、移民した人たちがどのようにその土地に適応し、自分の文化を残しているかを学びました。

僕が沖縄に住んでいた頃、首里城はまだ工事中で、新しく立て直された首里城を訪れるのは今回が初めてでした。8歳の頃から行きたいと願っていたので首里城に行けてとても嬉しかったです。守礼之門では感動しながら昔は王様と偉い人しか通れなかった中央門をくぐりました。守礼之門を通ると城内に入る門を通過して深く王様が住んでいた城内に入っていました。中に入ると、屋根に3つの竜をおいた真っ赤な建物があり、それはとても素晴らしかったです。僕達は実際にその建物の中に入り、城の作りを見学する事ができました。その城は現在までに3度たてなおされたのだそうです。僕達は王様の椅子も見学する事ができました。僕は首里城で沢山の写真を撮りました。城内には王様の冠や王様のお祈りの部屋もありました。見学の最後は首里城のビデオ、モデル、ギフトショップなどがありました。首里城見学では買い物禁止されていたのでみんな残念がっていました。

首里城見学の後は沖縄の文化工芸の体験学習をしま

した。僕はテープで花を作りそれを皿にはりつけました。完成品はとても綺麗に見えました。まず花柄の入っているチョークのかかった紙をテープにこすり付け、テープに花模様を移します。テープを花模様に沿って切り、テープの花を切り取ります。それを皿に貼り付けます。花のイメージをはっきりさせるためにもっとテープを貼り付け、花らしいデザインに仕上げます。大体1時間で仕上がりました。私たちの工芸は早く終わったので、紅型のグループが終わるまで待たなければいけませんでした。30分程すると僕は疲れて体力が衰えてくると、寒さを感じました。僕は日差しを浴びながら眠りにつきました。これが原因で僕は気分が悪くなったのだと思います。空港の近くでバスが止まったとき、僕は本当に気分が悪くなっていて、みんなが楽しそうにはしゃいでも只疲れを感じるだけで、動くのも嫌でした。レストランにいったときは気分が悪く、夕食も喉を通りませんでした。吐き気がしたので、僕はレストランの別の部屋で横になりました。ホテルに戻ったときはホテルで過ごす最後の夜という事でみんな遅くまで起きていましたが私はすぐ寝ました。病気になると言う事は楽しくないです。

僕は病気で最後の日はツアーに参加できませんでした。最終日は国際通りに行く日で、僕は国際通りには行った事がありますが、新しい友達と行けたらどんなに楽しかったらと思うます。国際通りの代わりに、僕は病院に行きました。薬をもらって一日中寝ました。修了式のために体力を取り戻しておかなければいけないと友達が言うので一日中我慢して寝ました。

修了式の会場には行きましたが、まだ病気は治っていませんでしたので友達にさよならを言うためだけに参加しました。最後のスピーチはできませんでしたが、皆で練習したエイサーは踊りました。会場では僕の好きなイトコのハルカにあいました。彼女とは沖縄に来て以来会いたいと思っていました。空港で皆の悲しそうな顔を見てゲートに入っていくのはとても辛かったです。またいつか沖縄に戻ってみんなと会いたいと思います。沖縄県（沖縄県庁）の皆さんには今回の体験旅行をさせてもらったことに感謝しています。そしてエンジェルさんにも、私達の面倒をみてくれた事に対し、感謝しています。

2005 Junior Study Tour

I had a great time at Okinawa. I'm glad that I got to learn the culture and landscapes of Okinawa. I really had a great time swimming in the beach, hanging around with my uncles and relatives, visiting places and old friends, and making new friends. I got to learn new things about Okinawa that I've never knew while I was there, and I made

new friends in the tour group who are from a different country. I am glad that the Japanese government chose me to be part of that group. Thank you very much.

I think the program is awesome. It brings all the Okinawan descendants to learn about their ancestor's culture, and learn new things about Okinawa. I've lived in Okinawa for 11 years and I still learned a lot of things about Okinawa that my mom never told me. Also, since there are people from other countries, I learned a little from them too. The country presentation taught me about other countries that I never knew before. I got to learn Eisa, which I wanted to learn since I was 10 years old in Okinawa, and I got to visit the sea again.

It was really cool trekking in the Hiji Falls. I remember hiking up there with my family when we were there in Okinawa. It was really cool learning about Okinawa's ecosystem and that Okinawa's semi-tropical climate houses some of the rarest creatures in the world. Those made me feel that Okinawa's very important to the world. We caught salamanders, and saw a rare dragonfly that glowed blue, which was pretty neat. When it was lunch time, we ate our lunch beside a small waterfall and took pictures of it. The hiking was hard and long, but it was worth it. It was too bad that we didn't get to swim in the Hiji falls. That would have been awesome. I learned a lot about Okinawa on that trek. The bus ride was fun both ways. A person from each country had to sing a song that originates from their countries. We were hoping that the tour leader would forget about the United States, but we had to sing, so we picked the national anthem. The campfire we had after we moved to Pension Carolina was also fun. My country group and I played Frisbee and danced beside the fire with everyone else. That was really fun, and I got to make even more friends. We always stayed up late in the hotels. Lots of people would go to other peoples' rooms, and make more friends. Usually, people stay up and talk until 2:00 am, but once me and 2 of my friends were up talking until 4:30 am. I was tired the next day!

The trip to the Ocean Expo was really fun. I got to see really cool fish and interesting facts about the ocean around Okinawa. It was really cool seeing the sharks and the colorful fish swim in a huge tank. I also learned about sharks and the coral. I saw a baby shark in a tank and got to touch shark skin.

There were also deep ocean fish in the expo. The lights were really dim there, because they are used to little light. I saw the biggest aquarium in the world in the expo. It was huge! I saw whale sharks swimming in there, and there was a restaurant next to it. It was the coolest aquarium I've ever seen. I wish I could have spent more time in the aquarium because I didn't get to see all the aquariums in the expo.

After we went to the expo, we went to a harbor to learn about what kind of boat Okinawans used to use for fishing. The boat's called Sabani, and it's an Okinawan canoe. The Sabani tips over easy, making it easier to pull the fishing net. We first ate curry rice at the harbor, and we put our life vest on and learned how to row. When the person at the back rings the gong, we have to row at the same time. After we learned how to row, we got on the boats and we practiced rowing. It was fun, until we had to race against the other boats. We raced to another buoy, which was about 200ft away. We raced, and we placed 3rd. It was really hard, since the gong ringer ringed the gong fast. Some of us got wet because of the oars splashing water at people. We also collided on other boats and taunted each other. It was really fun and educating. The exchange program after dinner at Pension Carolina was really fun. We played telephone, we saw the some people play the samisen and taiko, and we tried to guess the Hogan words that the people on the stage said. That was really hard, but fun. The host was really hilarious.

On Sunday, we had to pack up our stuff because we were moving back to the rainbow hotel after our tour trip today. I woke up a little late, so I had to hustle. We left the pension to a small village of Onna, where we learn the culture of Okinawa. Me, most of my country group, and 10 other people learned Eisa, an Okinawan drum dance. The others learned Ryukuan Dance, and Sanshin. Eisa was really fun, and everyone else had fun too. The only catch was that there was no air conditioning. But the place Ryukuan Dance was being taught had air conditioning. It was fun strolling around in the festival after we ate lunch. I bought a T-shirt with a Shisa, which was pretty cool.

The Sea Desalination Facility in Chatan was pretty neat. I thought it was cool that this facility can change sea water into drinking water. I think that helps Okinawa with the drought it's been

having. We took a tour of the facility and we learned how it works. The reverse osmosis was pretty cool, but I didn't fully understand it. We got to see all the fancy machinery and how the clay picked up from the sea water turns into clay cakes. I thought that was neat. When the tour was done, we went on the bus and we went to the Okinawa International Center to study Okinawa's immigration history. We tried to determine what's going on with a picture of a bunch of people building a house in place with palm trees. And then we got something that came from a country and had to guess where it was from. After that, we read a life story about a person and we had to summarize it and express what the writer was trying to tell us from that story. It was a little hard, but it was really educating, and I learned how hard it is to immigrate to another country and blend into the culture but still keep your own.

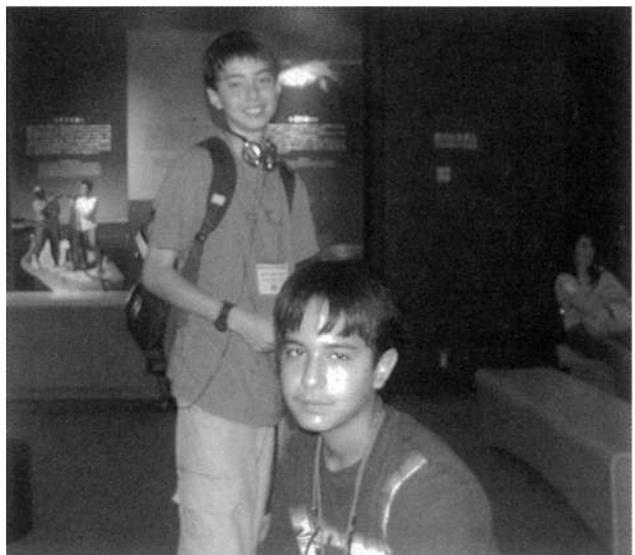
I never went to the Shuri –Jo Castle before, since it was being remodeled when I was in Okinawa. I am really glad that I got to go there, since I wanted to ever since I heard about it when I was 8 years old. When we got there, I was so excited. I walked into the gate which only kings and his friends and relatives can pass. It was really cool passing those gates. People say that its good luck passing through the middle part of the gate, so everyone passed through the middle. After we passed through the gate, we passed through another one that went deeper into the castle. After a while, we came to the place where the king lives and where his throne is. It had 3 dragons on its roof, the color of the manor was bright red, and it was just plain cool. We actually got to go inside the manor and got to see the foundation of the castle, which stood for over hundreds of years, and the castle was built on the same foundation 3 times. We also got to see the king's throne, and I took lots of pictures of that. There was the king's crown, and a room where the king prayed to the spirits. When we left, we saw a video of the Shuri Castle, and there were models of the castle, and there were gift shops. We weren't allowed to buy gifts on the tour, so everyone was bummed out.

After we visited the castle, we went to Traditional Craftwork Class. I made a flower out of tape and put it on a plate. It looked pretty cool. First, I rubbed chalk from the paper to the tape so that it'll make the shape of the flower, then cut the outer

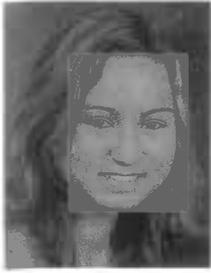
lines out to make a flower, and then tape the flower on the plate. Then I cut more lines to make the flower look more real. It took about an hour to finish. After that, we had to wait for the others to finish on their bingata. After 30 minutes or so, I started to feel tired and weak. I felt cold too, so I lied in the sun and fell asleep. I think that's when I started to get sick. I really started to get sick when we stopped near the airport to walk when the tide was low. Everyone else was having fun, but I was just too tired and I didn't want to move. I thought that this was strange. When we got to a restaurant to eat, I got really sick and I couldn't eat anything, and I had to lie down because my stomach felt sick. When we got to the hotel, everyone stayed up late, since it's the last day we're going to stay at a hotel, but I had to go right to sleep. Being sick isn't fun!

I couldn't come with the tour on the last day because I was too sick. I was supposed to go to the kokusai dori, the busiest street in Okinawa, and I went there, but it would have been cooler if I went with my friends. Instead, I went to a hospital, got some medicine, and just slept and read all day. My friends said that I had to gather my strength for the farewell party, so I slept all day.

I went to the party, but I only came to say goodbye to my friends, since I was still sick. I couldn't do the speech, but I did Eisa that I learned earlier in the tour. After that, I met my favorite cousin, Haruka, who I wanted to see since I came to Okinawa. I hated to see everyone sad when I was going to my gate in the airport. I hope I can go back to Okinawa and visit them someday. I really thank Okinawan government for this experience and Angel-san for taking care of all of us.







イーブリー マケーナ ヴィカーシャ
MCKENNA VIKASHAA EASLEY
18歳 2世
アメリカ USA
ワシントンD. C. 沖縄会



「ジュニアスタディーツアー2005に参加して」

私がワシントン D.C.の沖縄県人会に参加するようになったのは、5年前にペンシルバニアのゲティーズバーグに引っ越してからです。私の琉球舞踊の先生である知花和子先生からこのジュニアスタディーツアーのことを聞いた時、沖縄の親戚を訪れたり、私が育った地域などを訪れたり、世界から集まる沖縄県系子弟に会ったりと、自分の文化について何か新しいことを学ぶいい機会だと思いました。応募用紙を記入して提出して間もなく、私がワシントンD.C.代表として選ばれたという連絡がありました。私はその結果を聞き、とても喜びました。私は沖縄で生まれ育ち、いろいろな地域を訪れてはいますが、このツアーに参加する事によりもっと成長した目でこれらの場所も見て、その歴史を学ぶいいチャンスだと思いました。私はこの機会を与えられた事にとても感謝します。

この旅行は形式的には私が行くと言う事を最初に聞いた時から始まりました。しかしながら、沖縄を訪れると言う現実味は実際的には早朝、父と空港に到着するまで実感することができませんでした。ルーマニアに交換留学生として一人旅を以前にした事がありますが、なぜか今回は少し違っていました。そのとき感じた興奮と感情は今までに感じたことのないものでした。ルーマニアを訪れた時は、新しい土地を旅し、そこで新しい人々と出会い、新しいことを経験しました。このスタディーツアーは、私が以前に訪れた事のある土地で、新しい人々に出会い、しかし同時にそこに住む私の親戚との関係を再確立し結びつけるものでした。私は大阪空港で食べた「たこ焼き」の味を忘れることはないでしょう。食べ物と飛び交う日本語に私が本当に日本にいることを実感しました。それは慣れ親しんでいたものですが、とても心地よいものを感じました。

沖縄の空港に到着した時にはとても疲れてはいましたが、私の親戚との再会はすごくうれしく思いました。二人の叔母、祖母といとは空港で私を出迎えてくれました。私と同様に、迎えてくれた親戚の皆さんも再会を大喜びしました。そして、祖母が私の到着する一時間も前から大勢の人ごみを掻き分けて、いつ到着するかと窓から覗きこんでいたと、その様子を皆がおかしく表現して笑いこける様子が何とも微笑ましく感じ

ました。私は4年間も会っていなかった親戚に対し少し照れ気味でしたが、空港での温かいお迎えに、恥ずかしさも緊張感も和らぎました。空港から家路への道中でも面白い経験をしました。私は祖母と叔母と一緒に車に乗りました。私は、日本ではアメリカと反対側の道路を運転する事をすっかり忘れていました。反対方向から走行して来る車を見てとても怖かったのです。祖母は私と後方席に座っていましたが、私の手を握り締め、私が住んでいた頃とは変わった町の風景、たとえばモノレール等を指摘してくれました。祖母は私がそばにいるということをととても喜んでおり、それがよく伝わってきて、それはまた私をぐっと心地よくしてくれました。

翌朝、私が起きた時には祖母以外は皆仕事に出かけたあとでした。その週のほとんどを祖母と過ごし、町を歩き回り、お店に行ったり、彼女の友人達に会ったりして、祖母のことをよく知るようになりました。私の親族との再会は思ったより気楽なものでした。沖縄で再び暮らすことで長い間話していなかった日本語を取り戻す事ができ、そして皆とすんなりと歓談することができました。滞在期間中によく外食もしました。私が日本食をととても恋しく思っていて、好物が刺身であることがわかると、皆が私を、刺身を食べに連れて行ってくれました。その週の終わりには食べ飽きるほどでした！叔父叔母、従兄弟達、そして祖母、皆が私を外食に連れて行ってくれました。その都度、温かいおもてなしで、特別な晩でしたが、その中でも叔父のSOKOと外食した事がとても心に残っています。私が小さい頃、私はその叔父がすごく恐かったのです。叔父は全く英語を喋りませんが、彼はいつも忙しく、親族の集まりでもあまり会う機会がありませんでした。私は彼の事を良く知りませんでした。しかしその叔父と出かけた時、行きつけのレストランに連れて行ってくれ、叔父がタクシーの運転手とレストランの店主に私の自慢話をする事を聞き、うれしく思いました。叔父はとても私の事を誇りに思っていて、テーブルを囲み彼と話した事がその日の夕食をより特別なものにしたのです。

私はまた、多くの時間を従兄弟のやちよさんとすごしました。彼女とはいつも仲がよかったです。彼女は私よりもずいぶん年上だったため、良く私の子守を

してくれたり、宿題を見てくれたりしました。おまけに彼女は、私が4年生の頃、私の家族と一緒にアメリカを訪れた事もあります。彼女はいつも姉のような存在で、沖縄にいた一週間でよりいっそう親しくなりました。私を友人の家に連れて行ったり、祖母の家と一緒に過ごしたり、その上私が赤ちゃんだった頃の話までしてくれました！成人として彼女と一緒に過ごし、彼女や、その他の親族を良く知る事は快いものでした。最後の日に3人の従兄弟達と出かけました。以前は私が幼かった為に出かける事はなかったのですが、私は従兄弟達ととても楽しく過ごしました。

いよいよ、研修の日がやってきました。今から始まる研修に対する楽しみもありましたが、同時に私は、悲しみにも襲われました。沖縄県系子弟の学生達に会うことは楽しみでしたが、私の親族から離れる事が悲しかったのです。同じ島に居ながら一緒に居られない事が辛くなったのです。私はまたツアーが始まる事を待ちわびているわけではありませんでした。なぜならアメリカから来た他の学生全員が私よりも年下だという事を知っていたからです。私がこのツアーで最年長だとずっと思い続けていました。しかしながら、他の学生と対面した時は、なぜか、嬉しくなり、楽しい気持ちになりました。私にはあまりアジア出身の友達はいなかったし、同じ年頃の日本人の友達ももちろんいなかったのです。彼らの側にすわり、半分日本人、半分外国人の子弟として彼らの生活を学ぶ事は楽しかったです。私達は、自分達の持つ問題、例えば、私がアメリカ人の学生として日本の学校に通った時のような事について話し合いました。私が沖縄に居た時は、アメリカ人学生だからかわれ、アメリカにいと日本人学生だからかわれました。それは他の学生達もそのように感じた事があると言う事がわかりました。

県からの日程表はとても細かく編成されていて、全く時間に無駄のないスケジュールでした。研修が始まる前に、スケジュール表を見て、少し緊張が走りました。参加者自身のための時間がないように思いました。しかしその週が終わる頃には、この予定表に感謝し、それが効率的に時間を使う事に役立っているということが理解できました。私達はお互いを知ることができましたし、同時に私達の文化を学ぶ事が出来ました。また、多くの人々と出会う機会が与えられ、誰が誰だったのか、名前を覚えるのに大変だったけれど、知事や市長のような、偉い方々にお会いできたことにも感激しました。

このツアーは、那覇にある県庁での歓迎会で始まりました。私達の親族達は、決められた時間に私達学生をそこでおろし、私達は初めて他の学生達と対面しました。私達は国別のグループに分けられ、ツアーの関係者や私達の親族達と、歓迎のために階下に降りました。階下で私達は出身国の国旗を掲げ、自己紹介をし

ました。集合写真を取る為に外に出て、(ツアー中はたくさん団体写真を撮りましたが、これが最初の写真)ホテルに戻り、島内観光旅行が始まりました。私達は一部屋に5人ずつ分けられ、那覇にあるレインボーホテルに泊まりました。その週は、北部のペンションに泊まりました。ホテルの滞在中は、朝食をホテルのロビーでとり、それ以外は沖縄中のいろいろなレストランで食事をしました。(沖縄そばは、とてもおいしかったです！)

私達は平和祈念資料館やその公園、国際協力事業団の建物、首里城、ビーチ、そして比地大滝を訪れました。私が沖縄に住んでいた頃、私は基地内のガールスカウトに熱中していました。ガールスカウトを通して、あるいは学校行事として、または親族達と沖縄の観光名所を何度も訪れていました。私には海洋博記念公園、首里城、動物園、玉泉洞、ビーチ等は見慣れた光景でしたが、今回の観光は違っていました。それは、まるで全てが初めての様な経験でした。いろいろな経験を積み、成長した今、子供時代から見慣れたこれらの風景を、新しい目を通して再度見学する事が出来ました。そして成長した目で見ることによって、今までの育ってきた過程で経験した事柄と関連付けたり、比較したりしながら、隠された意味を本当によく理解する事が出来ました。

首里城の前に立って、目に入る朱の色とドラゴン、建築法が中国の影響である事に気づき、これらを再確認することもできました。過去に見た中国映画のシーンが思い出され、中国の影響を改めて感じさせられました。今までに首里城を訪れた時には全くこのように考えることはありませんでしたが、沖縄の歴史とその中国との関係について学んだことから、その影響に気づく事ができました。研修の中でも平和祈念公園での体験は少し異なるものがあります。以前訪れたような気はしたのですが、いつだったのか思い出せませんでした。資料館に到着した時、山内小学校の4年生だった時に第二次世界大戦のビデオを見せられた時の事を思い出していました。そのビデオの中で、アメリカのパイロットが話しているシーンがあり、クラス全員が振り返って私をみたので恥ずかしくなった事を思い出しました。今振り返ると、きっと皆はただ、私とその部分を理解しているかどうか不思議に思っただけで、悪気はなかったのだと思いますが、10歳の子供だった私には、深く心に突き刺さった辛い経験でした。資料館に入ったとき、またあのような思いをするのだろうかと不安でしたが、しばらく歩いていき、それぞれのグループに分かれていった時には気持ちが落ち着いていました。沖縄からの参加者で、友達になったタダミさんと一緒にゆっくりと時間をとり、ほとんどの説明を読んでいき、ビデオも見て、展示されているものについて話し合いながら歩いて行きました。資料館見学

が終わって、4年生の頃に感じた感情とは全く違う感情が湧いていることに気がつきました。心の中で、戦争で亡くなった人々に対して尊敬と誇りが生まれ、そしてこれらの人々が経験しなければならなかった事に対しての、悲しみの感情が生まれていました。この経験はジュニアスタディーツアーの中でも最も有意義なものの一つです。第二次世界大戦は、沖縄の近代史の重要な一部ですが、資料館を訪れた事により、もっと深く学ぶ機会に恵まれ、貴重な体験になり、私が見たあの写真と比較してどのようにして現在の沖縄が存在するのかを私の認識の中で結びつけることができました。

この研修旅行は大きな成功だったと思います。会いたかった私の親族達との結びつきを再確立し、新しい人々との出会い、私の親から伝承された伝統文化をより深く学ぶことができました。私は、この機会が与えられた事にとっても感謝しています。さらに、ジュニアスタディーツアーが今後も成功を収め、もっと多くの学生達にこの機会が与えられますよう、希望いたします。私は、自分がした冒険、訪れて楽しかった場所、そして出会った人々を一生忘れる事はないでしょう。このツアーで知り会った友人達と今も連絡を取り続けており、これからも長くこの関係が続く事を強く願っています。私の親族との再会、新しい人々との出会い、そしてもう一つの私の家に帰る機会が与えられた事を本当に心から感謝します。

2005 Junior Study Tour

I have been involved with the Okinawa Kai of Washington D.C. since I moved to Gettysburg, Pennsylvania five years ago. When I heard about this Junior Study Tour from my Odori Sensei, Kazuko Chibana Volkmar, I thought it would be a great opportunity for me to return to Okinawa to visit my family, visit the places that I had grown up in, meet other kids of Okinawan descent and hopefully learn something new about my culture. I filled out the application and heard back that I was chosen to represent the Okinawa Kai of Washington D.C. during this tour. I was extremely happy to hear this. I felt that though I had grown up in Okinawa and visited the places that we were to visit on the tour many times already, this could be my chance to observe these places and learn the history through more mature eyes. I am grateful that I received this opportunity.

The trip technically began when I first heard that I was going. However, I don't think the reality that I was returning to Okinawa really sunk in until I

found myself standing at the airport with my dad in the early morning. I had traveled by myself before, when I went to spend a year in Romania as an exchange student but somehow this was different. The excitement and feelings were completely new. When I went to Romania, I was traveling to a new place, to meet new people and to experience new things. This trip, I was traveling to a place I had been before, to meet new people but at the same time, to reestablish relationships and ties with my family members there. I will never forget the taste of the Tako Yaki that we ate at the Osaka airport. The food and hearing the Japanese again made me realize that I was truly in Japan. It was something I was used to and gave me a great feeling of comfort.

When I arrived at the airport in Okinawa, I was extremely tired but I was delighted to see my family again. Two of my aunts, my grandmother and my cousin all met me there. They were as happy to see me as I was to see them and I loved hearing them laugh about my grandmother pushing herself to the front of the crowd almost an hour before I was to arrive, peeking into the windows to see me and I loved just being around them again. I was a little shy around my family, who I hadn't seen in four years, but the reunion at the airport was so happy that all my shyness and fears were alleviated. Driving home from the airport was interesting. I went in a car with my grandmother and my aunt. I had forgotten that Japanese drive on the other side of the road than Americans. I was scared to see cars coming from the opposite direction! My grandmother sat in the backseat with me, held my hand and pointed out things in the city that had changed since I had lived there, such as the monorail. It was obvious that she was happy to have me with her, which made me feel more comfortable.

The next morning, when I woke up, everybody except my grandmother was at work. I spent most of the week with her walking around the city, going to stores, meeting her friends and getting to know her. Surprisingly, the reunion with my family was not strange. Spending the time in Okinawa again allowed my brain to remember the Japanese that I hadn't spoken in a long time and I was able to communicate very well with everybody. I went out to eat a lot while I was there. I missed the Japanese food and I love sashimi so everybody took

me out to eat sashimi. By the end of the week, I was tired of it! All of my aunts, uncles, cousins and grandmother took me out to eat. They were all special evenings but I was most touched when my uncle Soko took me out. When I was growing up, I was scared of him. He didn't speak any English and he was always very busy so I didn't see him much at family events. I never knew him at all but when we went out, he took me to a favorite restaurant of his and it delighted me to hear him almost brag about me to the taxi driver and the restaurant owner. He was really proud of me and sitting at the table talking to him made the dinner so special.

I also spent a lot of time with my cousin, Yachiyo. She and I had always been close. She is much older than me and used to baby-sit me when I was young and come over to help me with my homework. She even came to visit America with my family when I was in the fourth grade. She was always like a sister to me and the week I was in Okinawa brought us closer. She took me out with her friends, she stayed at my grandmother's house with me and even told me stories from when I was a baby! It was nice to be with her and get to know her and everybody else in my family as an adult. The last night, I went out with three of my cousins. We never did that when I was younger and I had a great time with them!

When it came time for the tour, I was both excited but sad. I was excited to meet other students of Okinawan descent but I was also sad that I was leaving my family. I thought it would be hard finally being on the same island as them but not actually with them. I was also not looking forward to the week because I knew that all the students from America were younger than I. I kept thinking that I would be the oldest student on the tour. However, when I finally met with them, it was exciting and fun! I don't have many friends of Asian descent, let alone Japanese friends my age so it was nice to sit around on the tour learning about them and their lives as half-Japanese, half-*gaijin* kids. We talked about problems we have such as my problems when I was an American student in a Japanese school. When I was in Okinawa, I was made fun of because I was the *American Student*. When I am in America, I am the Japanese girl in class. It turns out, some of the other kids had felt this too.

The schedule that the prefecture wrote for us was very choreographed and organized. Everything was timed and scheduled. Before the tour, I thought this would be stressful and that the students wouldn't have too much time to ourselves. However, by the end of the week, I was grateful for this schedule and I felt that it helped us use our time very wisely. We were able to visit with each other and at the same time learn about our culture. We also had the opportunity to meet so many people and though it was hard to keep track of everybody and remember who was who, it was exciting to meet important people such as the governor and the mayor.

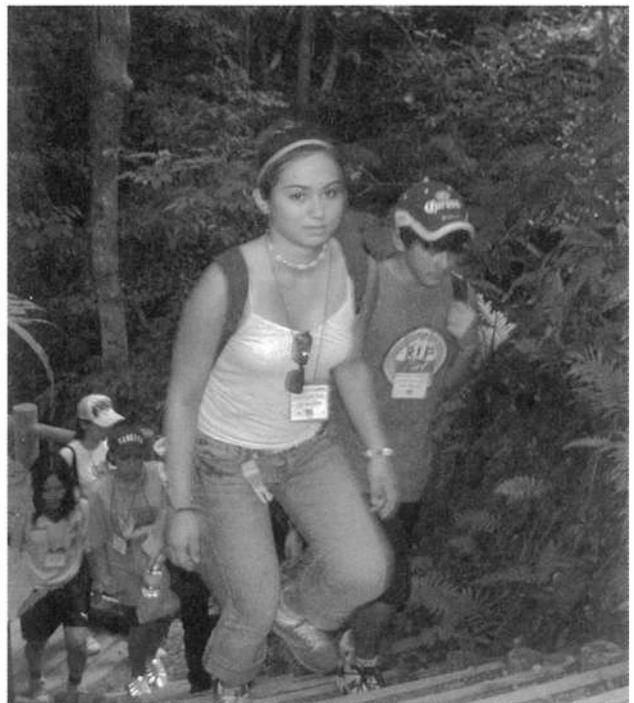
The second half of my visit began with a welcoming ceremony at the Prefecture Building in Naha. Our families dropped us off there at a preset time and we met the other students for the first time. We were organized into groups of our countries and descended downstairs to greet the dignitaries and our families. Downstairs, we held flags of the countries we had come from and introduced ourselves. We went outside to take a group picture, (the first group picture of many that week) and then got ready to go back to the hotel and begin our tour of Okinawa. We stayed at the Rainbow hotel in Naha with five people to a room. During the middle of the week we stayed in a Pension up North. While at the hotel our breakfasts were taken in the lobby but we ate most the rest of our meals at various restaurants throughout Okinawa (I really enjoyed the Okinawa Soba!).

We visited the Peace Memorial Museum and Park, Government Immigration Building, Shuri Castle, beaches, and Hiji Waterfalls. When I lived in Okinawa, I was involved with the Girl Scouts on the base. With my Girl Scout troop, my school, and my family, I visited points of interest all over Okinawa many times. I was familiar with Expo Park, Shuri Castle, the Okinawa Zoo, the Gyokusendo caves, and the beaches. This trip was different. It felt as though I was experiencing everything for the first time. Since I am now older and have had other experiences, I was able revisit all of these familiar places from my childhood with new eyes and really understand the meaning behind them while comparing them with my other experiences.

As we were standing in a group in front of Shurijo, I remember noticing the Chinese influence with the

red color and the dragons and even the architecture. It brought to mind some of the Chinese films I have seen over the years. I know that this thought had never crossed my mind any other time I had visited the castle and helped me reflect on what I had since learned about the history of Okinawa and its relationship with China too. The Peace Memorial park was a different experience all together. I felt like I had been there before but couldn't remember when. When we arrived at the museum, I started thinking of when I was in fourth grade at Yamauchi Sho Gakko and my class was watching a video about World War II. There was a part in the video of American pilots talking and I remember the embarrassment and feeling of shame I felt when everybody in my class turned around and looked at me during this part of the video. Looking back, I'm sure they were just wondering if I understood and had no bad thoughts at all but for 10 year old child, that experience was hurtful and has stuck with me. When we entered the museum, I wondered if I would feel this again but as we kept walking and everybody went off in their own groups, I felt calm. I walked through the museum with my friend, Tadami, from the Okinawa Shogaku In, and we took our time, read most of the subtitles, watched the videos and discussed what we were looking at. At the end of the tour of the museum, my feelings were completely different than my feelings from the fourth grade. I had a sense of pride and respect for the people who died in the war and a feeling of sadness for what those people had to go through. This was one of my favorite parts of the Junior Study Tour. World War II is a big and recent part of Okinawa history that I thought it was a good experience to go learn more about it and tie my knowledge of how Okinawa is today, to what I saw in those pictures.

I feel this trip was a huge success. I reestablished ties with my family who I really did miss, I met new people and I learned a little more about my heritage. I am extremely grateful for this opportunity and I hope that it continues to be a success and influence many more students in the future. I will never forget the adventures we had, the exciting places we visited and the people I met. I'm still in touch with the friends that I made on this tour and I hope to keep those ties for a long time. Thank you for this chance to meet my family again, to meet new people and to return to one of my homes.





ラックエル 笑美 コンドン

RAQUEL EMI CONDON

14歳 3世

アメリカ USA

インディアナ沖縄県人会



「ジュニアスタディーツアー2005」

まず始めに、沖縄に行く機会を与えて下さった皆様
に心から感謝致します。私にとっては今までにない最
高の経験でした。

私は今まで祖母方の家族と一度もお会いした事がな
かったので、祖母方の叔父や叔母と親睦を深めるため
に最初の一週間は彼らと共に過ごしました。お互いに
言葉の不自由さを感じながらも、伯父さん、叔母さん
は親切で、私を暖かく迎えて下さり、リラックスした
気分になりました。私は沖縄の人は本当に優しくて親
切な人々だと思いました。

最初の日には他の参加者との交流で少々不安でしたが、
一人ずつ、簡単に自分の生い立ちや住んでいる国(州)
の紹介をした後は不安も消えていました。歓迎会では
ゲームをしたり、かわいい踊りをしたり、とても楽し
く過ごしました。高校生達はとてもおかしくて、熱心
にいろいろやってくれました。その後は、参加者によ
る歌や、踊りのタレントショーを見ながら夕食をしま
した。各国に民族的な踊りがある事はとても素晴らし
いと思います。アメリカは多くの人種の集まりなので、
アメリカ独特の風習を持つ事は難しいと思います。

最初の夜は、まだ皆との交わりがなかったので、各々
の部屋で過ごしました。

翌日は比地大滝へ行きました。その日はとても暑く、
虫や蚊が多かったです。途中たくさん階段があり、
苦しくて、とてもついていけないと思いましたが、頑
張って良かったと思えるほど価値のある、素晴らしい
滝でした。水は透き通るほどの美しさで、すぐにも飛
び込みたくなりました。

その後、宿泊施設に行きました。施設には子供と大
人用の棟があり、自分たちだけで楽しむ事が出来たの
で、レインボーホテルよりは楽しい所でした。

その夜のキャンプファイヤーでは、食べ物や、飲み
物の他にゲームがあり、早く食べた方が勝ちというパ
ン食い競走に私も参加しました。勝てなかったけど、
とても楽しかったです。その夜は、皆遅くまで起きて
いました。私たちの部屋が一番大きな部屋でトイレ付
き、6人のルームメイト部屋でした。英語、日本語、
スペイン語での会話でしたが、お互いの国の言葉は少

ししか分からなくても会話が出来たという事は素晴ら
しく、感激しました。

水族館はとても素敵な所でした。沖縄には世界一大
きなサメの水槽があり、それがとても印象的でした。
水槽には風変わりな魚、色とりどりの美しい魚が沢山
いて、自分自身が、海底に居るような錯覚を覚えました。
サメ館に行ってサメやマンタと一緒に住み、優雅
に泳いでいるのを見て、なぜか穏やかな気分になり、
楽しく鑑賞しました。このように大きな水族館を訪ね
たのは初めての経験だったので、とても良い思い出に
なりました。

今までで一番に心に残った場所は平和祈念公園です。
とても感傷的な気分になり、今まで学校のテキストで
学んだ、アメリカが沖縄を日本軍から救ったという話以
外に、すべてを破壊した事実を知りました。アメリカ
が他国の風習、歴史を破壊した事実を知るのはとても
辛く感じました。沖縄の人が平和を願う気持ちは展示
されている写真を見ると良く分かります。平和の尊さ
を実感しました。

移民センターへ行った時にはなぜ行くのかと思いま
したが、沖縄の人が世界中、特に、ハワイ、カナダ、
ブラジル、ペルー、フィリピンに大勢移住している事
実を知ってびっくりしました。また見合い結婚に関す
る話も聞きました。これには、とても賛成できません
でした。時代の相違かも知れません。

沖縄の人々は、そのモラル意識の高さや誠実さによ
り世界中から感謝されているとおもいます。実際に沖
縄の人々にお会いできた事に心から感謝しています。

最後に、この素晴らしい企画により私たちに尊い体
験をさせて下さった関係者の皆さんに心から感謝致し
ます。特に上間さん、エンジェルさん、お二人のご親
切に改めて、お礼申し上げます。又、私を推薦して下
さったインディアナ沖縄県人会の皆さんにもお礼を申
し上げます。いつか又、皆が沖縄で再会出来る日がく
るよう、これから先もお互いに連絡をとりつづけてい
きたいと思います。

2005 Junior Study Tour

First off I would like to say this opportunity I was

given was the best experience I have ever had. I have never met my grandma's side of the family before so the week I stayed with my aunt and uncle, we basically spent it getting to know each other. I know very little Japanese and my family knows very little English so communicating was quiet difficult. But, they were so welcoming and kind it made it easier. I have come to the conclusion that Okinawa people are the sweetest people I have ever met.

The first day meeting and seeing everyone I was really nervous. But after learning each other's background and countries, I think everyone loosened up. The welcome party was so much fun! The high scholars were so funny and enthusiastic. It was so fun doing all the cute dances and games. Afterward we got to eat dinner and watch a small talent show of dances and singers. It's nice to see countries with old dances. America doesn't really have and traditions, but I guess it's hard because we're mixed with so many different countries and another. It's hard to make traditions.

The first night everyone stayed in their room. I guess cause no one really knew each other. The next meeting we went trekking in Hiji Falls. It was fun but really hot and lots of bugs, especially mosquitoes. There were so many stairs I didn't think I would make it. But it was well worth it. The waterfall was beautiful. The water was so clear, I wanted to jump right in. Later, we checked into the Pension. I liked the Pension better than the Rainbow because the Pension had a building for the kids and one for the adults.

So, we got to do our own thing. The campfire was so much fun! We played games dealing with food and drinks. I raced in one where you have to eat a piece of bread as fast as you can, I didn't win, but it was pretty awesome. That night we stayed up late.

I had six roommates. We had biggest room with the most people and one bathroom. We stayed up using the little English, Japanese and Spanish booklet trying to have conversations. It was cool how we could communicate with knowing little of each others language.

Going to the aquarium was really amazing. They have the world's largest shark tank which was pretty impressive. There were so may colorful, weird and beautiful fish. You felt like you were actually in the ocean. When we got to the shark

tank it was just so peaceful to me watching how the sharks and manta rays live together and how they move so graceful. You can't help but find comfort. I've never been to a real aquarium before so it was a nice experience for me.

But my favorite place was Peace Memorial Park. It was very emotional for me. In America what we read in school text books makes it seem like the American came in and saved the Okinawans which they did help them over come the Japanese but they also destroyed everything. It's hard to face what your country has done to your culture and heritage. I never knew how important peace actually is to Okinawa but they definitely show it through their pictures and exhibits.

When we were going to the immigration center, I really didn't know to expect. But I soon learned how many places (and how) the Okinawans have immigrated to the US, especially Hawaii, Canada, Brazil, Peru and the Philippines. I learned that women in Okinawa had a picture marriage, which I don't agree with. Which I guess is because of the generation I live an grew up in I definitely think the Okinawans are under appreciated in the world for their morals and faith that they have and I am thankful for the chance to meet them.

I want to thank for everyone that made this trip possible. Especially to Mr. Uema, and Mr. Angel Makishi ,thank you for your time and patience. Thank you for Indiana

Okinawa Kenjinkai choosing me for this opportunity. to learn our heritage and meet Grandmother's families. I hope we can keep in touch and someday we all be able to return to Okinawa for the reunion.





クリストファー ジョシア ワルターズ

CHRISTOPHER JOSHUA WALTERS

14歳 3世

アメリカ USA

フロリダ沖縄県人会



「ジュニアスタディーツアー2005に参加して」

僕の名前はクリストファー・ワルターズです。ボクはアメリカ合州国のアラバマ州に住んでいます。今年の夏に僕は一生に一度のすばらしい機会を与えられました。僕の祖母はフロリダ沖縄県人会の会員で、その祖母が今回のジュニアスタディーツアーに僕が参加する事を提案したのです。

最初はとっても怖かったです。なぜなら今までこんなに家から遠く離れた事はなかったからです。それにこんなに長い時間、飛行機に乗ったのも初めてでした。

僕は初めて一人でサンフランシスコに行くこと、そしてそこで今まで会ったこともない人たちに会うことにとっても緊張していました。でも心配する必要はありませんでした。僕たちのグループはすぐに仲良しになりました。それにあまりにも楽しくて飛行時間が長く感じられなかったのです。

僕が一番楽しみにしていたのは、沖縄の親戚に会うことでした。たぶん今回のジュニアスタディーツアーがなければ僕は沖縄の親戚に会うことはなかったでしょう。僕らの生活習慣と沖縄の人々の生活習慣の違いについて僕は色々な事を楽しく学びました。アラバマ州に住んでいて沖縄の生活習慣を習うことはほとんどありません。でも僕の祖母と母がこのギャップを埋める手助けをしてくれると思います。

今回のジュニアスタディーツアーは、僕に、今まで会ったことのない親戚に出会い、祖母が生まれ育った、また母が生まれた沖縄を見る機会を与えてくれました。

僕はすべての課外活動をエンジョイしました。特にハイキングと水族館は最高でした。僕は海や川が好き、釣りはもっと大好きです。俺は文句なしにすばらしかったです。

僕は仲間達とまた再会し、彼らとエンジョイしたいです。そして彼らと夜遅くまで起きて色々な違う食べ物を食べてみたいです。ちなみに僕の大好きな食べ物はカレーライスです。

最も苦手だったのはスピーチでした。他のメンバーのスピーチを聞くことはとっても楽しかったのですが、僕自身はスピーチが苦手なのです。人前でのスピーチは得意ではありませんがでもどうにか僕はスピーチを終えることができました。

僕は感謝の気持ちを込めてこのすばらしい機会を与えて下さったことに対し、もう一度「ありがとう」と言いたい。このジュニアスタディーツアーで得た素晴らしい経験を、僕は一生忘れることはないでしょう。そしてこのツアーがこれからも長く継続して行くことを願っています。そして僕の弟と妹も参加する機会が得られるよう願っています。もし僕の弟と妹がこのツアーに参加することができれば、きっと彼らは大いにエンジョイするでしょう。僕がそうでしたから。僕はツアーが後一週間延長すればいいのにと願ったくらいですから。今の僕の願いは、来年の世界のウチナンチュ大会に祖母と参加する事で、実現できれば最高だと思っています。そのためには僕は母に、学校に二週間の休学届けを出すようお願いしたいと思っています。僕はこの望みが叶うように期待しています。

2005 Junior Study Tour

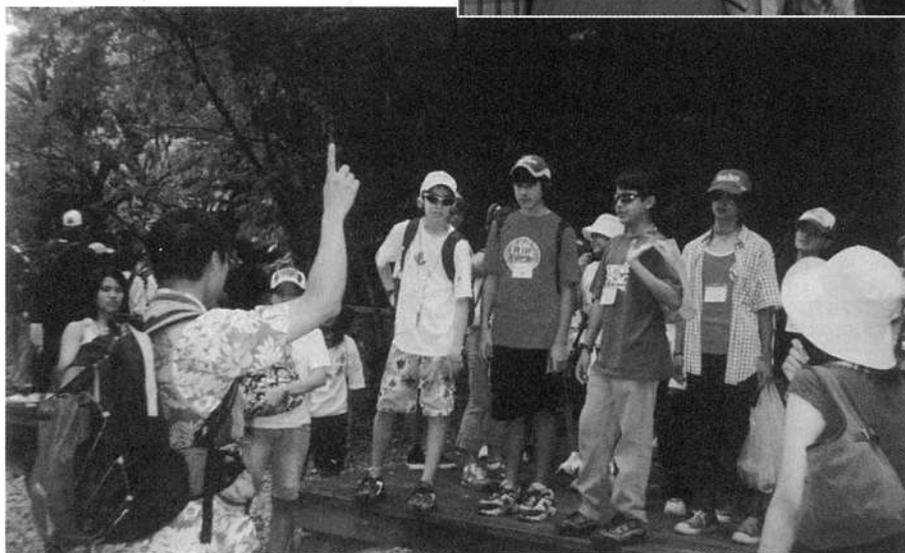
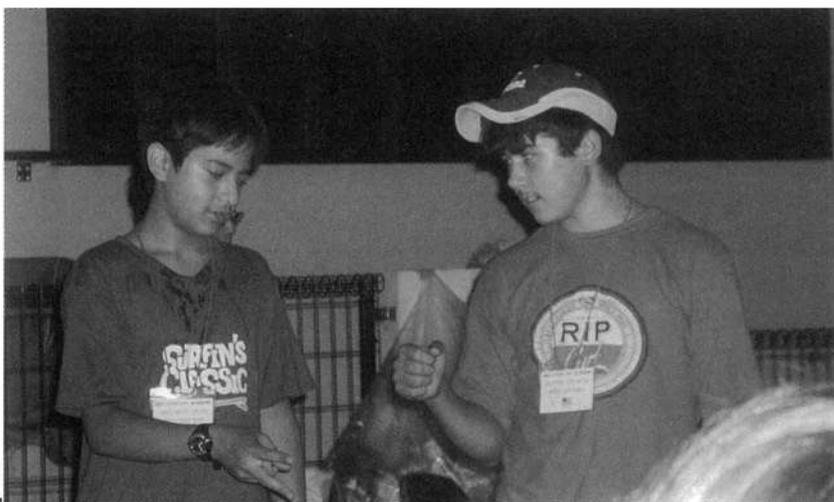
My name is Christopher Walters and I am from Alabama, United States. I was given an opportunity of a lifetime this past summer. My grandmother is part of the Florida Okinawa Kenjin-Kai Group here in Florida and she was the one who approached me about taking this junior study tour to Okinawa.

I was very scared at first, this was the first time I have ever been that far away from home and my first time on an airplane for that extended amount of time. I was very nervous about flying by myself to San Francisco and meeting up with people I had never met before. The nervousness soon faded and the friendship started with the rest of the group. We really enjoyed ourselves and the flight did not seem as long.

My biggest thrill was to meet family members, which otherwise I probably would not have ever met under normal circumstances. I really enjoyed learning about the difference between our culture and theirs. It is very hard to learn about the Okinawa culture living in Alabama. I have to rely a lot on my grandmother and my mother to help fill in the blanks. This junior study tour gave me the chance to meet new family members and to see where my grandmother was raised and my mother was born. I really

enjoyed all the activities we were able to do, especially the hiking and the aquarium. I really enjoy anything to do with water and even more when fish are involved. The waterfall was absolutely beautiful. I would really enjoy meeting up with my group again and staying up late and eating (trying) the different kinds of food that was given to us. My favorite was white rice and curry. The least favorite thing was the speeches. I enjoyed listening to the other kids give their speeches, but I did not like giving mine. I do not do well in front of crowds, especially giving speeches, but I made it through.

I just wanted to say "Thank You" again for this great opportunity and I will never in my whole life forget this junior study tour experience and really hope that these study groups continue and that my brother and sister may have the chance to go as well. I think they will absolutely love it like I did, because by the end of the trip I wanted to stay another week. I'm hoping that my mother can work it out with my school for me to miss two weeks next October, so I can come back with my grandmother for the 4th worldwide Uchinanchu festival. I have fingers crossed.





ジョーダン カミオ サワダ

JORDAN KAMIO SAWADA

14歳 4世

カナダ CANADA

レスブリッジ沖縄県人会



「ジュニアスタディーツアー2005」

2005年7月14日から28日まで沖縄国際ジュニアスタディーツアーに参加するというチャンスを得る事が出来ました。本当に本当にすばらしかったです。ここカナダ、アルバータ州にあるレスブリッジの沖縄県人会に参加志望を出した時は沖縄の祖先について個人的な疑問に関する答えが得られれば良いな、と思っていました。僕の曾祖父がお金を稼ぐために1908年に祖国を離れ、また自分の国に戻ってきたという人生はどんなものだったのだろうと思いました。沖縄の過去と現在を充分に知ることは僕の願いでもあります。そうすれば世代交代とともに沖縄の文化が失われていき、僕自身がその遺産について十分な知識がない状況になっても、将来カナダで沖縄の文化を活かしていくことができるかもしれないからです。最終的には北アメリカや沖縄の他に世界の色々な文化についても学んでみたいのです。そうすれば他の人達に対してもっとオープンになり、今日世界が直面している様々な争いを、僕達の世代で減らすことができると思うからです。ジュニアスタディーツアーはこのような質問に対する答えを出す助けになってくれたと思います。

僕はジュニアスタディーツアーを最初の日からおおいに楽しみました。7月14日、夜遅くに沖縄に到着したとき、空港で迎えて下さった方々が大歓迎してくれました。大勢の方に迎えられてとても嬉しかったです。ホームステイ先の人ともすぐに会えました。新しい環境に慣れるためにも、また睡眠不足解消と自分の荷物が届くのを待つにも、実際のツアーが始まるまで数日間の余裕があった事はとても良かったです。空港を出てすぐで一番良く覚えている2つのことは、湿気と、辺りの緑が濃くなるにつれてだんだん大きくなる蟬の声です。帰国後、広島市の平和記念の報道をテレビで見たら、そのバックで蟬の声がしていました。家族に、それはまさしく沖縄滞在中にずっと聞こえていたものと一緒だと説明することができました。那覇空港に関するコメントとしては、とても清潔で整えられていること、また英語しか話せない人たちでも歓迎してくれることです。

ウェルカムパーティーはよく準備されていました。

ホストファミリーの方々も参加し、その方々の協力の下に、このツアーが実現されていることが現れており、とても良かったです。参加したすべてのアクティビティーの中で一番気に入ったのは、海洋博記念公園見学です。見るべきものが沢山あったので、もう少し時間があつたら良かったです。首里城での時間は完璧でとても良い見学スポットでした。工芸体験、ハイキング、サバニなど様々なアクティビティーも楽しみました。それらのアクティビティーや、高校生達とのグループセッションは楽しく、お互いをよく知る良い機会となりました。

ランゲージエクスチェンジや一週間の半分に渡る移住ワークショップは楽しく、最も印象に残る思い出のひとつになりました。質問への答えが“Yes”であれば部屋の片側に移動し、“No”であれば反対側に行くというアクティビティーをしました。最初“他の国の人と結婚しますか？”という質問で、僕のグループにいたアメリカ人の女の子は“Yes”と答えました。“ではその国に移住しますか？”との質問に、彼女は“No”と答えていました。

残った人のひとりが“じゃあ、移住したくないならどうやって別の国の人と結婚するの？”と聞くと、結婚相手の方が彼女の国に来るべきだと言っていました。

帰国途中、大阪へ向かう飛行機の中で、自分が別の国、特に沖縄へ移住するという風に考え方が変わったと彼女が言っていたのを覚えています。その時、このツアーは大きな影響を与えるものなのだと実感しました。

散策した市場は興味深いのもでした。後日ホストファミリーと買い物をするためにまた市場に行けて、良かったです。それでも家族や友だちへのお土産を買いにもっと出かけたかったなと思いました。

食事は最高でした。沖縄の様々な伝統料理が食べられるチャンスがあつて本当に良かったです。いつも沢山の食事が出され、比地大滝へハイキングに行ったときにもお弁当がありました。

ひとつだけあまり楽しめなかったのは北谷の海水淡水化工場でした。環境や環境問題について学ぶのは好きなのですが、ここはあまり興味を持つことができませんでした。

平和祈念公園ではとても感動しました。この旅行中とても楽しみにしていたもののひとつでした。沖縄の人々の戦争に対する考え方を学ぶ助けとなりました。帰国してすぐに、広島と長崎が平和記念日を迎えていたので、とても興味深く、今年はより多くの知識を持って見ることができました。

もう一つ最高だったのは、海水浴をした事です。今まで体験した中で一番温かい海水で、海の色は本当に絵葉書や写真のようでした。

今後のイベントやアクティビティー改善のため僕の意見を下記に挙げさせていただきます。

(1) 一日の終わりに自由時間を与えて欲しい。この旅行全体を通して一番良かったことは、一日の終わりに他の参加者全員と、お互いの事を良く知る機会を持てたことでした。その日のアクティビティーが終了して(通常午後9時過ぎ)から誰かの部屋に集まってみんなで何時間もしゃべったりできます。言葉の壁があっても基本的な内容はわかりますし、誰かが通訳したりすることができます。僕と他のツアーメンバーとの間にはそれほど大きな違いはないのだということがわかりました。

(2) さよならパーティーの開始時間を早めて欲しい。みんな予定されていた時間を過ぎて、まだ会場に残っていました。それでも新しい友だち全員に、さよならを言うには、十分な時間だったとは言えないと思います。

素晴らしい体験を可能にして下さったすべての方に、どうやって十分な感謝の気持ちを表せば良いかわかりません。僕の所属する沖縄県人会の方々にはお礼を申し上げましたが、沖縄にもお世話になった方々が大勢いらっしゃいます。一人ももれることがないように多くの方にお礼をしましたが、2005年の夏、あの2週間のことを振り返ったとき、自分の人生が大きく変わったことに気づきました。本当に最高の体験をしました。レスブリッジそしてカナダや世界中の沖縄県人会の多くの生徒たちが僕と同じチャンスを得られることを願っています。

沖縄県庁の皆様は、今日の若者たちに祖先を知ることができるように、このすばらしい機会を提供して下さいました。その方たちに心から感謝申し上げます。

2005 Junior Study Tour

From the 14 of July to the 28 of July 2005 I had the privilege of participating in the Okinawa International Junior Study Tour. It was awesome. In my application that I made to my local Okinawa Cultural Society here in Lethbridge Alberta CANADA. I hoped that some of my personal questions about my Okinawan ancestry

would get answered. I wondered about the life that my great-great grandfather left behind when he left his country in 1908 to make money and then return to his homeland. It was also my hope that I would discover enough about the past and present of Okinawa so that I might be able to keep the culture alive in Canada in the future because with each passing generation more and more is lost and I did not know enough about my heritage to help in that dream. Finally, it was my wish to learn about other cultures of the world (besides North America and Okinawa) so that I would learn a more open attitude about the different peoples of this earth so that our generation can decrease the global conflict that we face today. I think the Junior Study Tour helped answer some of those questions.

I really enjoyed the Junior Study Tour right from the very beginning. When we first arrived in Okinawa, late on the night of the 14 of July the people at the airport gate made us feel very welcomed. It was great to have so many people there. It was very easy to meet up with our home-stay people. I was very glad that we had a few days before the actual study tour started because it gave us a chance to acclimatize and catch up on some sleep. For me personally, it was also good because my luggage had to catch up with me. The two things that I remember most about my first moments outside of the airport were the humidity and the sound of the cicadas as we entered the more vegetated area of my home stay family's farmland. After I got back home and I was watching some of the television coverage of the Hiroshima memorial I heard the cicadas in the background and I was able to tell my family that that was exactly how it sounded all the time during my visit. I also wanted to comment on the airport in Naha. I found it very clean, organized and welcoming for someone who really only speaks English.

The welcoming ceremony was well organised and I was glad that the host families were there to be recognized for their help in making this visit happen. Of all the activities that we participated in my favourite was the visit to the Ocean Expo Park. I would have liked to spend more time there because there was just so much to see. Time at the Shuri-jo Castle was perfect and that was a great site to visit. I enjoyed doing the different activities like the craftwork, hiking and sabani. These

activities and the group sessions that we did with the high school students were fun and it gave us a chance to get to know the other participants much better.

The language exchange was fun and I also enjoyed migration workshop halfway through the week. It was at that workshop that one of strongest memories was made. We did this activity where you moved to one side of the room if you said yes to a question and to the other side if you said no. So first they asked, "Would you marry someone from a different country", and one of the girls from America in my group said "yes." Then they asked, "Would you move to another country?" she said "No."

So one of the supervisors asked "So, how are you going to marry someone from a different country if you don't want to move there?" She said that they would have to come to her.

On the plane ride home to Osaka I remember her telling me that she had changed her mind and she would move to a different country especially Okinawa. That's when I realized that the tour had really made an impact on someone.

The market place stroll was interesting and I was glad that I was able to go back there with my host family to make some purchases. In the end I found that I would have liked more time to make purchases for gifts for family and friends back home.

The food was awesome and I loved getting a chance to eat all the different traditional foods of Okinawa. There was always plenty to eat even when we hiked up to Hiji Falls and had the bento boxes.

There was only one site that we visited that I did not really enjoy and that was the sea desalination facility at Chatan. I like learning about the environment and environmental study issues but this site was not the best (did not interest me).

I was very moved by the visit to the Peace Memorial Museum. This was one of the things I had been looking forward to during the trip. It helped me understand the Okinawan's point of view of the war. It was interesting that so soon after I returned home we were remembering Hiroshima and Nagasaki and that this year I viewed it with a better knowledge.

Another great time was when we got to go swimming in the ocean. It was the warmest water I've been in and the water looked just like all those

postcards and pictures I've seen. Part of what makes this amazing to me is that I have visited the beaches of Australia.

My opinion on events and activities that could be improved would be:

1) Allow more free time at the end of the day. The best part of the whole trip for me was the chance to get to know all of the other participants at the end of the day. Sometimes after all the activities of the day (usually after 9:00 p.m.) you could just go into someone's room and talk with the other kids on the tour for hours. Even with the language barrier you could get the general idea or have someone translate for you. I found out that they weren't much different than me or any of the others on the tour.

2) Start the closing ceremonies earlier. We stayed even later than planned on the schedule but it still didn't seem like enough time to say good-bye to all of my new friends.

I do not know how I can possibly thank everyone who made this experience possible for me. I have thanked the people of my Okinawan Cultural Society but there are so many people in Okinawa that did so much for me. I know that I thanked many of them and I hope I didn't miss anyone but as I look back on those two weeks in the summer of 2005 I realize that my life changed. It was an awesome experience and I hope that many students from Lethbridge and the other Okinawa cultural groups in Canada and around the world get a chance to do what I did.

The Okinawa Prefectural Government have provided the youth of today with an awesome chance to discover their heritage. I thank them from the bottom of my heart.





ジャスミン マリー ドフレド デ ヘス

JASMINE MARIE DE JESUS

18歳 3世

フィリピン Philippines

フィリピン沖縄県人会



2005年ジュニアスタディーツアー

沖縄で行われたジュニアスタディーツアーは、私にとって一生に一度の経験になりました。色んな経験しましたし、たくさんの思い出は、永遠に消えることはないでしょう。

私は旅行の準備をしている間、たくさんの不安と心配を抱えていました。まず、学校を数日休まなければならず、その時、一期目の試験を控えていたため、出席できなかった授業や試験、活動に出席できなくなると、皆に追いつくのは大変だろうと考えていました。さらに、フィリピンでは政治的な紛争が起きているので、それが海外に悪いイメージを与えているのではないかと心配もありました。また、家族、学校、フィリピンの沖縄県人会、そして国の代表という重い責任を背負う事が出来るのかという不安もありました。その一方で、こんな素晴らしい機会を逃したら、きっと後悔するだろうという気持ちもありました。そして、それは本当に素敵な、忘れる事の出来ない経験となりました。

フィリピン航空の飛行機に乗って私は7月19日に沖縄に到着し、ジュニアスタディーツアースタッフの方や、母、祖母からの歓迎を受けました。私は、母、祖母、姉（中学校英語教師）と共に2日間を過ごしました。21日、歓迎セレモニーとオリエンテーション、稲嶺知事との記念写真撮影のために私たちは沖縄県庁に向かいました。そこには17人の国外からの参加者、19名の県内からの参加者がいました。カナダからの参加者と私を除き、全ての海外参加者には付き添いがあり、安心した様子で行動を共にしていました。言語の壁が理由で、私は最初るときよりも居心地の悪さを感じていました。お互いの言っている事が理解できない事はよくありましたが、皆とコミュニケーションを取るのには困難な事でした。スタッフは、全ての説明が私たちにも理解可能なように、3チャンネルあって英語・スペイン語・ポルトガル語を聞く事が出来るレシーバーと通訳を私たち提供してくれました。これはとても助かりました。私は本当に日本語が理解できなかったからです。

ウェルカムパーティでは、フィリピンの民族衣装を着て、歌を歌いました。緊張しすぎて歌詞を忘れてし

まったのですが、見ている人々はだれもその歌を知らなかったの、助かりました。豪華な夕食を頂いて、レインボーホテルでくつろいだ一夜をすごしました。

翌日の金曜日、起床時間は早かったです。比地大滝にトレッキングに行くという事で、私はとても興奮していました。私たちは皆楽しい時間を過ごしていましたが、突然転んで、びしょぬれになってしまいました。更に悪い事に、借り物だったカメラが、動かなくなっていました。皆とても心配して、私に大丈夫かと尋ねてくれました。私はどこも怪我はしていませんでしたが、カメラの事が心配でなりません。これが自分のものではないということも抜きにしても、もはやこの素晴らしい時間を記録にとどめておく手段がなくなってしまったのです。その夜、キャンプファイヤーとバーベキューディナーがありました。ゲームをして、私たちのチームは負けてしまい、その結果、ひどい味のお茶を飲まされる事になってしまいました。本当にすごくまずかった！しかし私はグループのメンバーと一緒にそれを飲み干しました。素晴らしい夜をペンションキャロライナで過ごしました。しかし私はカメラの事が気になってしまっで涙が止まらなかったの、母に電話をして、後の事は母に任せる事にしました。

土曜日は自然学習とマリントツアーの日でした。私たちは世界で一番大きいとされている海洋博記念公園の美ら海水族館を訪れました。そこは、サメやマンタ、魚達といった、色もサイズも違う、数え切れないほどの、熱帯海洋生物たちの家になっていました。ここでは、まるで自分がどどん海の深いところにもぐっていくような感じで海の不思議さや素晴らしさを体験する事ができました。世界最大といわれているアクリルウィンドウを通して、沢山の魚達を見る事ができてとても楽しかったです。手の届きそうな近さでサメやマンタをみるのは、スリリングな体験でした。

次に私たちが行ったのは、同じくらいスリリングなサバニ体験でした。サバニは沖縄の伝統的なボートです。私たちはこのボートに乗り込むだけではなく、グループに分かれてサバニを漕いで、レースまで行いました。疲れましたが、とても楽しかったです。

日曜日、私たちは恩納村に行き、伝統芸能などの文化を学習しました。私は、エイサーの簡単なステップ

を学びました。また、北谷町にも行き、海水淡水化施設で説明を受けました。その後 JICA 沖縄国際センターにいて、沖縄の移民に関する歴史を学びました。これはとても有益なもので、沢山の事を学ぶ事が出来ました。

月曜日の日程は首里城見学でした。首里城は沖縄に来た際には必ず見学すべき場所だと思います。私たちは歴史に関する様々なことを学び、その素晴らしさには驚かされました。次に那覇てんぶすに行き、琉球ガラス、焼き物、漆器、首里織り、紅型などの伝統工芸を学びました。私はこの中から漆器を選び、とても上手だと誉められました。まったく新しい事を学習する事が出来て、とても嬉しかったです。

火曜日はツアー最後の日でした。私たちは平和祈念資料館を見学しました。年老いた男性が、第二次世界大戦がいかに残虐なものだったのかを私たちに語ってくれました。そのあと、戦没者の名前が刻まれた御影石のような記念碑のある公園を散策しました。この記念碑は私たちに、戦争の虚しさを気付かせてくれるものでした。午後には、沖縄の人たちの生活を理解するために那覇の市場と国際通りを散策しました。その後、母と姉が迎えに来てくれて、その夜は家族で過ごしました。

時が過ぎるのは本当に早いもので、ツアーはもう終わりを迎えていました。私たちは、新しく出来たばかりの友達に別れを告げなければいけないことは分かっていたので、とても悲しい気持ちで一杯でした。さよならパーティーも最初は楽しかったのですが、最後のほうでは皆感情が高ぶり、互いを抱きしめあって涙を流していました。お互いから離れたくない気持ちで、私たちはずっと写真を撮り続けていました。

スタッフの人々は、時間がとくに過ぎている事を何度も私たちに知らせなければなりません。私は本当に多くのものを得ました。たくさんの友達をつくり、たくさんの素晴らしい場所を訪れ、たくさんの新しい経験をしました。友情に国境はありません。文化、伝統、言語、人種、信条の違いこそあれ、私たちは平和に集う事が出来るのです。そして、フィリピン沖縄県人会や私の祖母から習った「イチャリバチョーデー」の言葉どおり、私が出会った人々は、私にとって、もう既に兄弟姉妹になっていました。皆に会えた事は本当に素晴らしい体験でした。一つだけ提案があります。ジュニアスタディーツアーへの次期フィリピン人参加者がタガログ語を使えるようにして欲しいのです。フィリピン人は英語を理解できますが、他の参加者に、フィリピンの公用語はタガログ語であるということを、誇りを持って伝えたいのです。また、他の参加者と、タガログ語を共有したいのです。

最後に、フィリピン沖縄県人会に感謝申し上げます。私を選んでくれて有難うございました。そして、私に

動機を与えてくれたディーンと、東カルーカン大学の教授、私を支えてくれた家族、友人、このツアーを実現して下さった稲嶺県知事をはじめとするジュニアスタディーツアースタッフの皆様、私の一週間を人生の中で素晴らしいものとしてくれたツアー参加者の皆さん、そして、私の行動に常に強さと勇気を与えてくれる神に心より感謝いたします。

皆さんどうもありがとうございました。

Maraming salamat po!

2005 Junior Study Tour

The Junior Study Tour in Okinawa was a once-in-a-lifetime experience. I experienced many “firsts” in my life and the fond memories will surely remain in me forever. I had a lot of anxiety and apprehension while preparing for my trip. First, I’d be missing school for several days and I felt it would be very difficult to catch up with missed lectures, quizzes and other activities, more so because we were having our preliminary examinations. The country was also experiencing political turmoil and somehow I thought it would paint a bad picture abroad. I was also afraid that I wouldn’t be able to carry on that “big” responsibility of representing my country, the Philippine Okinawan Society (POS), my school, and my family. On the other hand, I thought that I couldn’t forego such a beautiful opportunity and I’ll surely regret it if I didn’t go. And, as it turned out, it was a beautiful and an unforgettable experience.

I arrived in Okinawa on July 19th via Philippine Airlines. I was welcomed at the Naha Airport by the Junior Study Tour staff, my mother and grandmother. I stayed with my mother, grandmother and a sister (an English teacher at a Junior High School) for 2 days. On the 21st, we went to the Okinawan Prefectural Building for the welcome ceremony, orientation and commemorative photo with Gov. Inamine. There were 17 participants from other countries and 19 participants from Okinawa. All the foreign participants except the one from Canada and myself, had their own “guides” so they were all at ease among themselves and were usually together. I was feeling uncomfortable at first, more so because of the language barrier. I had a hard time communicating with them. Oftentimes, we didn’t understand each other and we ended up laughing

among ourselves. The staff made sure that we understood instructions; we were given a receiver, with 3 channels-English, Spanish and Portuguese and translators. It was very helpful because I really can't understand Nihongo.

At the welcome party, I did a song number and I wore a Filipiniana costume. I was so nervous and forgot the lyrics of the song. Thank God, the people watching were clueless about the song! We had a sumptuous dinner and had a restful night at the Rainbow Hotel.

The following day, Friday, we woke up early. I was so excited because we were to go trekking in Higi Falls. We were all having fun when all of a sudden I tripped. I was wet all over and worse, my camera, which was a borrowed one, stopped functioning. Everybody was so concerned, asking me every now and then if I'm okay. I wasn't able hurt though, but I was worried about the camera. Aside from the fact that it wasn't mine, I no longer had one to capture the precious moments with. That night, we had a campfire and a barbecue dinner. We had games and our group lost. As a consequence, we were made to drink a certain kind of tea that had a horrible taste. It was really yucky! But I went along with the group and drank it all. We had a great time and spent the night at Pension Carolina. I was still bothered with the camera and cried a river so I called up my mother and was relieved after talking to her.

Saturday's schedule was for nature study, a marine tour. We went to the Ocean Expo Park, to the Churaumi Aquarium, the biggest of its kind in the world, which is home to countless number of marine creatures like sharks, manta rays, fish of many sizes and shapes and colors, corals and other tropical marine life. Here, we can experience the splendor and mystery of the sea as if you were diving down in to the depths, and I really enjoyed the panoramic view of bountiful fish through the largest acrylic window in the world. It was thrilling getting a close-up look at sharks and rays at less than an arm's length away. Our next stop was just as exciting-the sabani experience. The sabani is the Okinawa traditional boat. We just didn't have a ride, we really rowed our own boats by groups and had a race. It was tiring but we had a lot of fun.

On Sunday, we went to the Onna Village Community center where we studied culture and the traditional performing arts. I learned the basic

steps of the Eisadance, the Ryukyuan dance, and the Danshin experience. We also went to chatan and had an orientation in the sea desalination facility. Later, at the JICA Okinawa International Convention Center, we studied the history of Okinawa's migration. The lectures were very informative and we learned a lot.

The schedule for Monday was a visit to Shurijo Castle. Seeing the grand castle is a must for anyone visiting Okinawa. We learned a lot about its history and were amazed at its magnificent splendor. From here, we went to Naha Tenbus, where we learned some traditional craftwork, glass, pottery, lacquer ware, Shuri-ori weaving, Bingata dyeing. I chose to do lacquer ware and as told that I was good at it. I was happy to learn something new.

Tuesday was the last day of the tour. We went to the Peace memorial Museum. An old man told us about the atrocities of World War II. We strolled around the park where the names of all soldiers who died during the war have been etched in a huge granite-like marker, reminding everyone about the inanities of war. In the afternoon, we had a walk at Kokusaidori and strolled at the Naha market to learn more about Okinawan lifestyle. Later, I was fetched by my mother and sister and spent the night with them.



Time flew so fast, the study tour has come to its end. It was sad because I knew we were saying good-bye to newfound friends. The farewell party was fun at first but later, everyone grew emotional and started hugging each other and crying. It seemed everyone didn't want to let go of each other and we had endless picture taking. The staff had to remind us many times over that time is up. I have learned so many things; I have gained many friends; I have seen spectacular places; I have experienced many new things. Friendship has no borders. In spite of differences in culture and tradition, language, race, belief, we can come together in peace. And as what I have learned from the POS and from my grandmother, the word "ICARIBACHODE" remains in my heart-everyone I've met is already a brother/sister to me. It was really a great experience meeting you all. I just have one suggestion- I hope the next participant from the Philippines will have the

opportunity to make use of Filipino/Tagalog. Although we in the Philippines can understand English, I would have been prouder to let everyone know that Filipino/Tagalog is our national language and would have loved sharing with them things Filipino in Filipino.

In closing, I'd like to thank the Philippine Okinawan Society for choosing me to be a part of this; the Dean and my professors at the University of the East, Caloocan for giving me considerations; my family and friends for all the support; the Okinawa Prefectural Government under Gov. Inamine and the Junior Study Tour Staff, for making this possible and all the Junior Study Tour participants for making my one week in life cherishable and to our great God who is the source of my strength and courage in everything I do. Thank you everyone. Domo arigato gozaimasu. Maraming salamat po!





ゴンザレス 優子 エリザベス

YUKO ELIZABETH GONZALES

17歳 2世

イギリス United Kingdom

イギリス沖縄県人会



「ジュニアスタディーツアー2005」

沖縄を訪れる事ができたのは、素晴らしい体験でした。第1日目はとても不安でびくびくしていました。というのも、ほかの国からは2、3人の参加者が来ていましたが、私の国からは私一人だけだったのです。その後、私達は各自、自国について話さなければなりませんでした。その事を考えるだけで胃がきりきりしましたが実際に前に行って話しはじめたらそんなに悪くもなかったです。数人の沖縄の高校生が短いショーを披露してくれました。その中で私が気に入ったのは、タイの踊りでした。その衣装は色鮮やかで、踊りは美しく優雅でした。その晩には、私達の歓迎会がありました。私はその行事が気に入りました。なぜならその行事が、お互いに打ち解けて話しあう事ができるきっかけになったからです。そして、その後から気分を落ち着けて、心地よく過ごす事が出来ました。

第2日目はすごく楽しい比地大滝への旅行でした。私は是非沖縄の自然をこの目で見て、素晴らしいアウトドア体験してみたいと思っていました。ある男性が案内役となり、山での心得について話してくれました。滝へ近づくにつれて段々暑くなって来ました。また、たくさんの階段を登らなければならず、とても疲れました。今まで見た事のない多くの生物や昆虫を見ることができました。とても美しかったです。ある地点まできたら、靴と靴下を脱ぎ小石や岩を踏みながら川を渡って行きました。楽しかったですが、時々とがった小石を踏んだりして痛い思いもしました。又滑りやすい石などもあって少々危険でもありました。少したつと、大きな葉に包まれたお弁当が配られました。中身はおにぎりとお肉のケーキでした。その食事はとてもおいしくて気に入りました。1日が過ぎて、それまで通って来た道をまた戻って行きました。ホテルに帰る前にガイドさんが鳥について話してくれました。そして木で作られた小さなブロックと、先が輪になっている鉄のねじが配られました。そのねじをブロックの穴に入れてまわすと小鳥のさえずりのような音が出ました。そのおもちゃで実際に小鳥達を呼ぶ事ができたので、それはとても賢くて面白いおもちゃだと思いました。それからキャンプファイヤーをしました。火の回りで

ゲームやダンス、そして歌を歌いました。本当に楽しかったです。この日はまったく素晴らしい日でした。

3日目に水族館を訪問しました。多くの不思議な形・色・サイズの魚や生き物がいて、それらは美しく、見ていて楽しいところでした。その後沖縄の伝統的な船、サバニをこぎました。私は一度も船をこいだ事がなかったので、これは素晴らしい体験でした。とても疲れましたが、新しい事にチャレンジするのはやりがいがありました。

そのあと、ホテルに戻っていくつかのゲームをしました。

4日目には、小さな太鼓のような物を持って踊るエイサーを習いました。美しい踊りの動きを覚え、新しい事を学ぶのは本当に楽しかったです。四日目の体験で私が気に入ったもう一つのプログラムは、沖縄国際センターを訪問した事です。移民として他の国で生活をしていく為に経験してきた様々な苦勞を知り、とても興味深いものでした。

5日目には首里城を訪問しました。お城は非常に大きく、たくさんある部屋には様々な色、形、デザインがあり、すばらしかったです。昔琉球王が住んでいた場所を訪れるのは名誉な事だと思いました。その後、漆器体験をしました。きれいな赤い花の模様のついた小さなお椀を一品作りました。作る過程は、とても楽しかったです。

6日目に私達は平和祈念資料館へ行きました。私が最も興味を持っていた場所です。ある男性が私達に座るように指示し、第二次世界大戦の体験を話してくれました。その話を聞いて私をはじめ皆感情的になりました。又そのような大変な体験や痛みをせず今こうして生きている事がどんなに幸運であるかを実感させられました。その次は市場の散策でした。売られている美しい品物や工芸品を見る事は素晴らしい事でした。

7日目は最終日でとてもさびしい日でした。特にお別れパーティーの時には、みんな感情的になってしまいました。私達は一人ずつ日本語のスピーチをしなければなりませんでした。以前ほど緊張しませんでした。ただ、私の発音が分かっていただけだと思いましたが、そして各自修了証書が渡されました。素晴らしい事です。その日が終わってほしくなかったのですが

残念な事に時は早く過ぎ去ってしまいました。私達はシャツにそれぞれメッセージを交換しあい、多くの者が泣いていました。私も泣きそうでした。

この機会に、私にこのすばらしいツアー参加のチャンスを与えて下さった県庁の皆様にお礼を申し上げます。又、通訳、スタッフの方々にも厚く感謝を述べさせていただきます。

沖縄でその伝統や文化、歴史などを学ぶ事が出来た事はとても光栄でした。今は日本語を話せませんが沖縄へ行った事で刺激を受け、やる気がでてきたので是非日本語を勉強し、次回は皆様に日本語で話す事をお約束いたします。再度お礼申し上げます。誠にありがとうございました。

2005 Junior Study Tour

Coming to Okinawa was a wonderful experience. On the first day I was quite nervous and shy because I was the only one coming from my country, whereas, every other one had at least two or more students.

Later on, we had to do a speech of our countries. The thought of it made me have Butterflies in my stomach but when I went up to speak, it wasn't so bad after all.

A group of Okinawan high school students put together a short show for us. My favourite part was the dance from Thailand-the costumes were bright and colourful and the dance was beautiful and elegant.

In the evening we had a welcome party. I really liked this because it was like an ice breaker where everyone had a chance to talk to each other. After the party I began to feel more at ease and abit more comfortable and settled.

The second day was great fun as we were trekking in the Hiji falls. I got to see Okinawa's nature and experience the great outdoors. There was a man who gave us a tour guide and talked to us about a few things in the mountain. As we walked further into the falls, it was becoming more and more hot. We also had to climb up lots and lots of stairs which was really tiring. I saw many creatures and insects that I hadn't seen before and they were beautiful. We come to a part where we took our shoes and sock s off and walked n stones and rocks through a river. This was fun but quite painful for me because I sometimes stepped on a few sharp stones were slippery.

Later, we were each given a lunch which was

wrapped up in a big leaf, it consisted of Onigiri and a type of cake ball. I really liked the meal, it was very delicious.

At the end of the tour we headed back. Before we went back to the hotel, the man talked us more about birds. He gave us a small block of wood and a metal loop with a screw bit at the bottom of it. We had to twist it in the hole in the wood and it made a tweeting bird sound. I thought this was very clever and quite fun because we were able to call the birds.

We then headed back to the hotel and had a camp fire which was a great day.

On the third day we visited the aquarium. I really enjoyed this as I saw so many weird looking creatures and fish,with different colours, shapes and sizes, but they were beautiful at the same time.

Later, we rowed on the Okinawan traditional boat called the Sabani. This was a brilliant experience for me because I had never actually rowed on a boat before. It was very tiring though but worth it though because I got to try something new.

After we headed back to the hotel and played a few games.

On the forth day I learned Eisa dance which was with the mini drum-like instruments. This was so much fun because I learned so many new and beautiful moves. My other favourite part was visiting the Okinawan International centre. Here, we learnt about the history of Okinawa's immigration. I found this interesting as I learnt so much about the hardship they went through just to try and live in another country.

On the fifth day we visited Shuri-jyo Castle. I found this amazing because it was absolutely huge and beautiful with its many rooms full of different colours and pattern, and designs. I felt honoured to be in the castle knowing that a king used to live there.



Later, I learnt about lacquer-were. I got to make one piece it was like a small plate with a beautiful red flower on it. I found this enjoyable to make.

On the sixth day we visited the peace memorial museum. This was my most favourite place. A man sat us down and told us about his experience in World War 2. This made me very emotional as it did everyone else. It made me think how lucky I was to be alive today and how I didn't have to go through so much hardship and pain.

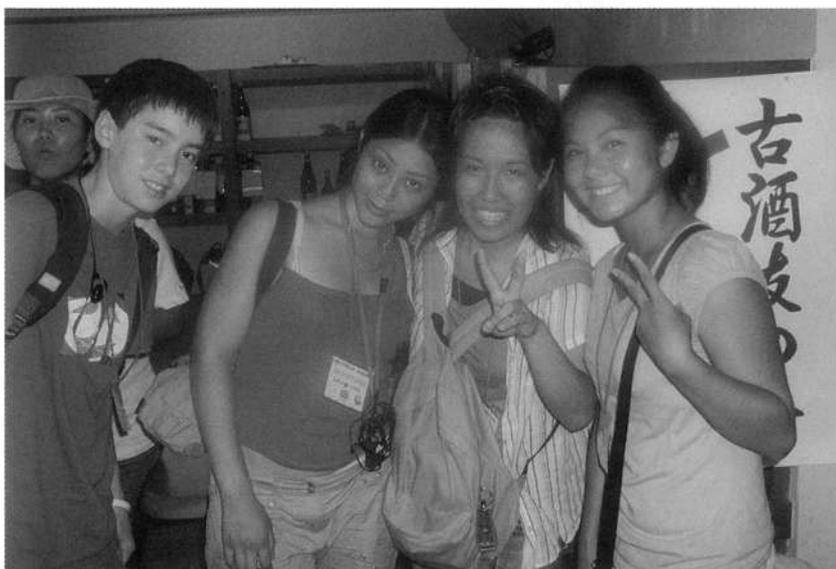
Later, we went for a stroll down the market place. This was great as I got to see the different shops and the beautiful objects and craftwork they were selling.

The seventh day was very sad because it was the last day and everyone was emotional spatially at the farewell party. We each had to give a speech in Japanese for one minute. I wasn't nervous as before, but I hope that my pronunciation of Japanese was okay. We were also presented with our own

certificate which was great. I didn't want the day to end, but unfortunately it went too quickly. We signed each others shirts with little messages and many were crying a lot. I was very emotional too, but I managed not to cry although there were many times when I was about to.

I would like to take this opportunity to thank the prefectural government for giving me this wonderful chance to be a part of this study tour. I also want to thank all the translators and staff for keeping the group together and for all their hard work for organising many activities. It was an honour to be there and learnt the history, culture, traditional ways of Okinawa.

I know I don't speak the Japanese language now, but being in Okinawa has given me so much inspiration and motivation to learn the language; so I promise to learn Japanese and next time I'm there, I will be speaking the language to you all. Thank you again.



具志堅 靖知

GUSHIKEN YASUTOMO

沖縄市立コザ中学校 3年



『沖縄から世界に架け橋を』

僕は平成17年度ジュニアスタディツアーに参加して海外の同世代の子ども達、しかも移民した沖縄人の子孫と沖縄のことが学べてすごく良かったと思います。

ます。

2日目から3日目にかけては自然学習を行い、沖縄の自然の魅力を再発見することができ、「世界に誇る沖縄の自然を僕達の手で守り、次の世界に残したい。」と思いました。

5日目の歴史学習では首里城と玉陵を見学し、約450年間続いた琉球王国の歴史を再確認することができました。最終日の平和学習では糸満市摩文仁にある平和祈念公園を訪れ、平和祈念資料館や平和の礎、周辺にある戦跡を見学し、改めて戦争の悲惨さを学びました。そして、「沖縄戦の悲劇を全ての人へ伝えたい。」と思いました。

このツアーを通して僕は参加者全員が国境を越えて一体となった感じがして、国際協調の輪が広がったような気がしました。

20世紀初頭、金武出身で移民の父といわれた当山久三は20人余の沖縄人をハワイへ移民させました。この時から沖縄人の移民の歴史が始まり、その後も出稼ぎのため、多くの沖縄人が北米や南米へ移民しました。ここ数年はそれらの出来事から100年を迎えたため、日本と共同で記念行事を開いています。また沖縄県は全国でも1、2位を争う移民輩出県であったため、来年開かれる第4回世界のウチナンチュ大会などで移民受け入れ国との交流がますます深められることが期待されています。

最近の国際交流はよその国の人同士が触れ合い、相手の国のことを学んで知るだけでなく、伝統芸能・工芸の体験、民族衣装の着服、その国の料理を味わうことなど、国際理解を勧めるために交流そのものの内容が一段と深められています。

僕は国際化時代に生きる者の一人として、これからも積極的に国際交流に関するイベントなどに参加し、自分で「今後の国際交流の在り方」について考え、それを模索したいです。

将来はこのツアーで学んだり、感じたりしたことを発揮して、沖縄と南米諸国などの移民受け入れ国の発展に尽くしたいと思っています。

最後に、このツアーに協力してくださった沖縄県観光商工部交流推進課の皆さんやスタッフの方々に感謝を申し上げます。

本当に有り難うございました。

Thank you very much. Muchas gracias.

いっぺーにへーでーびる。



城間 ひかる

SHIROMA HIKARU

那覇市立石嶺中学校 3年



『スタディーツアーに参加して』

私は、今夏開催されたスタディーツアーに、沖縄県の中学生代表の一人として参加しました。中学生は4人しか参加できないので、年上ばかりがいるのだらうと思い、とても緊張しました。集合場所に行くと、もうすでに参加者が集まっていました。周りを見渡すと、海外参加者も、県内参加者も皆、年上に見えて緊張のあまり、心臓がバクバクしていました。

県庁で記念撮影を終え、地下にあるレストランで昼食を取りました。県内参加者しかいない席について、みんなで話しながら食事を取りました。少し、リラックスすることが出来ました。初めて友達になったのが、石垣から来た又吉奈保子さんでした。

食後、レインボーホテルに移動し、グループ決めなどのオリエンテーションをしました。私はFグループでメンバーは祥子さん、あんなさん、なつみさん、千草さん、ジョーダン君の5人です。Fグループは、男子がジョーダン君一人なので、ちょっと可哀相だなと思いました。その後、各国紹介や、スペイン語の講師を招いてスペイン語の勉強をしたりしました。

7時から、沖縄尚学高校の地域国際交流クラブの皆さんが交流プロジェクトを企画してくれていました。ゲームやダンスなどがあり、とても楽しかったです。その後、ウェルカムパーティーがありました。洋風で立って食べるというものでした。ここで、参加者が出し物をしていてとても面白かったです。琉球舞踊やアルゼンチンのダンス、ギター演奏、ブラジルのダンス等でした。

ホテルでの部屋に一緒に泊まるメンバーは、美優さん、祥子さん、ジャンニさん、優子さんでした。優子さんは英語しかしゃべれないけど、とても楽しく過ごす事が出来ました。

2日目は、那覇から比地大滝まで行くのに時間がかかるため、6時起床でキツかったです。比地大滝につくと、英語グループとそのほかの言葉グループに分かれてトレッキングをしました。行きは、途中で普通の道を歩き、途中から水の中を歩きました。石が多く、裸足で歩いたのでとても痛かったです。帰りは、普通にコースを歩いて帰りました。最後に、バードコールというものを作りました。これで鳥をよんで、観賞するそうです。

恩納村のペンションに泊まりました。私は二人部屋で、ジャスミンさんと同室でした。ジャスミンさんは、英語しか話せなく、とても会話に困りました。いったん、部屋に行き、それから、キャンプファイヤーをしました。そのときも、沖尚の人たちが楽しいゲームを企画してくれて、本当に楽しかったです。ゲームが終わると、キャンプファイヤーを始めました。火の勢いが強すぎて、とても暑かったです。日焼けならぬ、火焼けをするかと思いました。

夜は、ジャンニさんの部屋に行き、レグトンを踊ってもらいました。とても上手でした。

3日目は、美ら海水族館に行きました。ケンジ君と、あいりさんと見て回りました。大きな水槽の中に、ジンベイザメや、エイなどたくさんの魚がいてとても凄かったです。伊江島たちゅーがキレイに見えたのもよかったです。

お昼は、「本部元気村」ですまして、サバニをしました。サバニはとっても難しく、びしょぬれで大変でした。サバニをしていた隣には、イルカさんがいてとっても可愛かったです。

サバニを終えた後、近くのビーチで泳ぎました。海底にはナマコ等がたくさんいて、とても気持ち悪かったです。

この日も恩納村のペンションに泊まりました。深夜まで奈保子さんとうろちょろしたり、お話をしていました。

4日目、恩納村で伝統芸能体験をしました。私は三味線を選びました。三味線はとても難しかったです。その後、北谷の海水淡水化施設に見学に行きました。機械が沢山あってすごかったです。見学の後、海水を淡水化した水と、普通の水を飲み比べました。海水を淡水化した水には、カルキ臭さが無く、とても美味しかったです。

国際センターに行き、移民について各グループに分かれて話し合いました。写真を見て何処の国でどういう事をしている等と言うことをみんなで話し合いました。夕食は国際センターのレストランで食べました。食後に、一緒に食事をしたメンバーで写真を撮りました。

5日目、夕べは夜更かしをしたので、朝食ぎりぎり起きてしまいました。食後すぐにロビーに降りて首里城に行きました。その後、タマウドウンに行きました。

昼食を金城町の石畳にあるお店で食べました。沖縄そばを食べました。エミとかは沖縄の食事が口に合わないようでした。

その後、てんぶす館に行き、伝統工芸をしました。私は漆器を作りました。隣にはミッシェルさんがいて、とても上手に作っていました。

今日で、ホテルに泊まるのは最後でした。でも、みんなとお話ししたりしてとても楽しかったです。

6日目、平和祈念資料館に行きました。そこで、沖縄戦の悲惨さ、当時の人がどんなに苦しんだかが、痛々しいほど伝わってきました。公園内散策では、防空壕の後や、亡くなった人たちをまつた所を見ました。

昼食の後、まちぐわぁ散策に行きました。ここでも、沖尚の皆さんに助けられました。おいしいサーターアンダギーを食べたり、井戸から水をポンプでくみ上げたりと、とても楽しかったです。

明日で、このスタディーツアーも終わりです。こう思うと、私はこの時間がもっと長く続けばいいのにと感じてしまいました。

翌日、スタディーツアー最終日。サヨナラパーティーは午後4時からなので、それまでみんなで国際通りをまわることにしました。沖縄屋にいたり、そこら辺にあるお店に入ったりなどして遊んでいました。最後にプリクラを撮ることにしました。あまり時間が無くて、1回しか取れませんでした。でも、とても楽しかったです。

サヨナラパーティーはてんぶす館の4階で行われました。修了式の後、前原キャスターの講話を聞きました。その後、海外参加者の感想発表と県内参加者の感想発表を聞きました。クリスが日本語で発表していたけど、何を言ってるか分からないので、マケーナがクリスがしゃべり終わった後、日本語の通訳として話していました。最後にみんなでダンスを踊って、島唄を歌いました。歌い終わった後、みんながTシャツにメッセージを書きました。

最初は、上手くやっていけるかかなり心配だったけど、最後には、もっとみんなと一緒に居たいと思うようになりました。

この夏、最高の思い出が出来ました。ずっと、大人になっても絶対に忘れない思い出です。この経験を生かして、今後いろんなことに励んでいきたいです。

今回参加したみんながもう一度集まれたらと思います。

あと、このスタディーツアーにいろいろと協力して下さいました皆様にお礼申し上げます。



伊地 侃海

ICHI TADAMI

与那原町立与那原中学校 3年



『ジュニアスタディーツアーに参加して』

自分はこのジュニアスタディーツアーに参加して、2つの大きなものを得ました。

まず一つは、沖縄のすばらしさを知りました。

自分はこのツアー期間中に、サバニ体験、美ら海水族館見学、海水淡水化施設、伝統芸能体験、平和祈念資料館見学、首里城見学などといったたくさんの場所を訪れ、見学しました。この他にも、歴史学習として沖縄の移民の歴史を県外参加者のみなさんと学習しました。

この体験学習で印象に残っているのは、沖縄の移民の歴史で、昔の沖縄の人の苦労があったからこそ、今の沖縄があり、そしてこのように世界の国々から沖縄に集まり、世界のことを知ることが出来ると思います。

また、平和学習での戦争体験者の方の沖縄戦についての話が忘れられません。60年前は、自分たちのような学生でも戦争にかり出され、多くの人々の命が奪われ、悲惨な戦争を二度と起こしてはいけないことを、その方のお話を聞いて改めて感じました。

もう一つは、仲間を得ました。初めてみんなにあったとき、「みんなと上手くやっていけるだろうか。」と、心配ばかりしていました。しかし、2日目のキャンプファイヤーが終わった頃から、みんなうち解けることができ、県外参加者の人たちも県内参加者のみんなもまじって交流することが出来ました。

県外参加者の中には、日本語がしゃべれる人もいて、あまり言葉には困りませんでした。

3日目は、サバニ体験で海に行き、サバニレースで盛り上がり、その後近くで泳いだりしました。海に着くと、自分と仲良くしていた県外参加者が“What's this?”と海に指をさしていました。自分が、“This is sea urchin.”と答えると、驚いた表情をしていました。その県外参加者は日本のすしが好きらしく、はじめてウニを見た、と驚いていました。

4日目、5日目は主に文化学習で、エイサー、琉球舞踊、三味線を習いました。

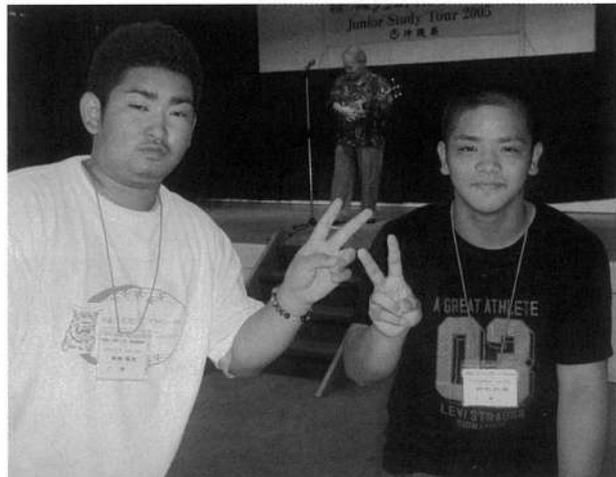
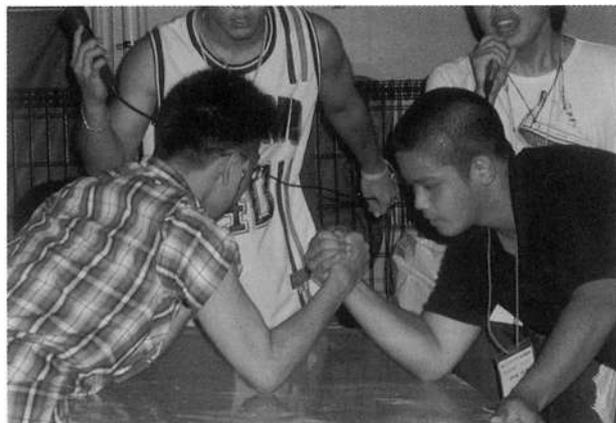
自分がこのジュニアスタディーツアーで一番楽しかったことは、みんなと夜遅くまで Hang Out したことです。

引率の方に注意をうけることもありましたが、とても良いツアーに参加することができました。

自分がこのツアーを通して実感したことは、文化や言葉に壁があっても、みんな同じ気持ちで変わらないということです。

最後に、このツアーを企画してくれた沖尚の皆さん、そして仲間に感謝します。

“Gracias. Obrigado. Thank you. ありがとうございます。ありがとうございました。”



又吉 奈保子

MATAYOSHI NAOKO

石垣市立伊原間中学校 3年



『ツアーに参加して』

私は、このジュニアスタディーツアーに参加して良かったと心から思います。このツアーでの一週間は夢のようであり、また充実した日々でした。

私は、初日の大事なみんなとの初対面に飛行機の都合で大遅刻してしまいました。集合場所に走り込んでいくと、みんなの視線が一気に私に向けられて、そして「みなさーん、石垣さんが到着しました！」とツアー参加者のみんなから素晴らしい温かい歓迎を受けました。しかし、私にとってはツアーの始めからなんて恥ずかしい事をしてしまったんだろうと後悔し、沈んでいました。

ツアーのスタートは、失敗してしまったけど次の瞬間からそんな嫌な気持ちは忘れられ、逆に本当にこんな私に友達が出来ると不安の色で一杯になりました。その為私は、どう接していいか分からずツアーの始めは消極的になっていました。

しかし、周りの積極的な行動を目の当たりにして、私もこのままではダメだと自分自身をリセットして一から私はツアーに参加することにしました。

ツアーの参加者は、皆个性的でフレンドリーな人達でした。それに私は驚き、また参加者みんなの人の温かさに感動しました。

ツアーでは、実際に海外参加者と一週間共に生活する事で色々な事を学び、得る事も多く私は変わったと思います。会話の中で自然と英語を喋り、それだけではなくなんと、なまりやリアクションまでもが移っている事に私は驚愕させられました。

しかしその反面、言葉の壁にも何度もブチ当たりました。その時私は、自分自身の英語力のなさ、発音の悪さにふがいなさを感じさせられずにはいられませんでした。もっと私が勉強していたなら…と後悔させられました。でも、日を重ねていくうちに少しずつでしたが、通じる事も多くなり、その事に私はとても喜びを感じました。それと同時に言葉の壁を越えて私は心と心で触れ合う事でこそ、本当の“絆”がうまれるのだと思いました。

また、このツアーで沖縄の名所をまわる事で、改めて沖縄のよさを実感し、ツアーのみんなと一緒にまわる事によってさらに多くの喜びを味わえました。

このツアーを終えて、一週間を振り返ってみると本当に終わってしまったのかと悲しくなりました。みんなの笑顔や楽しい時間は今でも昨日の事のように思うのに…

夢の一時のようなツアー。もし、このツアーが夢だったとしたなら、私はこの夢からさめたくないと思いました。

ツアーに参加して、色々な体験を通して学ぶ事も多く、そして一番に私達ウチナンチュと世界のウチナンチュがこのツアーによって友好の輪を結ぶ事ができたと思います。

「一期一会(イチゴイチエ)」

この出会いが一生一度だとしても、この出会いを永遠に忘れず大切にしたいです。なぜなら、このツアーのあったひと夏の最高の思い出は私達ジュニアスタディーツアー2005の参加者の心に深く刻みこまれていると思います。

私は、この思いを胸にこれから色々な事に挑戦し、頑張っていきたいです!!

最後にこのツアーを企画・運営して下さった全ての方々に深く感謝します。そして、私はこのツアーに参加したみんなを心から愛しています…。みーんな大好き☆”

ありがとう/Thank you/Gracias/Obrigado/いっぺーにふえーでーびる

☆☆☆ I LOVE ジュニアスタディーツアー☆☆☆



金城 千尋

KINJYO CHIHIRO

北部工業高等学校 2年



『ジュニアスタディーツアーに参加して』

7月21日から27日にかけてジュニアスタディーツアーに参加しました。

初日に県庁に集合し、みんなと顔を合わせた時、本当にこのツアーでやっていけるのか不安でした。でも、ツアーメンバーが、大丈夫？緊張してるでしょう!？大丈夫だよ、みんなに話しかけてごらんと言ってくれたので、自分も積極的に話しかけられるようになりました。

初日はウェルカムパーティーがありました。まだ少し不安だった私にみんなは「一緒に近くで舞台を見に行こう。」と誘ってくれたので、すぐに心を開く事が出来ました。そのおかげで、私は初日から多くの人達と友達になる事が出来ました。

2日目は比地大滝にトレッキングに行きました。二組に分かれてトレッキングをすることになり、私はEnglishチームに参加しました。Englishチームはまだ話した事がない人ばかりでしたが、勇気を出して、一緒に登ろうと県内参加者の奈々さんとエリナさんに自分から声をかけたら、笑顔でいいよと答えてくれて、友達になる事が出来ました。

比地大滝への道のりはとても険しく、長い階段が続き、途中で何度もやめたいな、もう帰りたいな、とくじけそうになりました。でも、エリナさんや奈々さん海外参加者のユカリさんも頑張れと励ましてくれ、なんとか比地大滝まで着く事が出来ました。滝の近くは涼しくて、滝も迫力があって、感激して目の前にある大きな岩に登って記念撮影をしました。互いに励まし合い、仲間と共に達成する事ができ、印象に残るトレッキング体験になりました。

夕飯はペンションでバーベキューをしました。沖縄尚学高校の人達がバーベキューの準備をしてくれ、一緒にバーベキューを盛り上げてくれました。みんなで語り合いながらのバーベキューはとてもおいしかったです。

3日目は美ら海水族館へ行きました。自宅から近い所にあるにもかかわらず、私はそこに一度も行った事がなかったので期待に胸がふくらみました。

館内は多くの人で混雑していました。大きなサメの模型や顔の骨などが展示されており、その初めて見る大きさに驚かされました。その後、本部元気村でサバニ体験をしました。私はサバニという名前を聞いた事がなく、船の事だと知った時はびっくりしました。

船は細く小さく、少しでも動くときいて転倒しそうだったので恐かったです。サバニ競争では負けてしまいましたが、みんなで一生懸命漕いだので楽しかったです。

夕食の後は交流会をしました。交流会は参加者の自主企画で、リーダー達が思い出に残るように、みんながより仲良くなるために一生懸命考えてくれた企画でした。日本語の話せる海外参加者に通訳をお願いし、みんなが楽しい時間を過ごす事ができました。

このツアー期間中、海外参加者も県内参加者も一つの部屋に集まって夜中までおしゃべりをしたり、音楽をかけて楽しく過ごしました。

4日目は恩納村コミュニティーセンターで文化学習（伝統芸能体験学習）をしました。私達は琉球舞踊とエイサーと三味線のグループに分かれて体験学習をしました。私は三味線を選び「春の小川」の弾き方を習いました。最後のさよならパーティーで演奏すると聞いたので、一生懸命練習しました。

海外の人達と沖縄の伝統芸能体験が出来たことは、素晴らしい体験でした。

その後、うんな祭り会場に行き、恩納村が誇る世界一の鍋で作る豚汁を食べました。とてもおいしかったです。

5日目は歴史学習で、首里城、園比屋武御嶽石門、玉陵見学でした。私達県内参加者には見慣れた場所ですが、海外参加者は初めて見る建物に感激して、何枚も写真を撮っていました。改めて首里城はすごい所なんだなと思いました。

お昼は民俗資料館・石畳瑞盛館のあるそば屋に行きました。はじめに沖縄そばを食べて資料館に行きました。資料館の中には古い道具がいっぱいあって、中学校の校章がたくさんあったのが印象的でした。次は文化学習で紅型、首里織り、琉球漆器の体験をしました。私は紅型を選んで柄は蝶を選びました。紅型の先生に上手だねって褒められて、自分でも満足のいく作品でした。

この日の夕食は最後の夕食だったので何だかちょっと豪華な夕食でした。おしゃれな店で、トイレまで花が飾ってあったり、食事も見栄えも良く、おいしく食べる事が出来ました。でも、これがみんなで食べる最後の夕食だと思うと淋しい気持ちにもなりました。

ホテルに着いて、今日が最後の宿泊の日なので、みんなでたくさん写真を撮りました。最後の宿泊は楽しいけれど、これまでのように長く語る事が出来なくなると思うと淋しい気持ちでいっぱいになりました。

翌日は、平和学習で平和の礎を訪れ、館内の公園で弁当を食べました。天気が良く景色も良かったので、とてもおいしかったです。

その後、社会学習でマチグァー散策をしました。これは、A～Gグループに分かれ、国際通りから県庁を目指すゲームでした。途中、道を間違えたり、サーターアンダギーを食べたりしました。

私達Cグループが県庁に着いたのは3番目でした。1番ではなくて残念でしたが、国際通りを散策するのはめったにない事だと思うのでとても思い出に残る体験でした。

最後の日は、さよならパーティーをしました。さよならパーティーは卒業式のように、ツアー参加者全員で歌を唄いました。一人一人名前を呼ばれ、修了証書を受け取りました。

長いようで短かった一週間はあっという間に終わってしまいました。初めは帰りたかった事もありましたが、さよならパーティーでは帰りたくない、みんなともっと一緒に居たいという気持ちでいっぱい、みんなで泣きながら修了式を終えました。

私はこのスタディーツアーに参加して、とても楽しくて、言葉ではなく心で繋がっている感じがして、また、私にこんなに多くの友人が出来ると思っていなかったので、驚きと感動をおぼえました。

今回のスタディーツアーでは、日本で日本文化を学び、また、海外参加者の人達は日本語が上手で、英語をあまり使わなくてもいい状況でした。それで、次は私が外国へ行き、外国の文化や言葉などを学びに行きたい、会話が出来るようになりたいと思いました。

私は、将来叔母の居るオレゴンに行きたいと考えています。今回のスタディーツアーでいろいろな国の人達と触れ合う事が出来、言葉の大切さや、海外参加者のおおらかな人柄も知る事が出来ました。この経験を活かして、これからの英語学習も頑張り、充実した高校生活を送っていきたいと思います。



幸地 長治

KOUCHI CHOUJI

名護高等学校 2年



『ジュニアスタディーツアーを終えて』

このツアーに参加して、とてもいい経験をする事が出来ました。まず最初に海外参加者の自己紹介などを聞いて、それぞれの国の文化や食べ物、スポーツをもっと調べてみたいと思いました。その後に、沖縄尚学高校のみなさんとレクをして、いろいろな人と話したけど、ちゃんと理解してくれたか心配でした。その日のホテルでは、片言の英語やジェスチャーを交えながら会話をしました。このツアーに参加する前にちゃんと勉強しておけばよかったなと思いました。引率者の牧志さんにこの事を話したら、牧志さんは積極的に話せばきっと喋れるようになってくれたので恥ずかしくならず積極的に話そうと思いました。

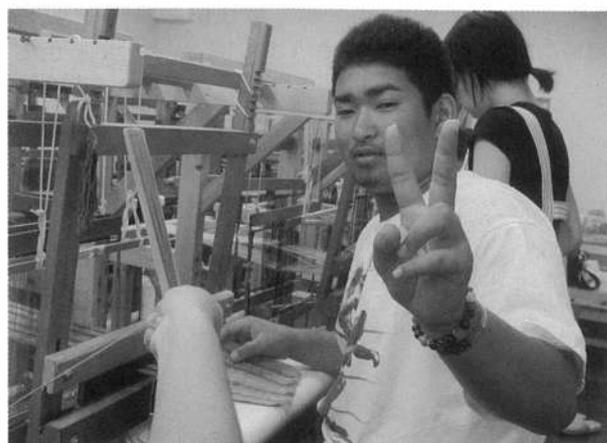
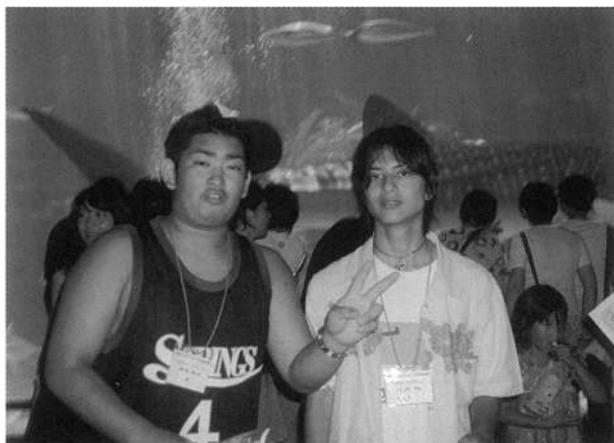
ジュニアスタディーツアーでもっとも印象に残っている事が4つあります。まず1つ目は本部元気村でマリンスポーツを体験した事です。サバニという沖縄の漁師が使っていた船でレースを楽しみました。乗る前に傾くのでとても恐かったです。サバニは全員の息が合わないと全然前に進まないの、みんなで掛け声を出しながら精一杯頑張りました。レースでは3位でした。でもみんな楽しそうにやっていたので良かったです。

2つ目はリーダーが中心になって海外の人達とレクをして交流を深めるプログラムです。沖縄方言クイズや伝言ゲームをしたけど、みんなが楽しんでくれたかとても不安でした。外国語を話せないと相手に伝えようと思ってても何を言っているのか分からないので本当に辛かったです。その日はずっとその事が頭から離れず眠れなかったです。最初はみんなと喋りづらかったけど、後からは多くの人と少しだけ話せるようになりました。海外の友達と一緒にいると自分が知らない事を話してくれて、とっても優しいなと思いました。

3つ目はキャンプファイヤーです。バーベキューの後に沖縄尚学高校の皆さんによる〇×ゲームや腕相撲大会などたくさんのレクをしました。とても楽しく、テンションが上がったままキャンプファイヤーをしたので暑くて倒れそうでした。これをきっかけとして沖縄尚学高校の皆さんと親しくなれたので良かったです。もうあとわずかしかなければ、とても悲しくなりました。だから、さよならパーティーまでには全員と話せたらいいなと思い、また、初めから話しておけば後悔することもなかったのと思いました。

4つ目は比地大滝に登った事です。僕は比地大滝に行った事はあるけど一番上まで登った事がなかったので、登ったときは言葉に言い表す事の出来ないぐらいのきれいな景色に圧倒されました。自分の住んでいる沖縄にこんなきれいな場所がある事を誇りに思います。沖縄には、沖縄料理や首里城などのいろいろな建造物があり、海外の人に自慢できるものがたくさんあります。僕はこのような沖縄が大好きです。沖縄に生まれて本当に良かったと思います。世界から注目されるぐらいの沖縄にしていきたいなと思います。

この一週間はかけがえのないもので、僕にとって最高の夏休みになりました。スタッフの皆さんどうもありがとうございました。このような体験ができて本当に嬉しく思います。また、いつか会いましょう。



金城 エリナ
KINJYO ERINA

読谷高等学校 3年



『グラスias!!』

私は今回のジュニアスタディーツアーで色々な国の人と友達になれることに期待して参加しました。県庁ではじめて海外からの参加者と会い、外見は私たちとあまり変わらないと思ったのが第一印象でした。参加者と会話をしていると、英語を話す人、2カ国語、3カ国語も話せる人、色々な声が聞こえ、世界は広いなと実感しました。そして私ももっと努力し、このツアーで色々な国の言葉を勉強したいと思いました。特に私にとって、スペイン語やポルトガル語は新鮮に感じました。

ツアー初日から私は早くみんなと仲良くなりたくて積極的に話しかけていきました。この日あった各国の言葉学習ではスペイン語を習いました。そのかいあって、私はスペイン語で簡単な自己紹介が出来るようになりました。

2日目に行った比地の大滝ではイギリスから来た優子さんと一緒に歩きました。彼女と話すときは英語での会話だったので、分からない言葉はジェスチャーを交えて話をしました。目的地までは遠く、比地の大滝に到着すると、自然の素晴らしさを感じ、マイナスイオンたっぷりの空気を吸って帰ってきました。

3日目のサバニ体験では、銅鑼の音に合わせてみんなでかけ声をかけながらサバニを漕ぎました。みんなのタイミングが合わないとサバニはうまく前に進むことが出来ませんが、漕いでいるうちにみんなの息も合ってきました。岸から離れて遠くまで行くと、海の色が深い色となり少し怖い気がしました。

4日目に沖縄の移民の歴史を考える時間がありました。移民した人々は、海外へ夢や希望をもって移住を決意したそうです。しかし、実際は仕事もなく、苦しい生活を余儀なくされ、それでも沖縄の人々は助け合い、支え合って生きてきたそうです。この苦労について、今を生きる私達中高生が全て理解することは難しいけれど、少しでも移民された方々の気持ちを理解したいというその心が一番大切ではないかと思いました。

5日目には伝統工芸体験学習があり、私は紅型に挑戦しました。沢山ある布に映し出されたデザインの中から自分の好きな物の一つを選択し、それに色づけをしていきました。みんなの紅型は色とりどりで一人一人の個性が色づかいに出ていてとても面白かったです。

6日目は平和学習があり、実際に戦争を体験した方のお話を伺いました。とても悲惨で胸が痛く、思わず耳を塞ぎたくなるほど苦しくなりました。そして、今私達が豊に暮らせる事、みんなが笑顔でいられる事、そのような当たり前のような事がとても幸せであるという事に気づかされました。

楽しかった5泊6日はあっという間に過ぎて、さよならパーティーの日になりました。学習成果発表会では、4日目の伝統芸能体験で学んだ事をそれぞれエイサー、三味線、琉球舞踊に分かれて発表しました。さよならパーティーではアメリカのマケーナさんが祝い節を披露してくれました。私は幼い頃から琉球舞踊を習っているので、遠いアメリカの地で沖縄の文化が一世から二世、三世へと受け継がれている事を嬉しく思いました。ペルーの「ピオピオ」というダンスとアルゼンチンの「エル・ガト」は、女の子の衣装の可愛らしさと男の子の格好良さがとても魅力的でした。ブラジルのサンバはツアーに参加したメンバーみんなで踊りとても盛り上がりました。最後に会場にいるメンバー全員で「島唄」を歌いました。私は歌を歌いながら、明日みんなが帰ってしまう事を考えると涙が止まりませんでした。そしてお互いにハグをしたり、Tシャツにメッセージを書いたりして、私達は遠く離れてもいつまでも友達である事を約束しました。

私はこのジュニアスタディーツアーに参加して、沢山の人達と出会えて本当に良かったと思っています。海外と沖縄の同じ世代の人達と一緒に時間を過ごす事で共通の話題や考え方、文化、そして言葉の違い、その他色々な事を学び、沢山の経験や体験をさせてもらった事に感謝しています。特にスタッフの皆さんは私達と一緒にずっと行動を共にし、サポートしてくださり私達は安心してツアーを楽しむ事が出来ました。また、沖縄尚学高校の先生や生徒のみなさんはボランティアで私達を支え、ツアーを盛り上げてくださり、感謝の気持ちで一杯です。来年の要望としては、もっと時間が欲しいと思いました。そうする事で仲が深まり、さらにお互いの事を知る事が出来ると思います。



大城 奈々

OSHIRO NANA

具志川高等学校 3年



『ジュニアスタディーツアーに参加して』

ジュニアスタディーツアーに参加して、色々な事が学べて自分自身、成長する事が出来ました。

私は今まで外国語といえば英語しか触れた事がなく、スペイン語、ポルトガル語は無縁でした。唯一触れた事がある英語でさえ苦手で学ぶ意欲がなく、このままではいけないと思っていました。スタディーツアーに参加した理由には、このような事もありました。

しかし、スタディーツアーに参加して、ボリビア、ペルー、ブラジル出身の人達とも関わっていく中で自分の視野が広がり、英語だけでなく、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語にも興味が湧き、しゃべれるようになりたいと思うようになりました。また、その国々も行きたいと思うようになりました。

スタディーツアーに参加した人達は、みんな面白くて、楽しくて、優しい人達でした。国が違い、言葉が違っていても私達は笑い合う事が出来ました。笑い合う事が出来たからこそ伝えたい言葉がたくさんあり、伝えられない時は悔しかったりもしました。

スタディーツアーで出会った仲間は、全員、私の心の中で消える事のない一生の友達です。スタディーツアーが終わった後も、たまにみんなのことを思い出し、「元気かな？今何しているのかな？」など考える時もあります。国も違うので又会う事は難しいかもしれないけど、再び会えるのを楽しみにしています。

私は最初、スタディーツアーに色々な国の人が来るのを知った時に、友達になって仲良くなるのは無理だと心のどこかでそう思っていました。言葉も通じなければ文化も違うし、この壁を乗り越えるのは一週間では無理だと思いました。

しかし、一日一日とみんなと過ごしていくうちに、だんだんとみんなの事が大好きになっていました。みんなの優しさや笑顔にふれるたびに、私自身優しい気持ちになりました。だから、スタディーツアーが終わってみんなと会えなくなると思うと、悲しくてたまりませんでした。さよならパーティーの時に、みんなと肩を組み合っ泣いた時は、本当に国境を越えて、みんなが一つになった瞬間だと思いました。

その後、スペイン語に興味を持ち、今、少しずつですが勉強しています。スペイン語だけではなく、ポルトガル語や英語、中国語も話せるようになりたいけど、まずは、スペイン語からです。私が、もっとスペイン語やポルトガル語、英語が話せるようになっていたら、いつかみんなに又会えた時に、前より話せるようになっていたらいいと思います。そして自分自身も日本だけではなく、フィリピンやカナダ、ボリビアなどみんなが住んでいる国を見てみたいと思っているので、行ってみたいです。

スタディーツアーに参加できて、色々な事を学べて、友達もいっぱいできて、最高でした。この思いでは一生忘れません。ありがとうございました。



玉城 美優

TAMAKI MIYU

具志川高等学校 3年



『ジュニアスタディーツアーの感想と要望』

初めてこのツアーに参加して、人見知りをする私は、最初はあまり楽しみではありませんでした。しかし、同じ部屋になった県内参加者や海外参加者の

人達と仲良くなり、お互いの国について話し合ったりしていくにつれ、ツアーに参加して良かったと思うようになってきました。

ツアー中は夜遅くまで語り合ってしまったせいでバスの中ではとても眠かったです。一週間という期間の中で一日一日がとても充実した日々でした。生まれてからずっと沖縄に住んでいるのに、行った事のない所ばかりをみんなと一緒に見学し、写真を一杯撮ったりしてとてもステキな一週間となりました。

一番楽しかったのは、美ら海水族館の見学でした。そこで私はアメリカから参加した一人の女の子とすごく仲良くなりました。お互いにシャイなので、最初は少ししか会話をしませんでした。そこで人見知りをしたくないので勇気を出し、積極的に話しかけたり質問したりしました。そのおかげで彼女と仲良くなり、次の日からは普通に話すようになりました。これは私にとって人見知りから脱出できた日でもあり、美ら海水族館がとても素晴らしい場所だったので、とても思い出深い日になりました。

スタディーツアーはこのような場所の見学や、マリン体験でのサバニレース、伝統工芸体験などの他にも言葉の違いでも交流する事が出来ました。

私は英語が大好きで英語で話したいと思っていました。しかし、このスタディーツアーは英語圏の人達ばかりではなく、スペイン語、ポルトガル語などあまり聞き慣れていない言葉話す人達と出会うので、言葉が全く分かりませんでした。でも、英語以外の言葉で話したくなった私は海外参加者の人達に言葉を教えてもらいました。お互いに理解できた時のあの喜びは忘れません。もっともっと話したくなりました。その時私は英語以外にもスペイン語に興味を持ちはじめ、「グラシアス (ありがとう)」しか知らなかった私は帰る頃には20近くの言葉を覚える事が出来ました。そしていつか英語もスペイン語も完璧に使いこなせるようになって、ツアーに参加した参加者の人達に会いに行こうと思います。

今度は私達沖縄の人が海外へ行こうと思っています。この一週間、大変貴重な日々を過ごす事が出来ました。ありがとうございました。心から感謝しています。

要望としては、一对一（県内参加者と海外参加者）で会話などをして、交流を持ってもいいのではないかと思います。アメリカの人達と一番仲良くなれたのは最後の見送りぐらいだったので残念です。それ以外は大満足です。

テンキュー、グラシアス、オブリガード!!



山城 杏奈

YAMASHIRO ANNA

普天間高等学校 2年



『ツアー参加にあたっての感想』

私は、ジュニアスタディーツアーに参加する事ができて、素晴らしい経験をたくさんする事ができ、一生の思い出を作る事ができました。このツアー

に参加できたおかげで、まだ行った事なかった比地大滝や首里城に行く事もでき、初めてサバニを体験する事もできました。

でも、やっぱりこのツアーを通して参加者のみんなに会えた事が一番の思い出です。県内参加者、海外参加者も含め、みんなと本当に仲良くなることができました。はじめは日本語を話せない人もいるのに仲良くなれるのか少し不安がありました。でも、みんなとってもフレンドリーで、明るく、優しく、いつの間にかとても仲良くなっていました。一週間という短い期間だったけど、私にとってはみんな家族のような存在でした。

私は普段の生活で海外の人と接する機会があまりなかったので、ジュニアスタディーツアーでたくさん海外の人達と出会い、考え方も変わり、とても影響を受けました。

それぞれの国にはいろんな文化があり、いろんな歴史があるということも改めて実感しました。ツアー参加後の今は、これまで以上に英会話の勉強を頑張っており、これから徐々にスペイン語やポルトガル語を勉強して、いつかは海外参加者の母国にも行ってみたいと思っています。

それに、海外参加者だけでなく、通訳や引率者の方々の仕事を見て、こんな仕事もあるんだなと思い、とても勉強になりました。ツアーを企画して子供達と旅して回ったり、通訳をする仕事はとてもやりがいがあって楽しそうなので、将来はこのような仕事もしたいと思いました。引率者や通訳の方々の仕事も身近に見る事ができたので、そういう面でも私にとってとてもためになるツアーでした。

私は、このジュニアスタディーツアーに参加できて本当によかったと思います。このツアーではいろんな事を学んだし、本当にたくさんの思い出ができました。そして、せっかく参加者のみんなと出会えたんだから、これで終わりにしないで、是非またみんなと再会する機会が欲しいです。



宇根 あみ菜

UNE AMINA

浦添高等学校 3年



『ジュニアスタディツアーに参加して』

夏休みに入っすぐ、ずっと楽しみにしていたツアーが始まりました。県庁に着くと、すでに県内・海外参加者が集まっていて、Tシャツに着替えていました。私は歓迎セレモニーで代表して作文を読むはずだったのに、原稿を忘れてしまい、上間さんにかなり助けてもらいました。ツアー参加者は県内19人、海外17人でした。周りを見てもみんな初対面の人ばかりで「どうやって話しかけよう。友達出来るかな。」と不安でした。しかし、参加者はみんな「もっとたくさん友達をつかって、仲良くなりたい!」という、強い意志を持った仲間達だったので、それぞれがとても積極的で、すぐ仲良くなれました。それでも初日だったので、やっぱり県外参加者の友だちに話しかける時は少し緊張しました。

ツアー中はグループが組まれていて、私はAグループでした。レインボーホテルの部屋割は5人部屋で、私と杏奈と県外参加者のエミとアキコとジャスミンでした。初日は何をしゃべったらいいかわからなくて、しかもエミとジャスミンは日本語が全く話せないし、少し不安でした。頑張ってジェスチャーで伝えようとしても、“I don't know.”と言われてしまって少し恥ずかしかったです。でも夜になって色んな友達の部屋に遊びに行ったりしている内に、いつの間にか口から英語が出てきて、びっくりしました。それからは、県外参加者の友達と話すのも普通になりました。

ツアーでは、本部の自然に触れたり、伝統芸能を学んだり、色んな体験をしました。1番楽しかったのは、3日目のマリン体験でした。グループ毎にサバニに乗り、練習した後、6チームで競争しました。Aチームは惜しくも2位だったけど、みんなで頑張っって漕いだから、順位は関係なく、本当に楽しかったです。その後、ペンションの近くの海で泳ぎました。私たちはいつも洋服で泳ぐのに、県外の女の子はみんなビキニを着ていて、びっくりしました。文化の違いというか、日本人の体型を少し嫌だなど思いました。4日目は沖縄の移民の歴史を学びました。私はアルゼンチンのヒロとユカリの話を聞きました。私たちの中に外人がいたら、みんなが注目するように、ユカリとヒロも現地の子といると、やっぱり顔立ちが異なっていて、少し珍しがられるそうです。ヒロは3世で、ユカリは1世で、初めてユカリを見たとき、県内参加者かと思ったほど、3世より1世の方が見た目にも沖縄の地が濃いんだと分かりました。21日から27日までの1週間、本当に「あっ!!」という間に過ぎてしまい、途中体調を崩してツアーから離れてしまったチャンスとは、少ししかおしゃべりできなくて残念だったけど、今はメールも手紙もあるし、このツアーで出会った仲間達は運命で集められた仲間だと思うので、絶対一生の友達です。だから、これからも連絡を取り合っって、1週間では知ることの出来なかつた相手のことをもっと理解して交流を深めていきたいと思っいます。このツアーに参加して、私は「もっと英語を使いこなしてみたい。そして、早く外国に行ってみたい。」と思うようになりました。今までは、「英検に受かっっておけばいいかな。」ぐらいの考えだったけど、ツアーで体験した、乗り越えられそうで、乗り越えられなかつた言葉の壁を、これからは感じることをないように頑張ろう!と、視野が大きくひろがりました。文化や習慣、考え方も違っ仲間同士だったけど、たつた1週間であんなに仲良くなれるとは思っいませんでした。みんなが誰に対してもオープンに接していただからだと思っいます。このツアーのことは、私の一生の宝物です。

このツアーを企画、運営、そして私をメンバーに選んでくれた方々、本当にありがとうございました。



大城 李理子

OSHIRO RIRIKO

那覇高等学校1年



『世界中の大切な友達』

私は、このジュニアスタディーツアーに参加する事ができて、とても良かったです。

最初、県庁でみんなと会った時、誰も知りあいがいなくてとても不安でした。また、自分の語学力に自信がなく、一週間やっていけるかどうか心配でした。でも、初日からみんな積極的に話しかけてくれて、すぐに友達になりました。日本語のわからない海外参加者も私の片言の英語を一生懸命に理解しようとしてくれて、とても嬉しかったです。

私は、ウェルカムパーティーで前から習っている空手を披露しました。私の他にカナダから来たジョーダン君も空手をしていて、ウチナンチュの心は世界共通だと思いました。

ツアー中には沖縄の色々な所に行きました。どこも私が行った事のある所でしたが、みんなと行くひとと味違った感じがしました。比地大滝のトレッキングなど大変な事も色々な話をしながら楽しく過ごす事ができました。沖縄尚学高校の皆さんが企画してくれたキャンプファイヤーは、その中でも一番楽しくて、時間が過ぎるのも忘れてゲームをしたり、踊ったりして、とても嬉しかったです。

ツアーが進むに連れて、みんなととても仲良くなり、昔から友達だったと思えるくらいになりました。毎日夜遅くまでおしゃべりをしたり、お互いの国の事について教えあったりして、家族同然の存在になっていたのも、お別れが来る事を忘れてしまうくらいでした。

私は、ジュニアスタディーツアーでいろいろと学びました。一つは、言葉が違っても世界中の人々と友達になれるという事です。お互いに言葉が通じなくても伝えたいと思う熱意があれば、きっと理解し合えると思います。もう一つは、みんなで協力する事の大切さです。ツアー中には、私達ジュニアだけで運営をする事がたびたびありました。その時に私達はみんなで協力して楽しみながらも無事にスケジュールを進める事ができました。

海外参加者のみんなが、それぞれの国に帰る日はとても悲しかったです。空港ではTシャツにメッセージを書いてもらったり、一緒に写真を撮ったりして残り少ない一緒の時間を有意義に過ごす事ができました。私は、最後にみんなの国に行く事を約束して、たくさん泣いてちょっとだけのお別れをしました。

私は、ジュニアスタディーツアーに参加できて本当によかったです。世界中にかけがえのない友達を作る事ができました。また、普段は体験する事のできない事をいろいろ体験できてとてもよかったです。

最後に、このジュニアスタディーツアーに関わった全ての人に感謝します。みなさんのおかげで私達は無事に素晴らしい経験をする事ができました。本当にありがとうございました。



斉藤 愛里

SAITO AIRI

那覇国際高等学校 2年



『The best 7days』

まず、最初にこのような素晴らしい体験をさせてくれた県の方々、ツアーに関わった皆様にとっても感謝しています。この1週間、まるで夢のようでした。

私の今までの人生の中で、最高の1週間でした。

私はペルーから来た Emy と5日間ずっと同じ部屋割りでした。彼女はスペイン語だけでなく、英語もネイティブ並みにしゃべれました。学校で5年間習っているそうです。……って待って下さい！私も同じ5年間勉強しているけど、あんなペラペラしゃべれません!!

Emy によると、ペルーでは英語を習い始めたら、数学などの他の教科も英語で授業をするらしいです。日本の英語教育は「文法と読み書きが中心だから、中学・高校で合わせて6年間も勉強しても日本人はしゃべれない!」とよく批判されていますが、自分の英語力の無さを通して、まさにその通りだと感じました。英語はコミュニケーションを図るための道具です。もっと実際に使う(始めに話す、聞く、そして読む、書くこと)機会がないと、言語は上達しないでしょう。日本も、ペルーのようなシステムを取り入れるべきです。私は、相手の長所を真似をすることも「国際交流」の一部だと考えます。そして、相手にも私達の長所を真似してほしいです。そうすれば、お互いに互いを高められるのですごく素敵だと思います。同じモノを持つようになりそうですが、そこに、国民性やその国独特の歴史や気候で、違いがでてくるので、その違いを楽しむ。それが新たな「国際『交流』」となり得ます。

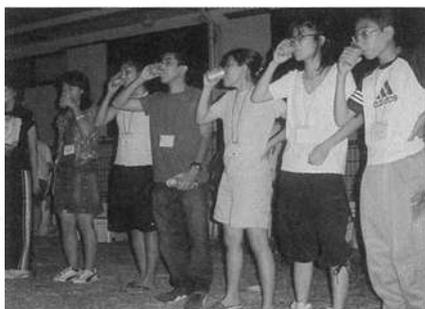
Emy との一番の思い出……。あれは3日目の夜のことでした。その日は、朝からちゅら海水族館へ行き、昼はサバニをして、帰りに海へよって遊び、とても疲れました。ペンションに帰ってきて、夕食まで1時間程度の休憩時間があり、私達はベッドに寝転んでおしゃべりをしていました。ところが、いつの間にか2人とも寝てしまいました! 琴乃が「もう夕食始まるよ!」と起こしに来るまで、ぐっすりでした。琴乃が来なかったら、私達2人は夕食を逃すところでした。感謝しています。いっぺーにふえーで一びる!!!

そして、なんと言っても一番忘れられないのが2日目の罰ゲームです。沖尚のみなさんが考えてくれたゲームをグループ対抗でやって、私達Dグループは無得点で最下位でした。そこで罰ゲームに、特製の生ウコン茶(?)を飲むはめになりました。あれは、今までの人生の中で一番まずかったです。

私は、このツアーに参加して、とても悔しいと思ったことがあります。それは、沖縄の方言をまったくと言っていいほど知らないことです。私はもずくを意味する、スヌイという言葉さえ知りませんでした。移動中のバスで、ブラジルからの引率者、松堂さんとアメリカからの引率者、エンジェルがウチナーグチについて話していました。松堂さんが「ウチナーグチは本当にキレイな言葉」と言っていたので、身につけたいと思いました。

ツアーでは、たくさんのお話を学びました。書きたいことがありすぎて、うまくまとまりません。言葉にならない想いもあります。しかし、まさか1週間でこんなにまでみんなと仲良くなれるなんて思ってもいませんでした。海外隊が帰って、沖縄のみんなともお別れして、次の日からは、朝起きると一人で、どうしてみんなと一緒に居ないのか不思議でした。それまでずっと、朝ご飯から、夜語り明かすまで一緒だったから、隣に誰かが居ないっていうのがおかしく感じました。

沖縄のことも学び、再発見することもあり、新しい友情も深く育めることができ、素晴らしい1週間でした。最後にもう一度、このツアーに関わった皆様、新しくできた友達にありがとうと言いたいです。“いちゃりばちよーでー”の気持ちでいっぱいです。



又吉 扶

MATAYOSHI TASUKU

那覇国際高等学校 3年



『いつかまたこの島で会おう!』

7月21日木曜日から始まったジュニアスタディツアー。初日に、県庁に集合するときには、期待で胸を膨らませていただけない、想像以上に緊張して

いました。「みんな日系の人達ばかりだから、日本語も少しは喋れるだろうし、外見も僕たちとあまり変わらないんじゃないかな。」と思っていたのですが、集合した部屋の中には、肌の色、目の色の違う参加者が集まっていて、驚いてしまいました。

正直、「大丈夫かな?……うまく喋れないかも。コミュニケーションとれるかな。」と不安になってしまいました。そんな風にとっても緊張していたけれど、まさかこんなに僕にとって素晴らしいツアーになるなんて思ってもいませんでした。

県内参加者も海外参加者もみんな一生懸命話そうとしてくれて、すぐに打ち解け合うことができました。そこで感動した事は、英語やスペイン語、日本語、ポルトガル語、四カ国語もの言語があつて、お互いうまく喋る事ができないのに身振り手振りでジェスチャーを使って、どうにか相手に分かってもらおうとする態度はみんな一緒だということでした。

そして、次の日から本格的にツアーが始まって、山原の森散策や、キャンプファイヤー、沖縄尚学の生徒のレクレーション、ちゅら海水族館、伝統芸能体験、サバニ体験、平和学習など、本当に充実した1週間でした。プログラムの一つ一つに意味があり、自然の素晴らしさや、文化の大切さ、戦争の悲惨さ、多くの事を体で感じて、頭では無く本当の意味で理解することができました。そしてなにより、友情というかけがえのないものを得た事が僕にとって一番素晴らしい事でした。消灯時間を過ぎてもみんな夜遅くまで語り合った事、バスの中での時間、みんなで食べる三度の食事、リーダー達と協力したレクレーション、国際通り散策、一秒一秒が楽しい出来事ばかりで今思い出そうとすると、次から次に頭の中に鮮明な記憶が浮かんで来て、熱いものがこみ上げて来てしまいます。

ツアーの初日から思っていた事ですが、もっと時間が欲しい、なんで一週間だけなんだろう。もっともっとみんなと一緒にいたい。同じ時間を過ごしたいと考えていました。

そしてとうとう最終日。さよならパーティーを迎えました。「みんなといられる最後の時間」僕達らしく最後まで楽しみながらのパーティーでした。パーティーが終わってから、みんな別れが辛くて、一人一人抱き合いながら涙を流していました。

このツアーに参加して、それまで僕の中にあつた考え方や、将来の夢などすべてが変わりました。ボランティアの広告を見ると、「僕に何かできる事は無いだろうか」と考える様になり、自分の周りの事だけでなく世界に目を向ける様になりました。プログラムでの貴重な体験やみんなの笑顔、そしてTシャツに書いてくれたメッセージ、全てが大切な宝物です。今までこんな体験はしたことなかった!今回参加して、みんなと逢えて良かった!僕達が一緒にいた時間はほんの一週間。だけどそれはかけがえのない、短くて長い夏だった。みんなありがとう!いつかまた沖縄で会おう!



上原 麻衣

UEHARA MAI

小祿高等学校 1年



『ジュニアスタディーツアーに参加して』

私はジュニアスタディーツアーに参加して、本当に素晴らしい経験ができたと思う。まず私の場合、

中学、高校と部活に入らずにいたので、目上の人、目下の人との接し方をこのツアーの参加者みんなから学べた。最初からなれなれしく名前を呼び捨てたりしないように気を付けて、話しかける時も相手と一通り話すまでは出来るだけ敬語を使った。その理由はどんな場においても多少の礼儀は必要で、敬語などは基本だと思ったからです。

海外参加者の17人と接する際には必要不可欠だった英語。私は今までストリートコンテストに学校代表で選ばれたりして、自分の英語の発音にとっても自信を持っていた。でもアメリカのクリスに話しかけた時に、それは単なる自惚れだったという事に気づいた。私は彼に「リアリィ？（本当に？）」と聞いたかったのに、彼には全く伝わらなかったのだ。とても落ち込んで、それと同時に「それならもっと沢山英語を話して発音を誰よりも上手く出来るようになってやる！」と思った。今となっては逆につたわらなかった事が私にとっては良い刺激になったのかもしれないと思う。

スタディーツアーに参加していた一週間で、沢山の体験学習を私達はこなした。そして、そのうち私の頭に強く残っているのはサバニ体験とワークショップだった。サバニ体験では珍しく班別行動だったので、みんなと1位になれたらいいねと話しながら一生懸命に漕いだ。私達グループはグループBとEのメンバーで構成された。疲れたり濡れたりもしたけど、レースの結果は堂々の一位だったので嬉しかった。そしてもう一つ、ワークショップの方は、もともと最初から沢山話していたアメリカのチャンス、マケーナ、ミッシェルが一緒だったのでシンキングタイムなどの討論がとても楽しかった。内容は「移民について知る」というものだったので、少し難しい部分もあったけど、最後にはグループ内の海外参加者の話も聞いて、本当に有意義な時間を過ごせたと思う。

今年の夏、私はこのツアーに参加する事が出来て、本当に幸せ者だと思った。今まで自分が当たり前だと思っていた事も、他国の方からすれば当たり前じゃない事だってある事を知る事が出来た。

最後にツアーに対する要望とありましたが、私は特にそういったものはありません。先ほども書いたように、今回のツアーで私はとても満足できる、内容の濃いものでした。だから私はこのままでも良いと思う。

今回、私をツアーに参加させて下さった家族、沖縄県の方々、そして案内などをして下さった沢山の方に感謝したい。そして私は友達などにこのツアーの話をして、少しでも国際交流や国際理解に貢献したいと思う。



小那覇 祥子

ONAHA SHOKO

豊見城高等学校1年



『ジュニアスタディーツアーに参加して』

私は、このジュニアスタディーツアーに参加して、色々な事を学びました。

一つ目は、昔沖縄から海外に移住していった人達の事です。昔、いろんな人達が沖縄からいろんな国に行っていたなんて、初めて知りました。私は最初、なぜ他の国に行かなくちゃならないんだろう、と思いました。でも移民の事を勉強していろんな事が分かりました。中でも一番印象的だったのが、外国の人からの差別でした。私の班は移民に関するワークショップのとき、カナダに行った人に関する資料を見てみんなで話し合いました。その人は、カナダで日本の本を読んでいただけでいじめにあたりたようでした。私は、その資料を読んで「あり得ない。」と思い、思わず涙が出てきました。私は、同じ人間なのにどうして差別をするのか分かりませんでした。今でもいろんな所で差別があるので無くして欲しいです。

二つ目は、この交流を通してたくさんの友達を作る事ができました。私は、小さい頃から友達がいっぱい欲しかったのでとても嬉しかったです。今までは県内・国内だけで友達百人が目標だったので、国外交流もすることができ、少し目標に近づく事ができたので嬉しかったです。これからもみんなと交流していきたいです。

私は、今回このジュニアスタディーツアーに参加して本当に良かったです。最初は英語をしゃべらないといけなくて少し不安だったし、もしかしたら沖縄の人と友達になれないかもしれないとか、不安ばかりでした。でもツアーに参加すると、意外とみんな面白いし、とても優しかったので安心しました。私がしゃべるカミカミの英語も一生懸命理解しようとしてくれていたので、嬉しかったです。

また、最後の日にはアメリカとイギリスの参加者達とみんなで国際通りを歩きながら遊びました。とても楽しい思い出になりました。

私は、このジュニアスタディーツアーにはたった一度しか参加できないという事を後から聞いたので、とてもショックでした。でも、今回のメンバーは私達であり、みんなと会えた事を思うととても幸せな気持ちになりました。

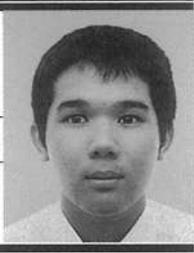
また、今度はウチナンチュ大会があるのでそれにも参加したいです。その時は誘って下さい。今回参加させてくれて本当にありがとうございました。



番園 亨

BANZONO TORU

糸満高等学校 2年



『ジュニアスタディツアーの感想』

私は、この一週間のジュニアスタディツアーに参加できて本当に良かったです。

スタディツアー初日、私は「言葉はちょっとだけ話せるが、どうすればいいの。」という、不安を抱いていました。ところが、その不安とは裏腹にすぐ友達が出来ました。それぞれの年齢は違っていても、先輩、後輩じゃなく、友達、という感じがしました。

また、外国から来た人と話をするときに、ジェスチャーなどを使って会話したり、英語やスペイン語の中でわからなかった部分は、教えてもらったりして交流を深めたりもしました。

ウェルカムパーティや交流プログラムは、沖縄尚学高校の人たちとゲームやダンスなどで、自分では見つからなかった「自分」がいるように思えました。

2日目と3日目は、北部で山原の自然巡りで、比地大滝や美ら海水族館、サバニ体験など、自分では知らなかった自然の世界を味わいました。特に、比地大滝のトレッキングは歩くのがとても辛かったけど、山原にしかない貴重な生き物、そして、比地大滝に着いたときは、とても感動しました。

夜は、友達の部屋で朝までサンバを踊ったりもしました。

4日目の伝統芸能体験で、三味線を体験したが、どっちがどっちなのか分からなくなったり、北谷町の沖縄海水淡水化センターでは、海水を真水にするなど、断水時の助け船みたいに思いました。ちなみに、海水でできあがった水は、普通の水と比べて、水の違和感がないような味が印象的でした。

5日目の首里城と玉陵の見学は、各国から取り寄せた技術を掛け合わせて造るという、沖縄らしい性格が出されているのがすごく新鮮に思いました。

伝統工芸の体験は、自分の性格を表現しているなと思いました。

最後の宿泊はみんな眠らず夜中まで起きて、思い出話をしたり、記念撮影などをしたりして、最後を楽しみました。

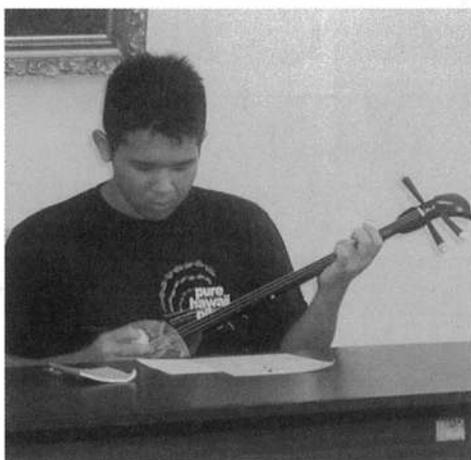
最後の学習は、平和についての学習と沖縄尚学高校の人たちと那覇の街を見学しました。

平和学習は、私の住んでいる糸満市が激戦区であったこと、私ぐらいの年頃で戦場へ送られたことを聞いたとき、今の私たちは幸せだが、戦時中の学生は青春など戦争で奪われてばかりの生活だなと感じました。

那覇の街の見学は、クイズもあって楽しく見学できました。みんなで食べたサーターアンダギーのおいしかった味が忘れられません。

そして、この一週間のジュニアスタディツアーの中で私は、あることを発見しました。それは、言葉が通じなくても心が通じていれば互いの交流が深まることです。もし、私がこのジュニアスタディツアーに参加していなかったら、本当の私には会えなかったでしょう。

ジュニアスタディツアーのスタッフと各国の引率者、そしてボランティアとして参加してくれた沖縄尚学高校の国際交流ボランティアクラブのみなさんに、ありがとうのあいさつを送ります。



翁長 琴乃

ONAGA KOTONO

久米島高等学校 3年



『ジュニアスタディーツアーに参加して』

スタディーツアーで、海外の人達と友達になることが出来て参加して良かったと思いました。最初の時は、参加しなければ良かったかな…と思ったりす

ることもあったけど、最後にはコミュニケーションもいっぱい取れるようになって、今は参加して良かったと思います。

ツアーの最初の時は、話す言葉が違うから上手くコミュニケーションを取ることが出来なかったのですが、県内から参加している人達としか話していませんでした。でも、日が経つにつれて、英語の簡単な単語とジェスチャーを使ってコミュニケーションを取ることが出来ました。このツアーが終わりに近づくにつれて、海外の友達が増えました。ツアーの期間が一週間と短かったのでちゃんと話をする事が出来なかった海外参加者の人もいたけど、一応は、海外・県内両方の参加者全員と言葉を交わすことができました。言葉が通じなければ友達になることは出来ないと思っていました。でも、ジェスチャーを使ったり、英語の簡単な単語を使って話したりと、思っていたよりも簡単に海外の参加者と仲良くなる事が出来ました。海外参加者の中には日本語が話せる人も何人が居たので、自分たちで企画したレクの時などで通訳を頼むことが何回かあったけど、そういうことを通して仲良くなることもできました。そんなことから、言葉が通じなくてもジェスチャーや自分の知っている簡単な英語の単語で会話ができ、友達が作れるということがわかりました。

このツアーを通して、私は私が知らなかった沖縄のことについても学びました。沖縄北部にまだ多くの自然が残っていること、約60年前に起きた沖縄戦のこと、沖縄から移住した人達の歴史などです。私は、沖縄に住んでいながら、自分の住んでいる地域の事を何も知らないんだと実感しました。これからは、自分の住んでいる島や、県についていろいろと学んでいかなければいけないと思いました。

今回、一緒にツアーに参加した人達の住んでいる場所に行って、こういったツアーなどもしてみたいと思いました。ツアーなどの参加だけではなく、自分の身近にいる海外の人達ともこれからは積極的に話しかけていきたいと思いました。今後、こういった国際交流の企画などに積極的に参加したいとおもいます。



伊良部 夏美

IRABU NATSUMI

宮古工業高等学校 3年



『ツアーに参加して』

初めて集合場所の県庁に行った時、正直あの静けさにびっくりして1週間嫌だな、と思いました。

ツアーの目的は、沖縄の歴史を学習する事でしたが、私はもちろん沖縄で生まれ育ち、沖縄のことは学校でよく勉強するので、どちらかといえば学習より交流の方が印象に残りました。県内の子とは昼食の時間に、海外の子とはウェルカムパーティーの時間に仲良くなることができました。この時、ボランティアをしてくれた沖尚生のみなさんがいなければあんなに早く仲良くなることはできなかったと思います。

いよいよホテルの部屋へ……。海外の子には日本語が上手な子が沢山いてほっとしましたが、全く分からない子もいて、部屋ではどうなんだろう……。仲良く出来るかな、と心配しましたが、全く問題はなくてみんなでわいわいおしゃべりを楽しみました。

2日目から本格的なツアーが始まり、トレッキングはきつかったけれど、楽しく仲良くできたし、なんとと言ってもキャンプファイヤーはすごく楽しくてまたまた沖尚生のみなのおかげで、グループの子と仲良くなれて良かったです。

日を重ねるたびに、本当に毎日が楽しくなっていき、時間が過ぎるのがとても早く感じて初日の不安はどこにもありませんでした。いつ仲良くなったのかはわからないけれど、最初は照れてあまり話さなかった子もだんだんうちとけて、楽しかったとしか言えません。

中学、高校と英語を勉強するので、英語なら少しは通じるかな、と思っていたけれど初日は本場の英語に手も足も出ないし、私も何と言ったらいいのかわからなくてお互い何を言っているのか理解するのにだいぶ時間がかかっていたけれど、日を重ねるに連れ、英語は段々と聞き取れるようになり、自分自身もどういえば通じるのか分かってきて話を理解し合うのに時間がかからなくなってきて楽しくおしゃべり出来て嬉しかったです。

1週間、私はFグループのリーダーをさせてもらったけれど、結構たいへんでもう嫌だと思ったけれど、グループのみなが後半は慕ってきてくれたのでちょっと感動しました。このツアーでは、年齢も性別も関係なくみんなと仲良くできて嬉しかったです。時には、年下の子に慰められることもあったし、海外の子はとても親切で男の子などは、常に女の子優先のレディーファーストをしていて、映画みたいでかっこよかったです。それに、へたくそな英語やジェスチャーばかりの言葉もいやがらずに分かるまで付き合ってくれてとても嬉しかったです。こんな時、言葉が分からなくても伝えたいという気持ちと理解したいという気持ちがあれば心が通じると言うことを知り、感動しました。

本当にあの1週間、夢のような最高で素晴らしい1週間としか言いようがありません。国も言葉も育った環境もちがう36人が、「沖縄」というつながりだけをもとに集まり、そして心を通わすということはとても素晴らしい事だと思います。最後の別れのパーティーで「島唄」を歌ったあと、誰からとなくひとつの輪になった時、とても感動しました。まるで心が一つになったことを表しているようで。そして空港へ見送りへ行ったとき、せっかく友達になれたのにもう別れてしまうという事が悲しかったけれど、何となく今まで通りまた明日も会えるような気がして割と平気だったけど、家へ帰ると急に寂しくなって「本当に行っちゃったんだ」と思い、落ち込みました。でも今私は、世界に友達がいるのでいつかその国へ会いに行きたいと計画を立てています。また、その友達のために外国語の勉強にも今まで以上の強い興味を持ち、意欲も持ちました。

ツアーは、本当に素晴らしい1週間になりました。それ以外に表せる言葉はありません。きっと、子ども同士だからこそ感動できることが沢山あったと思います。

あの1週間は本当に素晴らしくて、私の一生の宝物で、これからの私に大きな影響を与えるものだと思います。一週間という短い期間で、周りの友達に比べれば本当に短いけれど、私たちの中には確実に友情が芽生えていて、それはずっとつながっていくとおもいます。私はこのツアーに参加して色々な経験ができてよかったです。

このツアーを企画、運営、ボランティアをして私たちのために力を尽くしてくれた方々に心から感謝しています。ありがとうございました。Thank you! Gracias! Obrigado! たんでいがたんでい。





松堂 忠顕

MATSUDO CHUKEN

69歳 1世

ブラジル Brazil

ブラジル沖縄県人会



「ジュニアスタディーツアー2005」

この度、2005年度の沖縄県知事稲嶺恵一氏による海外に住む沖縄県系子弟と沖縄県内の中高校生との交流ジュニアスタディーツアーのブラジル国代表3人の引率者として沖縄県に行きました。

引率者の資格としては、日本語、ポルトガル語の即時通訳が出来る事と健康なる人体の持ち主が第一条件でしたが、健康には大なる自信が有るが即時通訳となるとブラジル国に移住して今日まで48年間ポルトガル語系の学校に一分たりとも通学した事が無く、ただ生活で覚えたブラジル語（ポルトガル語）で通用するかどうか自信の程は30%そこそこでした。しかし、ここ数年ブラジル沖縄県人会で毎年の県費留学生と研修生並びにジュニアスタディーツアーの選考委員の一人として務めて居る関係上、今後如何なる人物を母県沖縄県に派遣すべきかと言う自分なりの考えと、沖縄県柔道連盟会長比嘉吉憲氏外柔道連盟理事の方々にはブラジル沖縄県系柔道愛好会と今後の交流についての交渉、又私の出身地嘉手納町長宮城篤実氏外関係者諸氏に対し2005年度から町費研修生としてブラジル国を含め南米各国より嘉手納町出身者子弟の受け入れに関する答札をなす為にブラジル沖縄県人会会長与儀昭雄氏と理事会の承認を得て引率者として就任した次第です。

渡航前に私は3代表に父兄を交えて3回の会合を持ち、昨年の引率者と儀昭雄氏の経験談を聞き参考にして、沖縄県国際交流課上間勝盛氏のご要望による各国の文化と観光の紹介に関し(1)ブラジル国の歴史を宮城明子さん、(2)サンバとカプエラを大城直美さん、

(3)パンタナール(大湿原地帯)を川波健次君に各々希望により分担し、ご紹介をする時は出来るだけ日本語でと言う私の希望でその道に詳しい赤嶺園子先生のご指導を仰ぎ、新調したユニホームを着て渡航しました。

7月13日午後10時那覇空港に着き、3人のホームステイを引き受けて下さいました初めて会う各々のご親戚の方々に、もし言葉が通じない時は世界共通語である微笑で応対して下さいと7日間のご面倒をお願いしました。

7月21日、全参加者沖縄県県庁集合。沖縄県知事稲嶺

恵一氏の歓迎の挨拶に始まり、沖縄県側代表の挨拶、海外参加者を代表してペルー国代表の挨拶で一週間の楽しい参加者交流とブラジル国代表3人には言語学習が始まりました。3人に対して私は日本語は聞いて覚えるものだと渡航前と渡航中話していましたので、レシーバーは片方の耳に掛け、もう片方の耳は話す人の声を直接聞き、もし難しい言葉が出た時はその時点でポルトガル語で説明すると言う事で相談していました。それで、他国の参加者の様にはレシーバーに頼っていませんでした。

2日目の自然学習国頭村比地の大滝ハイキングでは、沖縄県内の自然の山、小川があり、人工された登り下りの段々を往復約3時間の徒歩、途中で他の団体とも会い、道を譲りあつての自然学習を体験しました。山中には自然林は数々生えて居るが、水中と木岐の枝に、小魚一匹、小鳥一羽も鑑賞する事が出来なかったのは残念に思った。以前私が南米に移住前(約50年)頃は雲雀、めじろ、スウサー(沖縄語)が沢山木岐の枝でさえずっていた記憶が有るが、全部何処かの国に移住したのか、又は暑さで昼寝でもして居たのか…。沖縄県内の保護鳥ヤンバルクイナの实物を一羽でも鑑賞したかったのですが、姿、鳴き声又古巣さえ見聞出来ませんでした。

下山後、案内人(お名前を忘れた。ごめんなさい)の方から戴いた小鳥を呼ぶ手作りの玩具をブラジルに持ち帰り、私くしの庭の沖縄桜、松、イツペー、蜜柑樹の下で孫達と共に試したら日本語が聞こえるかと思っているのか、インコ其他の小鳥達が小首を傾げて居ます。

3日目、沖縄県が世界に誇る、海洋博(美ら海水族館)見学学習。3階建てという水槽内には幾種類の魚類が悠々と泳いでいる光景は見事なもので、私も中に入って一諸に泳ぎたい気分になりました。私は幾個所かの日本国内、ブラジル国内に有る水族館は見学しましたが、斯様な広々とした処の設備は初めて見ました。つつい見とれて予定外の処に私一人行って道に迷い、団体の皆様に迷惑をお掛けして仕舞いましたが、欲を言えばもう少し時間を掛けて見て廻りたかったです。ホテルに帰る途中、恩納村の浜辺で澄みきって青々とした海水に何十年振りか身に浸し、身も心も軽く

なった様な気分になりました。

4日目、恩納村の祭り会場にて、生徒達は沖縄県の伝統芸能、琉球舞踊、三味線にエイサー、太鼓の体験学習をしました。昼食時に私は恩納村長志喜屋文康氏と、以前2001年沖縄県にて又2003年ブラジル国サンパウロ市にてお会いした、恩納村助役當山稔氏外村役場関係者の皆様に、ブラジル国代表として来た、恩納村出身子弟の宮城明子さんを紹介する為に、恩納村村民が世に誇る、一千名位に支給出来る大鍋に炊いた、大きなお椀一杯の熱い牛汁を僅か5分で食した後、冷えた水を多量に飲んだ為に腹具合が悪くなりました。投薬はしたものの以後気分が優れず、午後の北谷町海岸縁に建設された海水淡水化施設見学とJICA沖縄での移民歴史学習は、うわのそらで過ごしました。冷え水の暴飲失敗です。

5日目、首里城並びに園比屋武御嶽石門又王陵の見学歴史学習。昨日からの腹ぐあい未だ優れず石畳の登り下りをする度に、暑さにより針で頭の芯を刺す様で日陰を求めて歩く。昼食をなした首里金城町の民俗資料館、石畳瑞盛館取締役山城瑞成氏による、趣味と長年の経験による民俗資料の凝集と完全なる保管に対して私は尊敬の意を表って見学しました。有難うございました又いつの日か訪ねてみたいと思います。

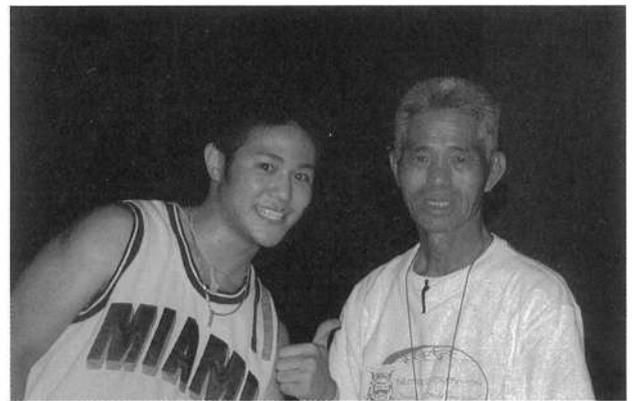
6日目、沖縄県南端の平和祈念資料館で平和学習。講堂にてレクチャー（講話？）沖縄戦を語る元健児隊長田勝男氏による第2二次世界大戦の沖縄戦体験談を拝聴し、身の毛が逆立つ思いでした。あるブラジル国から参加しました生徒（名は伏す）が、何故沖縄県は物の豊かなアメリカ国と戦争したのか？との問いに、私は「沖縄県が戦争したのではなく日本国が大陸と戦争したのだ。沖縄県は犠牲県となった。第2次世界大戦の時はブラジル国も日本国の敵国で、終戦後ブラジル国の日系間では、日本国が勝った負けたの2派に別れて、血なまぐさい闘争が生じたそうだ。今は昔、日本国はチイナー、コレイアー（中国、韓国）とも戦い、そして支配地としたので、現在日本国が歴史の本を制作する度ごとに中国、韓国からの異議が出ている。今後は戦争がどうだったと講話するよりは、黙して資料を示し、如何にして世界平和を築き達成するかを講話する事に意義が有ると思う。」と答えました。

7日目、いよいよ今日が交流最後の日。集合場所は那覇市内国際通りの那覇ぶんかテンプスホールにて学習体験成果発表会、修了式、さようならパーティー。体験発表会では日本語でやってくれとの係りの指示により、私は昨日、県庁での別れ際に3人のブラジル国代表にたいし、「初めはポルトガル語で文章を作成して、知らない単語が有れば明日の午前中電話で私に聞い下さい。」と指示して別れましたが、当日誰からも電話がなく心配して、簡単に各自に合う文書を漢字抜きで作成して会場に行き、3人のめいめいで書いた文書を読

みました所、上手に出来ていると思いましたが、「良く出来ました落ち着いて読み下さい。」と励まし、私が書いた文書はポケットに収めました。いざ本番、ブラジル国代表の大城直美さんが全参加者の一番バッター、幾分上り気味でしたが、2番宮城明子さん、3番川波健次君は落ち着いて読み終わりました。私が思うに最良では無いですが、3人共良く読み終えたと誉めたい気持ちでした。最後のお別れパーティーでは、各国の芸能を披露し、見て楽しみ、ブラジル国の代表が舞台上にてサンバ踊りを披露した時は全参加者舞台上に上り乱舞が始まりました。

最後は沖縄尚学高校教諭与座広章氏の音頭により、全交流団、沖縄尚学高校のボランティア部の生徒並びに関係者全員で会場一杯に輪を作り、楽しい輪踊りをしつつ、何時か又再会が叶う夢と希望を抱いて閉会しました。

交流期間中多数の方々とお会いし、歓迎会からお見送りまでお世話戴きまして有難うございました。





新里 ファビアナ カルメン

FABIANA CARMEN SHINZATO

34歳 2世

アルゼンチン Argentina

在亜沖縄県人連合会



「ジュニアスタディーツアー2005」

アルゼンチンとボリビアのジュニアの引率者として、両親の故郷、沖縄を訪問する機会を与えてくださいました沖縄県及び、在亜沖縄県人連合会に感謝申し上げます。

6才のとき母と一緒に、9年前には一人で沖縄を訪れ、この3度目の機会は今までと全く異なった沖縄訪問となりました。

7月11日2人のジュニアを連れて、アルゼンチンの国際空港を出発し、ブラジルのサンパウロで2人のボリビアのジュニアと合流して、ニューヨーク経由日本沖縄へと飛び立ち私の仕事が始まりました。7月13日那覇空港に無事到着、そこには県庁の担当スタッフを始め、親戚の方々の出迎えを受け、ホームステイ先へと散って行きました。

7月21日、2005年度のジュニアスタディーツアーがスタートしました。引率者としての役割は出発前からいろいろの打ち合わせや30時間の飛行機での長旅が始まっていましたが、この日からジュニアたちとの顔あわせで確実に始まりました。意外なもので何も起こらなければ引率者は必要のない者であり、又逆に何か起きたら責任を担う立場なので、正直言って大変不安がありました。県庁での記念写真、初めて会う見知らぬ人36名、終了後の別れを惜しんでのあの涙の事を思うと、自然と微笑みが浮かび、このツアーは永遠の思い出としてアルバムに刻まれることだろうと思うようになりました。

自国紹介は初めての試みとしてとてもいいアイデアだったと思います。グループ別にリーダーを選ぶことにより、自分たちで自分の回りの人を守るという責任感を持たせることもジュニアたちにとって、とてもいい勉強になったのではないかと思います。通信機・パナガイドシステムで同時通訳を行ったことが進歩的だったと思います。

沖縄の山や緑に囲まれ、裸足でイタイ思いをしながらか歩いた川、やっとたどり着いた比地の大滝は印象的でした。沖縄の青い海、上から見るとサバニ競争、中から見ると、美ら海水族館の生き物たち。自然の美しさに目を見張るばかりでした。

琉球王国の首里城の彩り、歴史をめくり、JICA 沖縄国際センターでの移民についてのワークショップもとてもいい勉強になりました。

実際に体験できたエイサー、琉球舞踊、三線は身体の動作といっしょにワクワクする気持ちもずっと残していくのでしょうか。ウチナンチュの子弟である私たちの家に飾られている、紅型、漆器、首里織り、全部沖縄の工芸品であることに気づかされ、不思議に思ったジュニアは少なくないと思います。

戦争の悪夢を背負って生きてきた15歳の青少年があるころを思い出しながら涙声で話がつまり、胸が打たれました。父も14歳の幼いころ、自分の父を沖縄戦で失ったことを考えると胸が痛みます。二度と戦争をするのではない。ジュニアたちにとっても平和公園は刺激の強いシーンでした。

交流プログラム、バーベキュー、キャンプファイヤー、リーダーたちが企画したクイズ、夜中までのおしゃべりなど、「明日がない」気持ちでジュニアたちが一つ一つ、心に刻み、一生忘れられないツアー。

旅をするとき、その場所がただ美しいだけで好きにはなれないと思います。土地の人たちとの出会いによって培われた絆はまた戻りたいという気持ちになります。自分たちもウチナンチュの気持ちで国際通りを歩き、ウチナンチュの優しさや心温かい親切心、イチヤリバチョーデーのウチナンチュのチムグクルに触れる機会が数多くありました。

海外県系人子弟が県内の青少年と共に体験学習を通して、母県・沖縄との絆を深める事により、ウチナーネットワークを担う次世代の人材育成に貢献する大きな目的が幾分なりとも達せられたと思います。空港でお別れのシーンがそれを物語っていると思います。これからもこのツアーをずっと続けて欲しいと願っています。

フルコースで、沖縄の自然、歴史、伝統工芸、芸能体験、社会や平和について勉強することができ、ツアーが無事に終了できたことを稲嶺恵一県知事お始め、観光商工部交流推進課やスタッフの方々、沖縄尚学高等学校の「与座部」の皆様にお礼申し上げます。皆様のおかげで、引率者として、必要でない人であったことを嬉しく思います。

ウチナンチュの子弟であることを誇りに思い、平和の心を世界へと広げると共に、沖縄の豊かな文化が世界の裏側でも永遠に続くように願いつつ、頑張っていきたいと思います。

沖縄県の皆様、「Muchas Gracias」「Muito obrigada」「Thank you very much」「イッペーニヘーデービル」。本当にどうもありがとうございました。





安座間 喜屋武 シェイラー パトリシア

SHEILLAH PATRICIA

AZAMA KIYAN

28歳 3世

ペルー Peru

ペルー沖縄県人会



「ウチナンチュで良かった」

私にとっては、仲里エミさんと亀甲タカシ君の引率者としての沖縄への旅が充実した経験になりました。2003年には、北中城村海外子弟研修生として来沖する機会があって、沖縄の美しさを楽しみました。この度、引率者としては初めてで、興味深い挑戦になりました。いろいろな国からのジュニアが、沖縄県系という共通点で先祖の故郷を見て、感じて、そしてお互いに話し合っている事を見て、とても良い経験になりました。

7月14日(木)

那覇空港で温かい歓迎を受けました。そこで親戚や県庁からの歓迎団が大きいペルー国旗を持って、待っていました。上間さん、上原さん、内田グロリアさん、玉城米子さんそして他の県庁のみなさんと顔合わせしました。沖縄の夏の暑さを肌で感じ、ウチナンチュのホスピタリティーも感じました。

7月15日(金)

金秀本社ビルにて在那覇ペルー領事館の皆さんと集まって、ペルー沖縄県人100周年移住祝典式への招待状(200枚)とPRポスターを渡しました。

7月16日(土)、17日(日)、18日(月)

親戚周りや日系人が良く行かれるお店(パライソ[那覇市]、ポヨ・リコ[西原町]、ディノス[沖縄市]、トゥス・アミーゴス[沖縄市]、トロピカリシモ、サルサティナ、沖縄ペルー協会[那覇市])に行き、100周年移住PRポスターを貼ってもらいました。

7月19日(火)

沖縄ペルー協会主催歓迎昼食。

7月20日(水)

北中城村役場に行き、村長へ100周年祝典式や在ペルー北中城村人会設立25周年祝典式(2006年8月開催)への招待状を渡しました。

7月21日(木)

参加者の皆さんと初めての顔合わせをしました。県庁の4階で集合して、オリエンテーションを聞き、名札や資料やTシャツをもらいました。そして、県庁の方の紹介もあって、稲嶺県知事や他職員の歓迎の言葉を頂きました。海外参加者の代表挨拶は、ペルー代表の亀甲タカシ君が担当しました。この名誉を頂いた理

由は、来年に沖縄県人ペルー移住100周年祝典式が開催されるからです。亀甲君が、海外参加者の代表挨拶として、祖先の故郷に来る機会を与えて頂いた沖縄県に感謝を述べ、このJSTで世界のウチナンチュネットワークの構築に貢献していき、沖縄の文化を勉強していきたいと話しました。また、他の海外に移住している沖縄県系ジュニアと友だちになりたいと興味を示しました。そして、ペルーに招き、移住100周年と皆さんと盛大に祝いたいと挨拶しました。歓迎式の後に県庁の外に出て、沖縄の太陽の下で集合記念写真を撮りました。

それから、歓迎昼食会に行き、参加者がお互いに話せるようにしていました。その後に県庁の近くにあるレインボーホテルに行き、プログラムの細かい説明を受けました。グループに分け、グループのリーダーを決めました。それから、各参加者はビデオ、写真などにより自国の紹介をし、各国の挨拶の仕方も習いました。夜に予定していた歓迎会に行く前に、沖縄尚学高等学校の皆さんが用意した遊びや歌などで参加者の内気を吹き飛ばしました。歓迎会では、短い挨拶の部の後に海外の各参加者による伝統踊りで楽しみました。歓迎会終了後には、JSTのリーダーたちが県庁の皆さんと会議を行いました。この夜にレインボーホテルで泊まりました。

7月22日(金)

朝早く、国頭村へ出発し、自然について最初の学習をしました。数時間歩きながら、ヤンバルの風景や植物や動物を楽しんで、小川を渡って、比地の大滝に着きました。鳥のヒューヒューという音を聴きながら、自然の中で昼食して、とても感動しました。滝では、写真を撮って、リラックスして、帰りました。それから、恩納村にある“キャロライナ”ペンションに着き、バーベキューをしました。その後にはたき火をして、楽しい踊りや歌で火の回りで遊びました。

7月23日(土)

自然学習で美ら海水族館に行きました。そこでは、沖縄の近海にたくさん生息している魚の種類を見て、強い印象を受けました。最後の自然学習でサバニの練習をしました。漕ぎ方を習って競争もしました。恩納村のペンションに戻った後で沖縄の参加者が用意した

遊び、“ウチナーロクイズ”や“伝言ゲーム”でもっと交流を深め、楽しい時間を過ごしました。

7月24日（日）

恩納村で伝統芸能について学習をしました。三線、舞踊とエイサーの部に分けて、約1時間で選択した伝統芸能の学習をしました。恩納村の祭り会場で昼食をした後に、社会学習の為、北谷町にある海水淡水プラントを見学しました。そこでは、海水から飲料水になるまでのプロセスの説明を受け、水の制限使用の大切な事を学びました。それから、沖縄の国際センター（JICA）に行って、“沖縄移民の歴史について”の話し合いに参加しました。グループに分け、移住者の実際のケースを分析して議論しました。この話し合いでは、様々な国から来ていた参加者でしたが、祖先が移住したという共通点があると気づきました。その後、那覇のレインボーホテルに行きました。

7月25日（月）

歴史学習のため、首里城を見学しました。説明を受け、世界遺産の「玉陵」と「園比屋武御嶽石門」も見学しました。その後、伝統工芸の学習がありました。参加者がビデオで説明を受けて、紅型や漆器や織物から選んで作品を制作しました。

7月26日（火）

平和学習のため、平和祈念資料館を見学しに行きました。そこでは、実際に戦争を体験した方から話を聞いて、戦争の恐ろしさを実感しました。資料館や「平和の礎」そして公園を見学しました。その後、沖縄の暮らしを知る為に、那覇市内の道で散歩して、国際通りまで歩きました。それから県庁に戻って、親戚の所で泊まりました。

7月27日（水）

修了式では、参加者たちがこの一週間で習った事や感じた事を披露しました。エイサー、舞踊、三線そして海外からの伝統踊りの余興もありました。ペルーの参加者、亀甲タカシ君と仲里エミさんが、伝統踊り「ウアイラス」を披露して、会場を楽しませました。

7月28日（木）

ペルーへの帰国。

最後になりますが、ホームステイ先の親戚に感謝したいと思います。並びにこのJSTプログラムで自分の文化を守っている沖縄県、県庁、スタッフ、沖縄や海外からの参加者、引率者の皆さんに心から御礼を申し上げます。私、そして参加者の2人にとっては、一生忘れられない体験になり、とても勉強になりました。

ありがとうございました。

ORGULLO DE SER UCHINANCHU

La oportunidad de viajar a Okinawa como tutora de los becarios Emy Nakasato y Takashi Kamego ha sido una experiencia muy enriquecedora. Anteriormente había podido disfrutar de la linda isla también como becaria, por la Municipalidad de Kitanakagusuku Son, en el año 2003. En esta ocasión, participar como tutora representó un reto interesante para mí ya que pude ser responsable de que adolescentes de diferentes países compenetraran con la cultura de sus ancestros y entre ellos mismos, sobre una base común que son nuestras raíces uchinanchus.

Jueves 14 Julio

Tuvimos un cálido recibimiento desde que llegamos al aeropuerto de Naha. Allí nos esperaban los familiares y toda una Comisión de Recepción, con una gran bandera del Peru. Tuvimos el primer encuentro con el Sr. Uema Katsumori, Sr. Uehara, Srta. Gloria Uchida, Sra. Yoneko Tamaki y demás funcionarios del Kencho. En ese momento, confirmamos lo que nos habían comentado sobre el intenso calor que hace en Okinawa en los meses de verano y pudimos saborear un poco de la hospitalidad de los uchinanchus que tanto habíamos escuchado.

Viernes 15 Julio

Reunión en Consulado de Perú en Okinawa (Kanehide Building – Naha) donde se entregaron 200 invitaciones y póster promocionales del Centenario de la Inmigración Okinawense al Peru para ser repartidas a las principales instituciones publicas y privadas.

Sábado 16, Domingo 17 y Lunes 18 Julio

Visita a los familiares y colocación de póster sobre el Centenario de la Inmigración Okinawense al Perú de los sitios mas concurridos por nikkei peruanos: Pub “Paraíso” donde toca “Diamantes” (Naha), Restaurant comida peruana “Pollo Rico” (Nishihara), Restaurant comida peruana “Dino’s” (Okinawa shi), Panadería “Tus Amigos” (Okinawa shi), Discotecas “Tropicalísimo” “Salsatina”, Naha Peru Kyokai.

Martes 19 Julio

Almuerzo de Bienvenida organizado por Naha Peru Kyokai.

Miércoles 20 Julio

Visita a la Municipalidad de Kitanakagusuku. Invitación al Alcalde al Centenario y a las Bodas de

Plata de Peru Kitanakagusuku Sonjinkai (Agosto 2006).

Jueves 21 Julio

Fue el primer encuentro con todos los participantes del Programa Junior Study Tour. Nos reunimos en el cuarto piso del Kencho, donde nos presentamos y recibimos las primeras charlas de Orientación, así como los membrete, material y polo. También se llevo a cabo la Presentación a las Autoridades del Kencho, teniendo el honor de recibir las palabras Bienvenida del Prefecto Inamine también y demás autoridades del Kencho. Luego, nuestro becario peruano Takashi Kamego tuvo el privilegio de representar a los becarios extranjeros dando el discurso de Bienvenida. Este honor, debido a que en el próximo año 2006 se celebrará en Perú el Centenario de la Inmigración Okinawense al Perú. Kamego Takashi kun, en su discurso en representación de los becarios extranjeros, agradeció a la Prefectura de Okinawa por la oportunidad que otorgan de conocer la tierra de sus ancestros, de poder profundizar en la rica cultura okinawense y por permitir que se forme y mantenga una red de uchinanchus en todo el mundo a través del Programa Junior Study Tour. Además, expreso su alegría de poder compartir con descendientes uchinanchus de la cultura de cada país en particular y el de poder hacer nuevos amigos. También hizo la invitación para que vengan a conocer el Perú y para participar y celebrar juntos el Centenario de la Inmigración Okinawense al Perú. Luego de los discursos protocolares, pasamos a tomar la foto Conmemorativa con todos los participantes, los organizadores y staff; y las autoridades del Kencho, bajo el luminoso sol de verano de Okinawa.

Posteriormente, fuimos deleitados con un rico Almuerzo de Bienvenida, donde se empezaron a dar las primeras comunicaciones entre los becarios okinawenses y los de los diferentes países. Luego, nos dirigimos al Hotel "Rainbow", a pocas cuadras del Kencho, donde recibimos una orientación más profunda del Programa. Fue una interesante tarde, donde cada becario hizo una presentación amplia de su país a través de videos, diapositivas, fotos, etc. Se hicieron las divisiones por grupos y se designaron los líderes de cada grupo. En esta tarde se hizo también el estudio de saludos en los otros idiomas y recibimos la visita y apoyo de un grupo de colaboradores de un colegio Secundario. Esta noche

se tenia organizado la Fiesta de Bienvenida , pero antes de eso, los participantes del Colegio Secundario tenían preparados juegos, cantos y un show cuyo objetivo era de "romper el hielo", que existe siempre cuando se conoce a personas por primera vez. Pero la hospitalidad y cariño con que nos recibieron y trataron hizo que esta labor no fuera muy difícil. En la Fiesta de Bienvenida, hubo una gran concurrencia, se llevo a cabo una corta Ceremonia Protocolar; luego los participantes de varios países nos deleitaron con bailes típicos de su país. Acabada la Fiesta hubo una reunión de lideres y organizadores. Esta noche pernoctamos en el Hotel "Rainbow", Naha.

Viernes 22 Julio

Muy temprano partimos hacia Kunigami Son; donde hicimos los primeros estudios sobre Naturaleza. Hicimos una ardua caminata en la montañas "Hijootaki", donde caminamos por varias horas disfrutando del paisaje, flora y fauna representativo de la zona de Yanbaru. Cruzamos un riachuelo descalzos, remangándonos los pantalones, disfrutamos de un natural almuerzo en medio de las montañas y escuchando el silbido de los pájaros de la zona. Llegamos a una linda cascada, donde nos refrescamos un poco, tomamos varias fotos, descansamos y nos enrumbamos de regreso. Llegamos a la Pensión "Caroline" ubicado en Onna Son, donde se llevo a cabo una parrillada en las instalaciones de la Pensión y posteriormente, se hizo una fogata, en la que se hicieron divertidos juegos, bailes y canciones alrededor de la fogata.

Sabado 23 Julio

Continuando con los Estudios sobre Naturaleza, fuimos al Ocean Expo Park "Acuario Churaumi". Pudimos ver y conocer la diversidad de peces y especies marinas que abundan en el mar de Okinawa, fue muy impresionante. Luego de ello, los becarios disfrutaron del ultimo Estudio sobre Naturaleza a través de la Practica de remo en bote (sabani) donde aprendieron la mayoría a remar, y compitieron amicamente. De retorno a la Pensión, los becarios huéspedes , prepararon juegos de integración, como "Uchinaguchi Quiz" , "Teléfono Malogrado" ; donde además de lograr el intercambio cultural se divirtieron mucho.

Domingo 24 Julio

Empezaron las Practicas de Artes Tradicionales en Onna Son. Se dividieron los Talleres de Sanshin, Buyo y Eisa y en una hora aproximadamente,

los becarios pudieron aprender cada practica escogida. Almorzamos en el Matsuri de Onna Son y nos trasladamos a Chatan Cho, donde iniciamos el Estudio Social, con la visita de las instalaciones de Agua Dulce, donde se dio la explicación del tratamiento que se le da al agua en Okinawa y la importancia de su uso racional. Luego, se llevo a cabo el Estudio de Historia, con la visita al Centro Internacional JICA en Okinawa. Empezamos el Taller “reflexión sobre la Historia de la Emigración Okinawense” donde divididos en grupos se analizó y discutió casos reales de emigrantes, quienes pasaron muchas peripecias; de esta forma, los jóvenes fueron entendiendo muchas cosas de sus familias y a pesar de haber chicos de diferentes países descubrieron que dado las raíces comunes su antecesores tuvieron un paso común. Regreso a la ciudad de Naha, Hotel “Rainbow”.

Lunes 25 Julio

Visita al Castillo de Shuri, Naha; dentro del Estudio de Historia. Previa explicación, se visitó también el Patrimonio de Tamaudoun y Sonohianutakiishimon. Luego, se llevo a cabo el Taller de Artesanía Tradicional, luego de ver un video explicativo, los becarios hicieron Bingata, Laqueado o Textileria, según lo que habían escogido.

Martes 26 Julio

Dentro del Estudio sobre la Paz, fuimos a visitar el Museo Conmemorativo de la Paz, donde un profesor que fue participante y testigo vivencial de la guerra dio una didáctica charla sobre sus vivencias en la guerra, de cómo se llevo a cabo, y lo crudo que se vivió en la guerra. Se visito el museo, la lapidas y el parque. Luego, dentro del estudio de contacto directo con Okinawa, guiados por los voluntarios del Colegio Secundario y divididos por grupos hicimos un recorrido a pie por las principales calles de la ciudad de Naha, terminando en Kokusai douri. Retornamos a la Prefectura y a las casas de los familiares del Homestay.

Miércoles 27 Julio

Se llevo a cabo la Ceremonia de Clausura, donde los becarios recibieron el Certificado de haber culminado exitosamente el Programa, expusieron lo aprendido y vivido en el Programa. Mostraron lo aprendido en Eisa, Buyo y Sanshin y algunos becarios bailaron danzas típicas de su país. Takashi Kamego y Emy Nakasato, bailaron un sabroso huaylas, representando al Perú. Fue una ceremonia muy emotiva porque además fue la Despedida de

los Participantes.

Jueves 28 Julio

Retorno a Perú.

Agradezco a mi familia que me acogió en la semana de Homestay, a la Prefectura de Okinawa por el esfuerzo que hacen por preservar la cultura okinawense a través de Programas como este , y a todos los organizadores del Kencho, staff que nos acompañó, a los becarios okinawense y extranjeros y tutores participantes por el esfuerzo impartido, por la linda experiencia compartida en esta semana muy productiva que no olvidaré y que creo que los becarios tampoco lo harán.

Muchas Gracias!!





牧志 啓和

MAKISHI HIROKAZU

44歳 1世

アメリカ USA

ユタ州沖縄県人会



「ジュニアスタディーツアー2005」

2005年度ジュニアスタディーツアーに7月21日から27日までアメリカ組の引率として参加させて頂きました。とても素晴らしい企画で素敵な子供達とこの上ない一週間を過ごさせて頂いた事に対し、沖縄県、沖縄県観光商工部交流推進課の皆さん、沖縄尚学高等学校の皆さん、その他関係者の皆さんには感謝の気持ちで一杯です。たった一週間と言う短い期間ではありましたが、修了式の日には子供達の涙のスピーチで翌日の空港には沖縄の子供達が見送りまでしてくれて私の感覚としては企画は大成功に終えたと感じております。

沖縄到着の7月14日は夜9時到着と言うのに交流推進課の皆さんやその他関係者の皆さんが空港待機でお出迎え頂き、準備の万全さを最初から感じさせて頂きました。

7月21日の初日から一番印象に残ったのは沖縄尚学高等学校の皆さんの活躍ぶりでした。彼、彼女らの洗練された接待無くしては一週間のツアーで子供達がお互いに心を開くまでになるのは難しかったと感じます。二日目のキャンプファイヤー、最終日のマチグァー散策、修了式と与座宏章教諭の率いる地域国際交流クラブの生徒の皆さんは最初から最後まで笑顔と礼儀を持って私達に接してくれました。恥ずかしがらずに積極的に接していくボランティア精神、とても素晴らしい教育を受けていると感心させられると同時にこの様な教育をこれからの沖縄の学校教育の中にどんどん取り入れていって欲しいと感じさせられました。

企画進行も時間通りで担当のロード製作の皆さんは随分時間をかけて細かく計画なされた事と感じさせられました。この企画に携わって下さった皆さん一人一人が外国から来た子供達の目に沖縄の良い印象として写った事と信じます。

企画の内容は文句の言い様が無かったと思えるのですが、次回の提案をさせて頂ければ、私としてはペンションやホテルよりは青年の家、福祉センター、学校などの公共施設を活用して林間学校や臨海学校の様な形式の宿泊も面白かったのではないかと感じました。県内の幾つかの学校の生徒会に協力してもらってキャンプファイヤーを囲んだフォークダンスやモデルサイ

ズの大綱引きなども面白いかと思います。祖先崇拝の沖縄でお墓の紹介が無かったのは一寸残念でした。

企画実施前の一週間のホームステイは家族や親戚と過ごす時間として素晴らしいのですが、せっかく外国から来た子供達ですから学校訪問もさせてあげても良かったかと思えます。学生服を着せてみるのも良い体験じゃないでしょうか？

引率者の旅費半額負担の件ですが、旅費に関しては引率者の地元からも見積もりを出してもらって半額がいくらなのかを最初からはっきりさせておく必要があると感じました。かけがえの無い体験をさせていただいたので出費が多かったとは思いませんが、UA（ユナイテッド航空）の半額がアメリカで購入した同時期のJAL（日本航空）と同じぐらいの値段と言うのは誤解を招く恐れがあるかと感じました。次回の引率者との総理解のためにも御検討頂きたく存じます。ちなみにUAとJALの値段に関してはユタ州から同時期に帰沖した県人会のメンバーの旅費と比較しての発言です。

最後に、沖縄で沖縄文化（舞踊、武道、音楽等）を頑張っている子供などを対象に外国の沖縄県人会を活用してホームステイに旅立たせてみる事はその子達にとっても外国の県人会にとってもいろんな意味で学ぶ事があるかと信じます。

素晴らしい体験をさせて頂き大変有難う御座いました。こちら（米国ユタ州）に来られる機会がありましたら是非お知らせ下さい。今後とも宜しく願い申し上げます。





伊敷 久子

ISHIKI HISAKO

54歳 1世

イギリス United Kingdom

イギリス沖縄県人会



「ジュニアスタディーツアー引率者として」

私と娘は7月13日にロンドンを出発して14日の晩に那覇空港に到着しました。夜遅い到着でしたので迎えは予想しておりませんでした。それで「ジュニアスタディーツアー歓迎」の大きな旗を掲げての県庁側の暖かい出迎え、そして親戚の出迎えに感激しました。私と娘はハーバービューマンションでの気楽な宿泊にすることとして、ツアーが始まる21日までの間、親戚回りをして親交を深めたり、いろいろ行きたい所に行く事が出来ました。このような機会を与えて下さった県庁の配慮に感謝いたします。

ツアー1日目は10時に県庁に集合しました。県庁前に立った時、この建物が私の懐かしい故郷沖縄全体を動かしている場所かと思うと感慨無量でした。その建物の4階でオリエンテーションやTシャツの配布がありました。11時から県庁1階ロビーで歓迎セレモニーがありました。世界各国の参加者達はそれぞれの国旗を掲げ整列しました。各国毎に参加者、引率者の名前が呼ばれ、返事をしました。その後、海外参加者代表としてペルーの参加者、県内参加者代表、県庁側から挨拶があり、その後、全員での記念撮影がありました。

お昼は県庁地下レストランでいただきました。その後、宿泊場所であるレインボーホテルに移動し、そこで各国参加者の自己紹介がありました。私や娘にとって初めての経験でしたので、わからない所だらけでしたが、他の参加者の良い点を見習って参考にしました。そこで学んだ事を活かして、次の各国紹介のプレゼンテーションを良くしていきたいと思いました。

6時から行われた交流プログラムやウェルカムパーティーでは、ゲームを通してお互いうち解ける事が出来ました。特に沖縄尚学高校のボランティア活動はとてすばらしく、良かったです。

最後にグループリーダー、引率者及び主催者のミーティングがあり、その後消灯となりました。

翌日は比地大滝のトレッキングでした。沢山の坂の上り下りは50代半ばの私にとって大変きつかったですが、最後まで頑張った良かったです。山原の自然を満喫できた事は素晴らしい経験でした。

その晩はキャンプファイヤーを囲んでのゲームやダンスがあり素晴らしい内容でした。

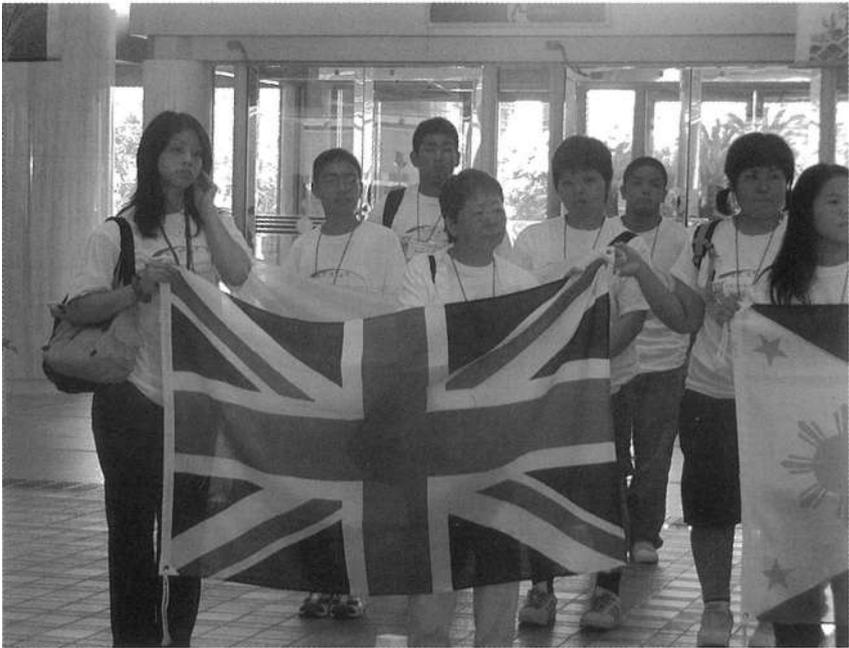
3日目の美ら海水族館見学では大小様々な海の生き物を見学しましたが、いつまで見ても飽きないものでした。

その他、サバニ体験や伝統芸能体験、沖縄の移民の歴史学習、首里城見学、平和祈念資料館見学等を行いました。平和祈念資料館見学のプログラムの中で当時15歳だった方が戦争体験談を話してくれました。その後、公園内の散策がありました。その他にも沖縄の暮らしを知るためのマチグァー散策など、本当に盛りだくさんの素晴らしいプログラムでした。

1958年に8歳で南米のボリビア移住先で家族を待っている父のもとへ母、祖父、弟と私の4人で第一次移民として行きました。そこで22年過ごし、1980年に結婚しまして主人と共にロンドンへ来て25年になります。それで8歳の時に出た沖縄は私にとって懐かしく、近くて遠い国でした。日本の歴史の資料は割と手に入りますが、沖縄の歴史に関する資料は手に入らず困っておりました。今回、娘と共にジュニアスタディーツアーに参加でき、ウチナーンチュとして、より沖縄の事を知る機会を与えられて感謝しております。母親から第二次世界大戦について少し聞いておりましたが、今回、平和祈念資料館でまとめられたレポートを見て、また体験談を聞く事が出来て、より理解する事が出来ました。また、今回、本屋で沖縄の歴史の本を買ったり、実際に首里城を見学して、その当時の事を思い、自分も同じ血を引くウチナーンチュだと思えば胸がいっぱいになりました。

これからも引き続きジュニアスタディーツアーが実施され、世界に広がるウチナーンチュのつながりを深め、沖縄への理解とサポートを深めていく事ができたらと思います。

ツアーを企画して下さい下さった方々、プログラムに関わった方々、沖縄尚学高校ボランティアの方々、その他一人一人に心よりお礼を申し上げます。そして沖縄が平和にますます栄えていく事をお祈り申し上げます。





資 料 編

受 入 実 績

(1) 海外参加者・引率者の国別内訳 【() はそのうち引率者の人数】

国名	年度	H13 (ウチナンチュ大会)	H14	H15	H16	H17	計
ボ リ ビ ア		5(1)	2	3(1)	2	2	14(2)
ブ ラ ジ ル		7(1)	3(1)	2	3(1)	3(1)	18(4)
” (カンボグラデ)		3(1)	1	2(1)	1	1	8(2)
ア ルゼンチン		5(1)	3(1)	2	3(1)	3(1)	16(4)
ペ ルー		5(1)	3(1)	3(1)	3(1)	3(1)	17(5)
ベネズエラ		2(1)	0	0	0	0	2(1)
メキシコ		3(1)	0	0	0	0	3(1)
キューバ		0	2(1)	2(1)	2(1)	0	6(3)
フランス		2(1)	0	0	0	0	2(1)
イギリス		2(1)	0	0	0	2(1)	4(2)
ドイツ		2(1)	0	0	0	0	2(1)
米 国 (ハワイ)		0	2	3(1)	1	0	6(1)
” (グアム)		1	0	2(1)	0	0	3(1)
” (本 土)		20(4)	6(2)	5(2)	5(1)	6(1)	42(10)
カ ナ ダ		6(2)	2(1)	1	1	1	11(3)
フ ィ リ ピ ン		4(1)	3(1)	3(1)	1	1	12(3)
シンガポール		0	2(1)	0	0	0	2(1)
計		67(17)	29(9)	28(9)	22(5)	22(5)	168(45)

(2) 海外参加者内訳

世 代 別

世代	年度	H13 (ウチナンチュ大会)	H14	H15	H16	H17	計
1 世		0	0	0	1	2	3
2 世		26	5	6	6	3	46
3 世		21	8	10	8	9	56
4 世		3	7	3	2	3	18
計		50	20	19	17	17	123

男 女 別

性別	年度	H13 (ウチナンチュ大会)	H14	H15	H16	H17	計
男 子		30	9	5	7	6	57
女 子		20	11	14	10	11	66
合 計		50	20	19	17	17	123

(3) 県内・県外参加者内訳

学 校 別

学年	年度	H13 (ウチナンチュ大会)	H14	H15	H16	H17	計
小 学 生		9	0	0	0	0	9
中 学 生		24	13	7	5	4	53
高 校 生		17	11	18	15	15	76
計		50	24	25	20	19	138

男 女 別

性別	年度	H13 (ウチナンチュ大会)	H14	H15	H16	H17	計
男 子		15	6	4	4	5	34
女 子		35	18	21	16	14	104
合 計		50	24	25	20	19	138

平成17年度 参加者名簿

県内

	氏名	年齢	性別	学校名	
1	具志堅 靖 知	GUSHIKEN YASUTOMO	14	男	沖縄市立コザ中学校
2	城 間 ひかる	SHIROMA HIKARU	14	女	那覇市立石嶺中学校
3	伊 地 侃 海	ICHI TADAMI	14	男	与那原町立与那原中学校
4	又 吉 奈保子	MATAYOSHI NAOKO	14	女	石垣市立伊原間中学校
5	金 城 千 尋	KINJO CHIHIRO	16	女	北部工業高等学校
6	幸 地 長 治	KOUCHI CHOUJI	16	男	名護高等学校
7	金 城 エリナ	KINJO ERINA	17	女	読谷高等学校
8	大 城 奈 々	OSHIRO NANA	17	女	具志川高等学校
9	玉 城 美 優	TAMAKI MIYU	18	女	具志川高等学校
10	山 城 杏 奈	YAMASHIRO ANNA	16	女	普天間高等学校
11	宇 根 あみ菜	UNE AMINA	17	女	浦添高等学校
12	大 城 李理子	OSHIRO RIRIKO	15	女	那覇高等学校
13	斉 藤 愛 里	SAITO AIRI	16	女	那覇国際高等学校
14	又 吉 扶	MATAYOSHI TASUKU	17	男	那覇国際高等学校
15	上 原 麻 衣	UEHARA MAI	15	女	小禄高等学校
16	小那覇 祥 子	ONAHA SHOKO	16	女	豊見城高等学校
17	番 園 亨	BANZONO TORU	16	男	糸満高等学校
18	翁 長 琴 乃	ONAGA KOTONO	17	女	久米島高等学校
19	伊良部 夏 美	IRABU NATSUMI	18	女	宮古工業高等学校

平成17年度 参加者名簿

海外

	氏 名	年齢	性別	世代	国 名	県人会名	
1	大城 直美 マヤラ MAYARA NAOMI DE ALCANTARA OSHIRO	17	女	2世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会	
	宮城 明子 ベアトリス BEATRIZ AKIKO MIYASHIRO						
2	川波 エンリッケ ケンジ HENRIQUE KENJI KAWANAMI	15	女	3世			カンボグランデ沖縄県人会
3	屋宜 宣広 アレハンドロ ALEJANDRO DANIEL YAGI	17	男	3世			
4	岸本 ユカリ YUKARI KISHIMOTO	16	男	3世		アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
5	仲里 国頭 エミ カロリーナ EMY CAROLINA NAKASATO KUNIGAMI						
6	亀甲 亀甲 たかし アレハンドロ TAKASHI ALEJANDRO KAMEGO KAMEKO	16	女	4世	ペルー		
7	親川 千草 カサンドラ CHIGUSA CASANDRA OYAKAWA	18	男	3世			
8	ジャンニ ブラジル JANNY BRASIL TAMASHIRO	14	女	3世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会	
	9						ヤマシロ ミッシェル MICHELLE ALEXANDRA YAMASHIRO
10	イタリアーノ チャンス ケンイチ CHANCE KENICHI ITALIANO	15	女	4世			アメリカ
11	イーズリー マケーナ ヴィカーシャ MCKENNA VIKASHAA EASLEY	14	男	1世	ユタ州沖縄県人会		
12	ラックエル 笑美 コンドン RAQUEL EMI CONDON	18	女	2世	ワシントン D. C. 沖縄会		
13	クリストファー ジョシア ワールターズ CHRISTOPHER JOSHUA WALTERS	14	女	3世	インディアナ沖縄県人会		
14	ジョーダン カミオ サワダ JORDAN KAMIO SAWADA	14	男	3世	カナダ	フロリダ沖縄県人会	
	15					ジャスミン マリー ドフレド デ ヘスス JASMINE MARIE DE JESUS	14
16	ゴンザレス 優子 エリザベス YUKO ELIZABETH GONZALES	18	女	3世		フィリピン	フィリピン沖縄県人会
17		17	女	2世	イギリス	イギリス沖縄県人会	

引率者

	氏 名	年齢	性別	世代	国 名	県人会名
1	松堂 忠顕 CHUKEN MATSUDO	69	男	1世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
	新里 ファビアナ カルメン FABIANA CARMEN SHINZATO					
2	安座間 喜屋武 シェイラー パトリシア SHEILLAH PATRICIA AZAMA KIYAN	34	女	2世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
3	牧志 啓和 HIROKAZU MAKISHI	28	女	3世	ペルー	ペルー沖縄県人会
4	伊敷 久子 HISAKO ISHIKI	44	男	1世	アメリカ	ユタ州沖縄県人会
	5					

平成16年度 参加者名簿

県内

	氏名	年齢	性別	学校名
1	棚原 琴希 TANAHARA KOTOKI	14	女	宜野湾市立宜野湾中学校
2	糸数 梨乃 ITOKAZU RINO	13	女	那覇市立小禄中学校
3	国吉 美樹 KUNIYOSHI MIKI	14	女	久米島町立具志川中学校
4	高原 茉奈 TAKAHARA MANA	14	女	平良市立平良中学校
5	前上里 李衣奈 MAEUEZATO LIINA	13	女	石垣市立伊原間中学校
6	幸地 美琴 KOUCHI MIKOTO	17	女	名護高等学校
7	平良 槇子 TAIRA MAKIKO	17	女	石川高等学校
8	小谷 仁人 KOTANI KIMIHITO	17	男	石川高等学校
9	池原 春奈 IKEHARA HARUNA	18	女	読谷高等学校
10	又吉 毅 MATAYOSHI TAKESHI	17	男	美里高等学校
11	上原 唯 UEHARA YUI	18	女	球陽高等学校
12	崎濱 優希 SAKIHAMA YUUKI	18	女	与勝高等学校
13	沖吉 ハンナ OKIYOSHI HANNA	16	女	普天間高等学校
14	運天 美里 UNTEN MISATO	16	女	首里高等学校
15	久銘次 美奈江 KUMEJI MINAE	16	女	那覇国際高等学校
16	謝敷 エミリー JASHIKI EMILY	16	女	那覇国際高等学校
17	金城 のぞみ KINJOU NOZOMI	17	女	那覇西高等学校
18	許田 卓史 KYODA TAKAFUMI	18	男	興南高等学校
19	金 憲禎 KIM HUNJUNG	16	男	沖縄尚学高等学校
20	細田 愛 HOSODA MANA	15	女	豊見城高等学校

平成16年度 参加者名簿

海外

	氏名	年齢	性別	世代	国名	県人会名
1	比嘉 理恵 デボラ DEBORA LIE HIGA	15	女	3世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
	知念 まゆみ クリスチーナ CRISTINA MAYUMI CHINEN					
3	城間 ロドリーゴ シゲイロ RODRIGO SHIGUEIRO SIROMA	16	男	3世		
	4					又吉 アンドレス MATAYOSHI ANDRES PABLO
5		米須 ノルマ ビルヒニア KOMESU NORMA VIRGINIA	17	女		3世
	6	エスコバル 伊礼 ジョアナ エツコ ESCOBAR YREY JOHANNA ETSUKO				
7		比嘉 シンボ エリック ハビエル HIGA SHIMBO ERIC JAVIER	16	男	3世	
	8	中村 稲嶺 真由美 NAKAMURA INAMINE MAYUMI				14
9		新垣 サトル ARAKAKI SATORU	15	男	2世	
	10	サユリ ゴンザレス ナカソネ GONZALEZ NAKASONE SAYURI				14
11		ミッシェル ミヨリ パニス PANIS MICHELLE MIYORI	17	女	3世	
	12	ウィリアム ウォルター ストレリー STRALEY WILLIAM WALTER				17
13		コラオ クリスタル CORRAO CRYSTAL MARIE	17	女	2世	
	14	新城 アントニ 大陸男 ARASHIRO ANTHONY MUTSUO				14
15		ジェシー・マイ カイアオ ア カマラニ・ホリ HORI JESSIE MAI KAIAO A KAMALANI	16	女	4世	
	16	喜久川 可奈 KIKUKAWA KANA				17
17		レンド ジャン ボニファシヨ BONIFACIO RHEND JAN	18	男	3世	

引率者

	氏名	年齢	性別	世代	国名	県人会名
1	与儀 上原 昭雄	60	男	2世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	新垣 アリエル	20	男	2世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
3	松田 美津江	68	女	2世	ペルー	ペルー沖縄県人会
4	ミユキ イトカズ モラレス	33	女	3世	キューバ	キューバ沖縄県人会
5	光江 上原 コーチ	52	女	1世	アメリカ	シカゴ沖縄県人会

平成15年度 参加者名簿

県内

	氏名	年齢	性別	学校名
1	宮本詩織 Miyamoto Shiori	12	女	港川中学校
2	島袋希 Shimabukuro Nozomi	15	女	首里中学校
3	山城貴徳 Yamashiro Takanori	14	男	糸満中学校
4	比屋根安尚 Hiyane Yasunao	13	男	南星中学校
5	長嶺一司 Nagamine Kazushi	13	男	南星中学校
6	古波蔵直子 Kohagura Naoko	14	女	南星中学校
7	比嘉淳子 Higa Junko	18	女	八重山農林高等学校
8	吉村苑華 Yoshimura Sonoka	17	女	読谷高等学校
9	高良南 Takara Minami	18	女	球陽高等学校
10	玉城幸 Tamaki Miyuki	17	女	浦添高等学校
11	安次富紗綾香 Ashitomi Sayaka	16	女	浦添商業高等学校
12	比嘉こなみ Higa Konami	17	女	首里高等学校
13	安里みちよ Asato Michiyo	17	女	首里東高等学校
14	新垣怜子 Arakaki Reiko	17	女	那覇高等学校
15	新崎奈央 Arasaki Nao	17	女	那覇高等学校
16	前田那美子 Maeda Namiko	18	女	那覇国際高等学校
17	大本紗哉 Ohmoto Saya	16	女	那覇国際高等学校
18	金城美菜 Kinjo Mina	17	女	那覇商業高等学校
19	大城桃香 Oshiro Momoka	16	女	沖縄尚学高等学校
20	真栄城智恵美 Maesiro Chiemi	16	女	沖縄尚学高等学校
21	稲福陽香 Inafuku Haruka	15	女	興南高等学校
22	村吉梨華子 Murayoshi Rikako	15	女	興南高等学校

県外

	氏名	年齢	性別	学校名
1	金城幸代 Kinjo Sachiyo	15	女	兵庫県立宝塚私立高司中学校
2	上原勝也 Uehara Katsuya	17	男	兵庫県立宝塚高等学校
3	小山奈未 Koyama Nami	18	女	日本福祉大学附属高等学校

平成15年度 参加者名簿

海外

	氏名	年齢	性別	世代	国名	県人会名		
1	新城 真由美 Monica Mayumi Arashiro	17	女	3世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会		
	2						仲村 カロリーナ みどり Carolina Midori Nakamura	18
3		新里 チエミ アンネ Anne Thiemy Suzuki Shinzato	17	女			3世	
	4	井口 セシリア ミドリ Iguchi Cecilia Midori				17		女
5		諸喜田 マリネ Shokida Marine	16	女			3世	
	6	仲本 山城 ダニエラ Nakamoto Yamagusuku Daniella				15		女
7		渡慶次 山城 マリア ガブリエラ Tokeshi Yamagusuku Maria Gabriela	14	女	3世			
	8	神谷 ナオミ Kamiya Pedraza Naomi				14	女	2世
9		比嘉 浩二 Higa Koji	17	男	2世			
	10	アレマン レオナルド ホルヘ エルネスト Aleman Leonard Jorge Ernesto				14	男	4世
11		キャサレン アーン シロマ Katharine Anne Shiroma	15	女	4世			
	12	タイ ジン コバシガワ Ty Jin Kobashigawa				15	男	4世
13		玉城 由美 Tamashiro Yumi	16	女	2世			
	14	柳田 コリン タケシ Yanagida Colin Takeshi				14	男	2世
15		アシュリー フリック Ashley Frick	14	女	3世			
	16	仲原 オリバー 竜司 Nakahara Oliver Ryoji				16	男	2世
17		ディナマエ エロイ リエゴ Llego Dinahmae Eroy	17	女	3世			
	18	パトリシア レジーナ ノセダ ロペス Lopez Patricia Resyna Noceda				17	女	3世
19		レドナ ジェニファー 祐紀 Redona Jennifer Yuki	15	女	3世			

引率者

	氏名	年齢	性別	世代	国名	県人会名
1	屋富祖 正一	52	男	1世	ブラジル	カンボグランデ沖縄県人会
2	安座間 平敷 ファン 喜勝	53	男	3世	ペルー	ペルー沖縄県人会
3	比嘉 次雄	50	男	1世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
4	上間 大兼久 ホルヘ	62	男	2世	キューバ	キューバ沖縄県人会
5	タランティニ 裕子 伊波	53	女	1世	アメリカ	北米沖縄県人会
6	曾野 知雄	35	男	2世		ニューヨーク沖縄県人会
7	島袋 カオル ネイディー	46	女	2世		ハワイ沖縄県人会
8	アセルデン マリア コラソン エバンヘリオ	49	女	2世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会
9	奥濱 レドナ 悦子	42	女		アメリカ	グアム沖縄県人会

平成14年度 参加者名簿

県内

	氏名	年齢	性別	学校名
1	宮里 諒哉 Ryoya Miyazato	15	男	名護市立大宮中学校
2	奥間 友里恵 Yurie Okuma	14	女	金武町立金武中学校
3	與那城 美姫乃 Mikino Yonashiro	12	女	沖縄市立安慶田中学校
4	伊良波 一美 Kazumi Iraha	14	女	沖縄市立山内中学校
5	嘉数 真菜 Mana Kakazu	13	女	浦添市立浦西中学校
6	比嘉 麻臣 Asami Higa	13	女	那覇市立松城中学校
7	平敷 綾 Aya Heshiki	15	女	那覇市立小禄中学校
8	山城 信裕 Nobuhiro Yamashiro	14	男	与那原町立与那原中学校
9	杉山 星河 Seika Sugiyama	12	女	豊見城市立伊良波中学校
10	川平 一之 Kazuyuki Kawahira	14	男	城辺町立福嶺中学校
11	宮城 聖里香 Serika Miyagi	17	女	辺土名高等学校
12	大城 奈津紀 Natsuki Ohshiro	16	女	石川高等学校
13	山城 夢乃 Yumeno Yamashiro	15	女	美里高等学校
14	宮里 あすか Asuka Miyazato	17	女	宜野湾高等学校
15	嵩本 哲也 Tetsuya Takemoto	16	男	西原高等学校
16	西筋 理奈 Rina Irisuji	15	女	那覇高等学校
17	玉城 智佳 Chika Tamaki	18	女	沖縄女子短大附属高等学校
18	國場 雄作 Yusaku Kokuba	16	男	豊見城高等学校
19	又吉 香穂利 Kahori Matayoshi	15	女	糸満高等学校
20	石井 雄大 Takehiro Ishii	17	男	八重山高等学校

県外

	氏名	年齢	性別	学校名
1	川崎 麻奈美 Manami Kawasaki	13	女	鶴見中学校
2	金城 香奈 Kana Kinjo	13	女	鶴見中学校
3	與那嶺 美香 Mika Yonamine	12	女	大阪市立天下茶屋中学校
4	糸洲 久美子 Kumiko Itosu	17	女	明浄学院高等学校

平成14年度 参加者名簿

海外

	氏名	年齢	性別	世代	国名	県人会名
1	当間 嗣榮 マウリシオ Mauricio Shiei Touma	14	男	4世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	高良 グラウシヤ ネンシー Glaucia Nancy Takara	16	女	3世		
3	志良堂 ジャケリネ Jacqueline Shirado	16	女	4世		カンボグランデ沖縄県人会
4	米須 トマス Tomas Komesu	17	男	2世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
5	島袋 エリアーナ ビルヒーニア Eliana Virginia Shimabukuro	17	女	3世		
6	広中 山城 ルイス フェルナンド Luis Fernando Hironaka Yamagusuku	14	男	4世	ペルー	ペルー沖縄県人会
7	ゴンザレス 平良 ハイメ Jaime Gonzales Taira	18	男	3世		
8	仲里 秋奈 Akina Nakazato	17	女	2世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
9	ロニー ヴェレス 真栄城 Rony Velez Maeshiro	16	男	3世		
10	ナリマン ピーニャ フォンテ Narryman Piña Fonte	17	女	4世	キューバ	キューバ沖縄県人会
11	清本・伊舎良 マッシュー 誠 Matthew Makoto Kiyomoto-Isara	15	男	4世	アメリカ	ハワイ沖縄県人会
12	伊良波 クリストファー マイケル Christopher Michael Iraha	16	男	4世		
13	比嘉 クリスティン ミヨシ Cristan Miyoshi Higa	17	女	4世		北米沖縄県人会
14	バウチャー 飛鳥 Asuka Christine Boutcher	17	女	2世		ワシントンD.C. 沖縄会
15	ジョナサン サンダース Johnathan David Saunders	15	男	3世		アトランタ沖縄県人会
16	ジョセフ リー バザード Joseph Lee Buzzard	15	男	3世		北加沖縄県人会
17	藤田 エリザベス 由利子 Elizabeth Yuriko Fujita	17	女	2世	カナダ	トロント球陽会
18	ミシェル アベダニア ペベニト Michelle Abedania Pebenito	18	女	3世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会
19	ジョネロバス コメロス イグナシオ Jonerobeth Comeros Ignacio	17	女	3世		
20	照屋 なつ子 Natsuko Teruya	15	女	2世	シンガポール	星 琉 会

引率者

	氏名	年齢	性別	世代	国名	県人会名
1	具志堅 ジーナ 美千代	32	女	2世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	新里 ダニエル エステバン	32	男	2世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
3	赤嶺 光弘	56	男	1世	ペルー	ペルー沖縄県人会
4	エステル タマキ トーレス	35	女	3世	キューバ	キューバ沖縄県人会
5	呉屋 君子	60	女	1世	アメリカ	北米沖縄県人会
6	大城 順市	37	男	1世		北加沖縄県人会
7	藤田 みどり	53	女	1世	カナダ	トロント球陽会
8	エステーラ アレホ アドルフォ	48	女	2世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会
9	橋本 真理	37	女	1世	シンガポール	星 琉 会

平成13年度 参加者名簿

第3回世界のウチナーンチュ大会 県内

	氏 名	学年	性別	学 校 名	
1	知名 倫子	Rinko China	小学4年	女	宜野座小学校
2	仲田 尚仁	Naohito Nakada	小学4年	男	南風原小学校
3	又吉 椎菜	Shiina Matayoshi	小学5年	女	漢那小学校
4	平良 久美子	KuIniko Taira	小学5年	女	志真志小学校
5	仲本 達郎	Tatsuro Nakalnoto	小学5年	男	城西小学校
6	新垣 史織	Shiori Arakaki	小学5年	女	知念小学校
7	目取真 輔	Tasuku Medoruma	小学5年	男	北玉小学校
8	城間 祥大	Shoudai Shiroma	小学6年	男	若狭小学校
9	照屋 寛佳	Hiroyoshi Teruya	小学6年	男	城南小学校
10	玉城 匠	Takumi Talnaki	中学1年	男	コザ中学校
11	知念 鈴奈	Suzuna Chinen	中学1年	女	伊江中学校
12	仲間 良成	Yoshinari Nakama	中学1年	男	越来中学校
13	牧山 梨紗	Risa Makiyama	中学1年	女	沖繩尚学中学校
14	仲程 祐介	Yusuke Nakahodo	中学1年	男	古蔵中学校
15	成底 徹	Toru Narisoko	中学1年	男	港川中学校
16	仲里 彩夏	Ayaka Nakazato	中学1年	女	知念中学校
17	屋嘉比 梢	Kozue Yakabi	中学1年	女	東風平中学校
18	玉城 彩衣	Ai Tamaki	中学1年	女	那覇中学校
19	松本 佳子	Yoshiko Matsunoto	中学1年	女	那覇中学校
20	東江 真理子	Mariko Agarie	中学2年	女	伊江中学校
21	与那嶺 悠	Haruka Yonamine	中学2年	男	伊良波中学校
22	古謝 ちひろ	Chihiro Koja	中学2年	女	嘉手納中学校
23	比嘉 紗苗	Sanae Higa	中学2年	女	鏡が丘養護学校
24	仲程 若菜	Wakana Nakahodo	中学2年	女	古蔵中学校
25	平田 吉郎	Yoshiro Hirata	中学2年	男	佐敷中学校
26	比嘉 彩賀	Ayaka Higa	中学2年	女	松城中学校
27	比嘉 亜樹	Aki Higa	中学2年	女	興南中学校
28	古堅 葵	Aoi Furugen	中学3年	女	安田中学校
29	佐久川 俊介	Shunsuke Sakugawa	中学3年	男	沖繩尚学中学校
30	謝花 千夏	Chinatsu Jahana	中学3年	女	宮里中学校
31	普天間 一樹	Kazuki Futenma	中学3年	男	小禄中学校
32	玉那覇 優香	Yuka Tamanaha	中学3年	女	西原東中学校
33	宮城 鮎子	Ayuko Mayagi	中学3年	女	西原東中学校
34	高田 真奈美	Manami Takada	高校1年	女	小禄高等学校
35	翁長 里美	Satomi Onaga	高校1年	女	小禄高等学校
36	上原 恵理佳	Erika Uehara	高校1年	女	昭和薬科大学附属高等学校
37	与那覇 恵梨	Eri Yonaha	高校1年	女	石川高等学校
38	徳里 麗華	Reika Tokuzato	高校1年	女	石川高等学校
39	中村 晴枝	Harue Nakamura	高校1年	女	那覇国際高等学校
40	伊計 美希	Miki Ikei	高校2年	女	宮古高等学校
41	仲宗根 智世	Tomoyo Nakasone	高校2年	女	宮古農林高等学校
42	佐久田 智世	Tomoyo Sakuda	高校2年	女	宮古農林高等学校
43	川口 真未	Mami Kawaguchi	高校2年	女	首里東高等学校
44	池原 理一	Riichi Ikehara	高校2年	男	普天間高等学校
45	宝蔵寺 祐司	Yuji Hozoji	高校2年	男	普天間高等学校
46	仲間 明奈	Akina Nakama	高校3年	女	宮古高等学校
47	茶畑 美加	Mika Chabata	高校3年	女	小禄高等学校
48	新崎 舞	Mai Arasaki	高校3年	女	小禄高等学校
49	比屋根 恵美	Megumi Hiyane	高校3年	女	南風原高等学校
50	真謝 絵美	Emi Maja	高校3年	女	名護高等学校

平成13年度 参加者名簿

第3回世界のウチナンチュ大会 海外

	氏名	年齢	性別	国名	県人会名	引率者
1	与儀 エリカ ERIKA YOGI	13	女	ブラジル	ブラジル沖縄県人会	松堂 ひろみ
2	太田 チオゴ DIOGO TAKAKE OTA	15	男			
3	知花 ムリロ MURILLO CHIBANA	13	男			
4	諸見里 春美 KARINEHARUMI MOROMIZATO	14	女			
5	崎間 ビクトル 達由鯉 VICTORTA TSUYURI SAKIMA	14	男			
6	宮里 昌宏 MARCELO MASAHIRO MIYAZATO UETA	16	男			
7	宮城 ガストン GASTON MIYASHIRO	16	男	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会	安里エステラ アレハンドラ
8	比嘉 フェルナルド FERNANDO EZEQUIEL HIGA	14	男			
9	玉那覇 ノルベルト NORBERTO TAMANAHA	14	男			
10	大城 ノエリア NOELIA OSHIRO	11	女			
11	伊芸 ヘラルド GERALDO IGEI KOHATSU	14	男	ペルー	ペルー沖縄県人会	仲宗根 吉修
12	亀甲 マサル MASARU ARTURO KAMEGO	17	男			
13	山城 イサベル ISABEL YAMASHIRO NAKACHI	10	女			
14	比嘉 盛繁 HECIOR ALEXANDER HIGA SHIROMA	17	男			
15	比嘉 恵理子 ERIKA CAROLINA HIGA YAMASHIRO	14	女	ボリビア	ボリビア沖縄県人会	安谷屋 敬
16	大城 ニカリ NIKARI OSHIRO MURARA	10	女			
17	中田 弘喜 FERNANDO HIROKI NAKATA	12	男			
18	仲村 美恵子 MIEKO NAKAMURA SOKEI	14	女			
19	仲村 ミツオ JOSE MITSUO NAKAMURA OROZCO	14	男	メキシコ	メキシコ沖縄県人会	中村 イルマ ヌネス
20	仲村 ヤスヒロ YASUHIRO NAKAMURA OROZCO	13	男			
21	島田 バグネル 和良 WAGNER KAZUYOSHI SHIMADA	17	男	ブラジル	カンボグランデ沖縄県人会	具志堅 弘
22	具志堅 ノブユキ ANDERSON NOBUYUKI GUSHIKEN	16	男			
23	古謝 景士 RAUL KEISHI KOJA	15	男	ベネズエラ	ベネズエラ沖縄県人会	古謝 いそえ
24	宜保 亜由美 カレン AYUMI KAREN GIBO	14	女	カナダ	バンクーバー沖縄友愛会	仲宗根 功
25	嶺井 真実 MELISSA MAMI MINEI	17	女			

平成13年度 参加者名簿

第3回世界のウチナーンチュ大会 海外

	氏名	年齢	性別	国名	県人会名	引率者
26	金城 茜 MARGARET AKANE KINJO	14	女	カナダ	レスブリッジ沖縄県人会	浦崎 ジョージ
27	目取真 ジャネル ミホコ JANELLE MIHOKO MEDORUMA	14	女			
28	玉栄 チャールズ CHARLES MASATOMO TAMAE	11	男			
29	ジョセフ ジョーンズ JOSEPH FREDRIC JONES	15	男	アメリカ	北米沖縄県人会	前田 洋子 (北米沖縄県人会)
30	ブライアン デイビス BRYAN KIYOSHI DAVIS	16	男		サンディエゴ 沖縄県人会	
31	デイビット レイモンド DAVID RICHARD RAYMOND	10	男		ユタ州沖縄県人会	
32	アリシア 恵子 プレンズ ALICIA KEIKO BERENZ	16	女		ワシントン 沖縄県人会クラブ	トシコ バートリー
33	テイル リチャーズ DALE KAORU RICHARDS	16	男		シカゴ沖縄県人会	
34	ティファニー フィドラー TIFFANY FIEDLER	14	女		遊友会	洋子 サンダリン (シカゴ沖縄県人会)
35	比嘉 龍児 RYUJI HIGA	16	男		オハイオ 沖縄友の会	
36	落合 北斗 HOKUTO CREIG OCHIAI	17	男		米国東海岸沖縄県人会	
37	ロバート ファンチェス ROBERT JAMES FUNCHES	15	男		ニューヨーク沖縄県人会	
38	ケイラ ケンプ KAYLA RENEE CAMP	14	女		ワシントン DC 沖縄県人会	アトランタ沖縄県人会
39	アンディー ライダー ANDY KIYOSHI RIDER	12	男	D FW 沖縄県人会		
40	キム ビセット KIM BISSETTE	15	女	ジャクソンビル沖縄県人会		
41	マイケル ハーカー MICHAEL ALAN HARKA	17	男	フェイエットビル 沖縄県人会		
42	クリスタル スワンソン CRYSTAL LYNN SWANSON	11	女	ペンサコーラ沖縄県人会		
43	テレサ マリコ モートン TERESA MARIKO MORTON	18	女	フロリダ沖縄郷友会 (がじまる会)		
44	クリストファー ポーティン CRISTOPHER PORTIN	18	男	グアム沖縄県人会		引率者無し
45	マリア ジェイリン ディキアツコ MA. JAYLYNC. DIQUIATCO	15	女	フィリピン	フィリピン沖縄県人会	トヨコ 照屋 エリセオ
46	チヨミ サンタローサ ランセス CHIYOMI STA. ROSA RANCES	14	女			
47	嶋崎 妙恵美 TAEMI SHIMAZAKI	12	女			
48	知念 賢吾 KENGO CHINEN	16	男	フランス	フランス沖縄県人会	知念 睦子
49	石垣 優児 YUJI JOE ISHIGAKI	13	男	イギリス	イギリス沖縄県人会	石垣 栄康
50	松川 ルカ LUCA TOM MUSASHI MATSUKAWA	10	男	ドイツ	ドイツ沖縄県人会	松川 力

ジュニアスタディーツアー協力者一覧

ご協力ありがとうございました。

内 容	協 力 者 名
自然学習	がじゅまる自然学校 海洋博記念公園 沖縄美ら海水族館 マリニピアザ オキナワ
伝統芸能体験学習	恩納村商工会
社会学習	北谷浄水管理事務所 海水淡水化センター
社会・歴史学習	沖縄N G O活動推進協議会
歴史学習	首里城 玉陵
伝統工芸体験学習	那覇市伝統工芸館
平和学習	沖縄県平和祈念資料館 沖縄県観光ボランティアガイド友の会 長田 勝男 様
その他	石畳瑞盛館（資料展示館案内等） 沖縄テレビ放送株式会社 前原 信一 様（講話「世界のなかのウチナーンチュ」講師） 西原 洋子 様 、下地 千鶴子 様（救護担当）
ボランティア	沖縄尚学高等学校地域国際交流クラブ

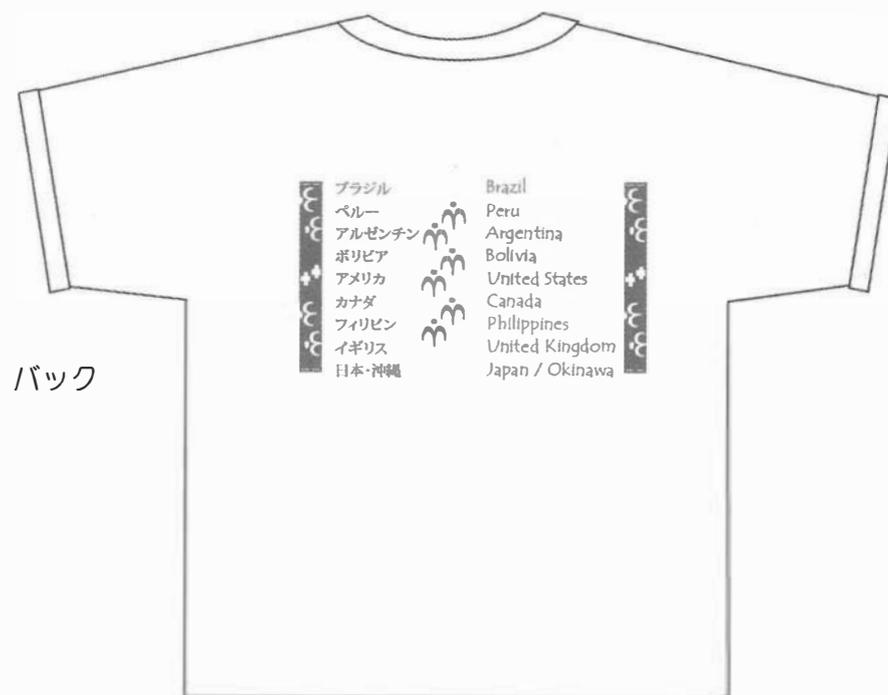
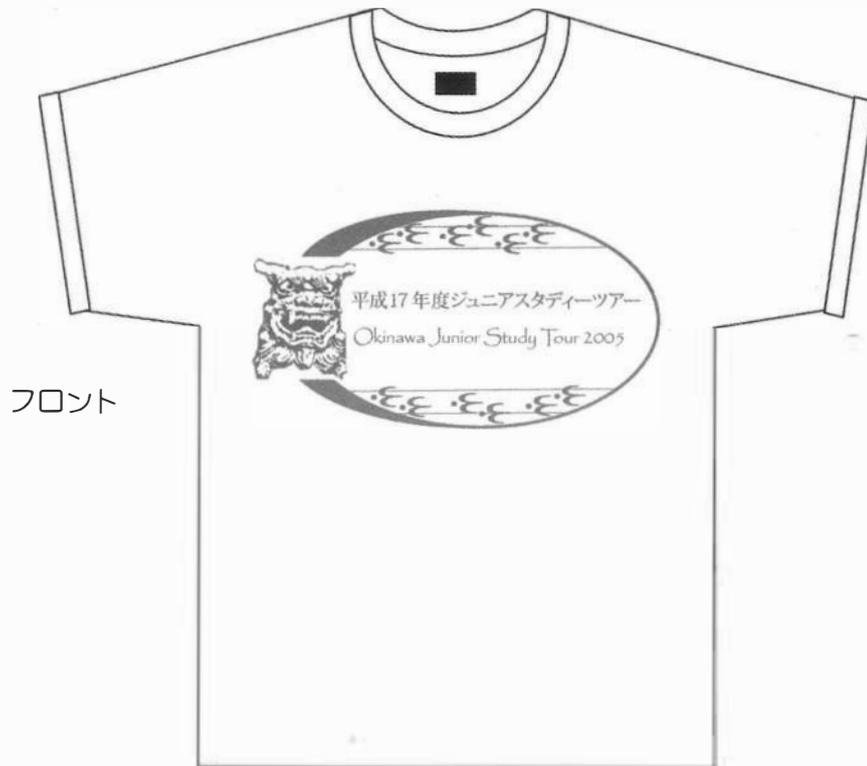
制 作 物

- | | |
|-----------|--------|
| ●募集要項 | ●学習ツール |
| ●各国ガイドブック | ●記念写真 |
| ●ウェルカムボード | ●Tシャツ |
| ●横断幕 | ●修了証 |
| ●ネームプレート | |

T シャツデザイン

ジュニアスタディーツアーTシャツのデザイン

平成14年度県費留学生 ヘルナンデス エミ子 マリア さん（アメリカ）がデザインしました。



歓迎セレモニー式次第

日時：平成17年7月21日（木）
場所：県庁1階 県民ホール
司会：交流推進課長 知念 英信

11:00	開 会	司 会
11:02	歓迎の挨拶	沖縄県知事 稲嶺 恵一
11:07	参加者紹介	司 会
11:12	参加者代表挨拶	海外参加者代表 亀甲 亀甲 たかし アレハンドロ（ペルー） 県内参加者代表 宇根 あみ菜（浦添高等学校）
11:20	閉 会	司 会
11:25	写真撮影（中庭）	

ウェルカムパーティー式次第

日時：平成17年7月21日（木）
場所：歓会の間（沖縄レインボーホテル3階）

19:00	開 会	司会：交流推進課長 知念 英信
19:02	歓迎の挨拶	沖縄県観光商工部観光交流統括監 松本 真一
19:07	参加者代表挨拶	イタリアーノ チャンス ケンイチ（アメリカ）
19:10	乾 杯	沖縄ブラジル協会 会長 西原 篤一

食事・懇談

19:15	歌	沖縄ブラジル協会 会長 西原 篤一
-------	---	-------------------

余 興

		司会 沖縄尚学高等学校地域国際交流クラブ 金 憲禎、屋比久まどか、宮城 佐江
19:30	オープニング	
19:35	三線演奏	翁長 琴乃（久米島高等学校）
19:40	琉球舞踊	ヤマシロ ミッシェル（アメリカ）
19:45	空 手	大城 李理子（那覇高等学校） ジョーダン カミオ サワダ（カナダ）
19:55	ギター演奏	又吉 扶（那覇国際高等学校）
20:00	歌	ジャスミン マリー ドフレド デ ヘスス（フィリピン）
20:05	サ ン バ	大城 直美 マヤラ（ブラジル） 宮城 明子 ベアトリス（ブラジル） 川波 エンリッケ ケンジ（ブラジル）
20:10	アルゼンチン伝統舞踊	屋宜 宣広 アレハンドロ（アルゼンチン） 岸本 ユカリ（アルゼンチン）
20:15	閉 会	

修了式及びさよならパーティー式次第

日時：平成17年7月27日（水）

場所：テンプスホール

（那覇市ぶんかテンプス館4階）

第1部 修了式

司会：交流推進課長 知念 英信

19:00	開 会	司 会
19:02	主催者挨拶	沖縄県出納長 新垣 幸子
19:07	修了証授与	沖縄県出納長 新垣 幸子
19:25	引率者紹介	司 会
19:27	感謝状授与	沖縄県出納長 新垣 幸子
19:30	閉 会	司 会

第2部 さよならパーティー

司会：交流推進課 仲村 裕子

19:50	幕開け 三線演奏	芸能体験学習（三線体験者11名）
19:55	開 会	司 会
19:57	乾 杯	沖縄県観光商工部観光交流統括監 松本 真一
20:00	懇 談	

余 興

司会 沖縄尚学高等学校地域国際交流クラブ
金 憲祐、金 憲禎
石嶺中学校 城間 ひかる

20:15	琉球舞踊	芸能体験学習（琉球舞踊体験者7名）
20:20	エイサー	芸能体験学習（エイサー体験者18名）
20:25	ギター演奏	又吉 扶（那覇国際高等学校）
20:30	琉球舞踊	マケーナ ヴィカーシャ イーズリー（アメリカ）
20:35	琉球舞踊	金城 エリナ（読谷高等学校）
20:40	ペルー伝統舞踊	亀甲 亀甲 たかし アレハンドロ（ペルー） 仲里 国頭 エミ カロリーナ（ペルー）
20:45	アルゼンチン伝統舞踊	屋宜 宣広 アレハンドロ（アルゼンチン） 岸本 ユカリ（アルゼンチン）
20:50	サンバ	大城 直美 マヤラ（ブラジル） 宮城 明子 ベアトリス（ブラジル） 川波 エンリッケ ケンジ（ブラジル）
20:55	ゲーム	会場参加者全員
20:58	参加者代表あいさつ	小那覇 祥子（豊見城高等学校）
21:00	フィナーレ	司 会

ジュニアスタディーツアーグループ表

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
1	川波 エンリッケ ケンジ(男)	宮城 明子 ベアトリス(女)	大城 直美 マヤラ(女)
	HENRIQUE KENJI KAWANAMI	BEATRIZ AKIKO MIYASHIRO	MAYARA NAOMI DE ALCANTARA OSHIRO
	ブラジル	ブラジル	ブラジル
2	ジャンニ ブラジル(女)	イーズリー マケーナ ヴィカーシャ(女)	イタリアーノ チャンス ケンイチ(男)
	JANNY BRASIL TAMASHIRO	MCKENNA VIKASHAA EASLEY	CHANCE KENICHI ITALIANO
	ボリビア	アメリカ	アメリカ
3	ラックエル 笑美 コンドン(女)	亀甲 亀甲 たかし アレハンドロ(男)	ゴンザレス 優子 エリザベス(女)
	RAQUEL EMI CONDON	TAKASHI ALEJANDRO KAMEGO KAMEKO	YUKO ELIZABETH GONZALES
	アメリカ	ペルー	イギリス
4	宇根 あみ菜(女)	又吉 扶(男)	金城 エリナ(女)
	AMINA UNE	TASUKU MATAYOSHI	ERINA KINJYO
5	金城 千尋(女)	上原 麻衣(女)	幸地 長治(男)
	CHIHIRO KINJYO	MAI UEHARA	CHOUJI KOUCHI
6	番園 亨(男)	玉城 美優(女)	又吉 奈保子(女)
	TORU BANZONO	MIYU TAMAKI	NAOKO MATAYOSHI
	男2名、女4名 合計6名	男2名、女4名 合計6名	男2名、女4名 合計6名
引率	牧志 啓和	松堂 忠顕	伊敷 久子
	HIROKAZU MAKISHI	CHUKEN MATSUDO	HISAKO ISHIKI
	Dグループ	Eグループ	Fグループ
1	屋宜 宣広 アレハンドロ(男)	岸本 ユカリ(女)	親川 千草 カサンドラ(女)
	ALEJANDRO DANIEL YAGI	YUKARI KISHIMOTO	CHIGUSA CASANDRA OYAKAWA
	アルゼンチン	アルゼンチン	ボリビア
2	ヤマシロ ミッシェル(女)	仲里 国頭 エミ カロリーナ(女)	ジョーダン カミオ サワダ(男)
	MICHELLE ALEXANDRA YAMASHIRO	EMY CAROLINA NAKASATO KUNIGAMI	JORDAN KAMIO SAWADA
	アメリカ	ペルー	カナダ
3	ジャスミン マリー ドフレド デ ヘスス(女)	クリストファー ジョシア ワールターズ(男)	山城 杏奈(女)
	JASMINE MARIE DE JESUS	CHRISTOPHER JOSHUA WALTERS	ANNA YAMASHIRO
	フィリピン	アメリカ	
4	大城 奈々(女)	翁長 琴乃(女)	伊良部 夏美(女)
	NANA OSHIRO	KOTONO ONAGA	NATSUMI IRABU
5	斉藤 愛里(女)	大城 李理子(女)	小那覇 祥子(女)
	AIRI SAITO	RIRIKO OSHIRO	SHOKO ONAHA
6	具志堅 靖知(男)	伊地 侃海(男)	城間 ひかる(女)
	YASUTOMO GUSHIKEN	TADAMI ICHI	HIKARU SHIROMA
	男2名、女4名 合計6名	男2名、女4名 合計6名	男1名、女5名 合計6名
引率	新里 ファビアナ カルメン	安座間 喜屋武 シェイラー パトリシア	内田 グロリア、森 洋子
	FABIANA CARMEN SHINZATO	SHELLAH PATRICIA AZAMA KIYAN	GURORIA UCHIDA, YOUKO MORI

「沖縄レインボーホテル」 7/21、7/24 宿泊者名簿及び部屋割表

ROOM No	氏 名				
A 401	川波 エンリッケ けんじ	又吉 扶	イタリアーノ チャンス けんいち	伊地 侃海	
B 402	番園 亨	屋宜 宣広 アレハンドロ	ジョーダン カミオ サワダ		
C 501	亀甲 亀甲 たかし アレハンドロ	具志堅 靖知	クリストファー ジョシア ワールターズ	幸地 長治	
D 411	ラックエル 笑美 コンドン	宇根 あみ菜	宮城 明子 ペアトリス	ジャスミン マリー ドレフド デ ヘス	山城 杏奈
E 412	イズリー マケーナ ヴィカーシャ	大城 直美 マヤラ	金城 エリナ	大城 奈々	翁長 琴乃
F 511	金城 千尋	上原 麻衣	ヤマシロ ミッシェル	岸本 ユカリ	伊良部 夏美
G 512	斉藤 愛里	仲里 国頭 エミ カロリーナ	大城 李理子	親川 千草 カサンドラ	又吉 奈保子
H 611	ジャンニー ブラジル	玉城 美優	ゴンザレス 優子 エリザベス	小那覇 祥子	城間 ひかる
O 415	牧志 啓和	松堂 忠頭	上間 勝盛	真栄城 秀之	
△ 612	伊敷 久子	新里 ファビアナ カルメン	安座真 喜屋武 シェイラー バトリシア	内田 グロリア	森 洋子
□ 403	玉城 米子	嘉数 清美	東田盛 美香子		

「ペンションキャロライナ」 7/22～7/23 宿泊者名簿及び部屋割表

ROOM No	氏 名				
101	川波 エンリッケ けんじ	屋宜 宣広 アレハンドロ	又吉 扶		
102	イタリアーノ チャンス けんいち	ジョーダン カミオ サワダ	幸地 長治		
103	亀甲 亀甲 たかし アレハンドロ	番園 亨	具志堅 靖知		
201	宮城 明子 ペアトリス	山城 杏奈	宇根 あみ菜		
202	大城 直美 マヤラ	岸本 ユカリ	金城 エリナ		
203	親川 千草 カサンドラ	大城 奈々	翁長 琴乃		
205	ジャンニー ブラジル	伊良部 夏美			
206	イズリー マケーナ ヴィカーシャ	ヤマシロ ミッシェル	金城 千尋	上原 麻衣	
207	仲里 国頭 エミ カロリーナ	斉藤 愛里			
208	ラックエル 笑美 コンドン	ゴンザレス 優子 エリザベス			
	大城 李理子	小那覇 祥子	玉城 美優	又吉 奈保子	
209	ジャスミン マリー ドレフド デ ヘス	城間 ひかる			
210	クリストファー ジョシア ワールターズ	伊地 侃海			
ペパーミント	牧志 啓和	松堂 忠頭	上間 勝盛	真栄城 秀之	
レモンラス	伊敷 久子	新里 ファビアナ カルメン	安座真 喜屋武 シェイラー バトリシア	森 洋子	内田 グロリア
サイド	玉城 米子	嘉数 清美	東田盛 美香子		

「沖縄レインボーホテル」 7/25 宿泊者名簿及び部屋割表

ROOM No	氏 名				
A 401	川波 エンリッケ けんじ	又吉 扶	イタリアーノ チャンス けんいち	伊地 侃海	
B 402	番園 亨	屋宜 宣広 アレハンドロ	ジョーダン カミオ サワダ		
C 501	亀甲 亀甲 たかし アレハンドロ	具志堅 靖知	クリストファー ジョシア ワールターズ	幸地 長治	
D 411	ラックエル 笑美 コンドン	宇根 あみ菜	宮城 明子 ペアトリス	ジャスミン マリー ドレフド デ ヘス	山城 杏奈
E 412	イズリー マケーナ ヴィカーシャ	大城 直美 マヤラ	金城 エリナ	大城 奈々	翁長 琴乃
F 511	金城 千尋	上原 麻衣	ヤマシロ ミッシェル	岸本 ユカリ	伊良部 夏美
G 512	斉藤 愛里	仲里 国頭 エミ カロリーナ	大城 李理子	親川 千草 カサンドラ	又吉 奈保子
H 611	ジャンニー ブラジル	玉城 美優	ゴンザレス 優子 エリザベス	小那覇 祥子	城間 ひかる
O 415	牧志 啓和	松堂 忠頭	上間 勝盛	上原 善彦	
△ 612	伊敷 久子	新里 ファビアナ カルメン	安座真 喜屋武 シェイラー バトリシア	内田 グロリア	森 洋子
□ 403	玉城 米子	嘉数 清美	東田盛 美香子		

海外ウチナー通信

沖縄の文化学びたい

ジュニア
スタディー ミシエル山城さん選任

アメリカ

今年のジュニアスタディーツアー参加者にアメリカ大陸から五人が選ばれ、そのうちロサンゼルス地域からはミシエル山城さんが選任された。

ミシエルさんにとって、まだ見ぬ曾祖父の出身地、夢に何度も出てきた沖縄の島々。夢を

実現するために、今年度のジュニアスタディーツアーに



ジュニアスタディーツアーに参加することになったミシエル山城さん。県人会若年部の公演にも参加している。トランプ市のアムストロング劇場

現できる日がやがてやって来る、ルーツを探し求める日がやって来るのである。曾祖母は十七歳で故郷の久米島を後にして、より良い生活を求めてペルーへ移住。苦難の日々の中でもいつも沖縄の民謡を口ずさんでいたという。

沖縄県観光商工部交流推進課は本年度のジュニアスタディーツアー海外参加者を募集、十四歳から十八歳までの中高校生を対象として、海外参加者十七人、海外引率者五人、沖縄県内参加者十八人の合計四十人を発表した。七月十四日から二十七日まで、ホームステイなども含めて、自然や歴史、文化、平和などのプログラムを取り入れて、ジュニアたちに体験学習を実施する予定。

ミシエルさんの両親はペルーのリマ市生まれで、のちにアメリカへ一家で移住した。ミシエルさんはアメリカ生まれの日系四世。現在高校一年生で、学校では演劇、テニス、ガブリオ海洋博物館のガイド、クラブ活動は日本語部長を務めており、創設者でもある。

週末には真境名愛子琉舞道場で琉球舞踊の練習に励む。「加那コ」などを踊っていると、曾祖母が自分の手を取って一緒に踊っている様子が目に浮かんでくるといふ。弟は石原民謡研究所で三線を習っている。歌手のアルベルト城間さんは叔父にあたり、ミシエルさん自身は「ビギン」の「島人ぬ宝」が大好きだ。

「ツアーが終わったら本を書きたい。私の家族には知らないことがたくさんあるので、私の心の古里『沖縄』についての情報を記載してみんなに読んでもらいたい。沖繩の文化の素晴らしさを多くの人々に紹介したい。将来は小児科の医者になり、国境なき医師団の一人になって、世界の病む子供たちを助けたい」と、ミシエルさんは目を輝かせた。

(当銘員夫通信員)

通信 海外ウチナー

心は既に沖縄へ

ジュニア・ツアー 亀甲君と仲里さんに決定



れることになった。

ペルー沖縄県人会では

市系Ⅱと仲里エミさん 験してきたジュニアたち

今年で五回目を迎えたこのほど、日系新聞紙上でツアー参加希望者を募った結果、二十四人の応募があり、その中から亀甲たけし君（右）と仲里エミさん（左）の二人が選ばれた。二人はペルー沖縄県人会のジュニア・スタディー・ツアー（開催期間七月十四日～二十七日）に今年も参加する。二人はペルー沖縄県人会のジュニア・スタディー・ツアー（開催期間七月十四日～二十七日）に今年も参加する。二人はペルー沖縄県人会のジュニア・スタディー・ツアー（開催期間七月十四日～二十七日）に今年も参加する。

ジュニア・スタディー・ツアーへの参加が決まった亀甲たけし君（右）と仲里エミさん



る性格の持ち主だ。

このツアーは、二〇〇一年の第三回世界のウチナーンチュ大会のプレイベントとして始められた。海外と国内外の同年代のジュニアたちを一同に招待し、ツアーやホームステイを通して交流を深めるとともに、沖縄の歴史、文化、自然、平和など体験学習を通して理解を深め、ウチナーンチュとしてのアイデンティティを高めるのが狙い。

これまで、ツアーを体

中、ペルー民族舞踊を披露するため特訓を受けているが、心はもう既に沖縄にある。
(赤嶺光弘通信員)

海外 World
Okinawa
沖縄

ウチナー ワールド ネットワーク

「沖縄の青い海が楽しみ」

ジュニアツアー参加のクリストファー君



県人会が激励会開く

アメリカ

【朝子保久村モートン通信員】フロリダ州ミルアスタディーツアーに参加のハービーさん(左)と園美屋比久ポーターさん(右)と与那原町出身の励会を行った。会員らは

夫妻宅で三日、フロリダ沖縄県人会の昼食会が開かれ、県の本年度ジュニア

県のジュニアスタディーツアー派遣で激励されたクリストファー君(前列中央)。彼の左は母のジャクリンさん右は祖母の文字阿波根ヒューズさん

会にはなくてはならない」と喜び、「祖母の家族に初めて会うので楽しみ。世界中のウチナーン族に琉舞や日舞を指導している。夫のフランクとヒューズさん(左)と二人暮らし。ジャクリン・マックリントンさんの息子がクリストファー君だ。母親のジャクリン・マックリントンさんは「ツアーを企画した沖縄

沖縄の話をしたり、クリストファー君にウチナーグチを教えたりと楽しく過ごした。二〇〇一年度の同ツアーに参加した大

同ツアーは海外県系子弟を沖縄に招待し、県内の子ともたちと交流させて沖縄を学んでもらい、次世代の人材育成に貢献することを目的に毎年沖縄で開催している。クリストファー君は沖縄や日本を訪れたことがなく、ツアーを楽しみにしている。「サーフィンや釣りが大好きだから写真で見た沖縄の青い海が見たい。本で知った沖縄の自然に触れてみたい」と話した。

祖母の文字阿波根ヒューズさん(左)は、うるま市(旧石川市)出身。国際結婚し、娘ジャクリンさん(右)を産み、渡米。フロリダ沖縄県人

孫には、私と娘ジャクリンが生まれた沖縄で歴史や文化、平和学習をしっかりと学んでほしい」と話した。

県系人子弟17人が来県 ジュニアスタディーツアー



ジュニアスタディーツアーの参加者を稲嶺知事らが激励した歓迎式＝県庁

海外県系人の子弟が県内の生徒たちと交流しながら沖縄の歴史、文化などを学ぶ「ジュニアスタディーツアー」(主催・県)の歓迎式が二十一日、県庁で開かれた。稲嶺恵一知事は「ツアープログラムに積極的に取り組み、親交を深め、世界と沖縄を結ぶ懸け橋になることを目指して頑張ってください」と激励した。

海外参加者を代表して、亀甲亀甲たかしアレハンドロさん(ペルー)は「ツアーを通して沖縄の歴史や文化への理解を深めたい」と意欲。県内参加代表の宇根あみ菜さん(浦添高三年)は「一生涯忘れない思い出をつくりたい」と話した。

本年度の同ツアーには、米国やブラジルなどに住む県系人子弟十七人、県内の中高校生十九人が参加。二十一日から二十七日までの日程で、沖縄の歴史的な史跡を見学するほか、伝統工芸・芸能の体験学習、沖縄の戦跡などを見て回る。

沖縄タイムス 7月22日(金)

文化や歴史学びたい 県系人子弟招待で歓迎式



名前を紹介され、手を挙げるジュニアスタディーツアーの参加者＝21日、県庁1階県民ホール

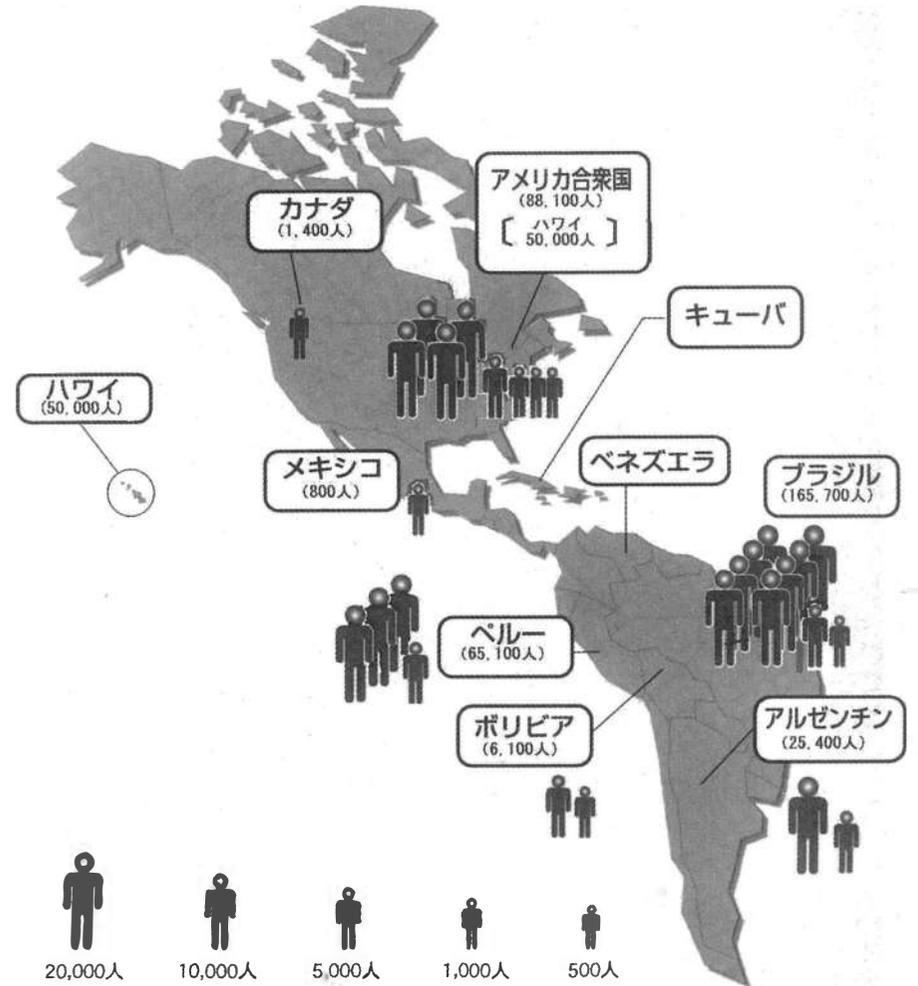
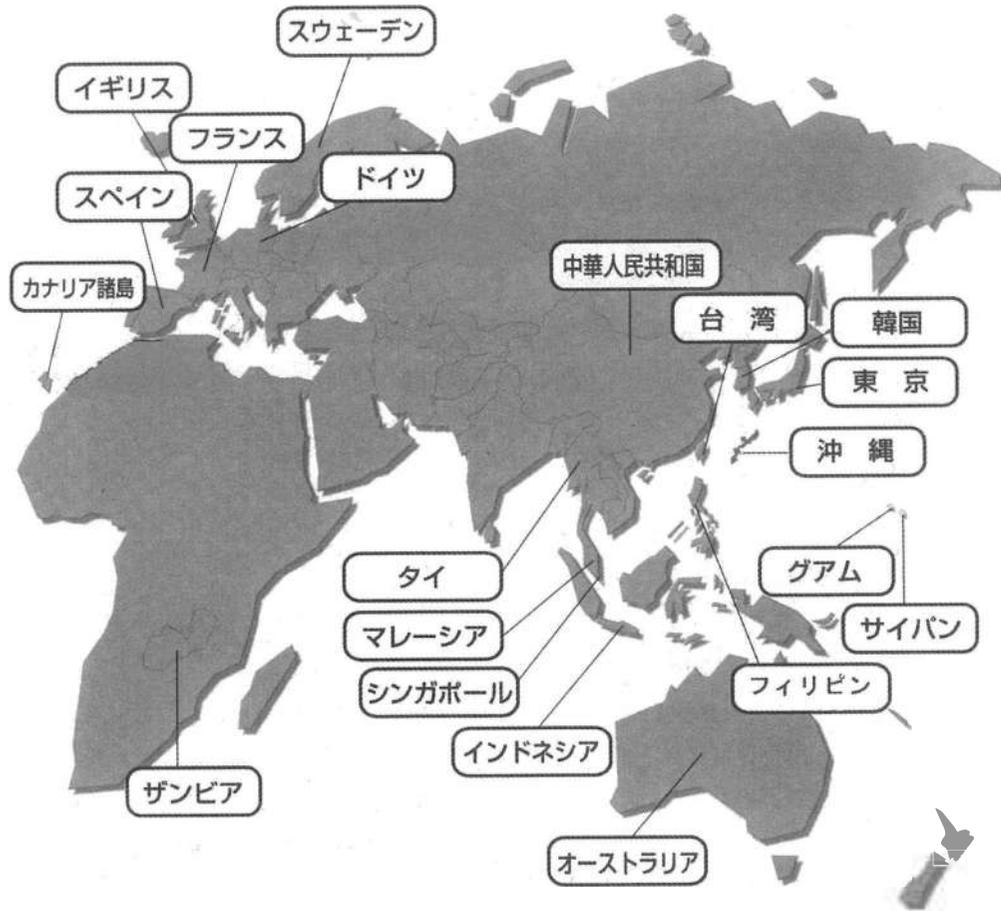
海外に在住する県系人子弟を招待し、県内の学生と一緒に沖縄の歴史、文化、自然体験学習などを行う「二〇〇五年度ジュニアスタディーツアー」の歓迎セレモニーが二十一日、県庁一階の県民ホールで開かれた。稲嶺恵一知事は「多く

の人と親交を深めてほしい」と歓迎。参加者を代表してペルーの亀甲亀甲たかしアレハンドロさん(八)が「沖縄の文化、歴史、自然を学びたい」とあいさつした。

ツアーには八カ国から十七人の若者と県内の中高生十九人が参加している。二十七日までの日程で琉球舞踊、三線、サバ二などの伝統芸能体験や首里城見学などを行う。

琉球新報 7月22日(金)

世界で活躍するウチナンチュ



国際交流関連業務概要より抜粋

(財) 海外日系人協会事業概要の海外日系人数 (1997年) 及び外務省大臣官房領事移住部「海外在留邦人調査統計」における海外日系人数 (2002年) に基づく県系人の推計。

平成17年度 ジュニアスタディーツアー報告書
(平成 18年 1月 発行)

発 行／沖縄県観光商工部交流推進課
〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2
TEL 098-866-2479 FAX 098-869-9073

印 刷／沖縄県コンベンション事業協同組合
沖縄コロニー印刷